

2E57

緒方病院院長醫學士  
大阪慈惠病院醫學校顧問  
宮内眼病院長  
大阪慈惠病院醫學校講師

緒方收二郎閱  
宮内重志講義

# 眼科學講義 全

非賣品  
宮内眼病院藏版



眼科學講義 全

緒方病院院長醫學士 緒方收二郎 閱  
大阪慈惠病院醫學校顧問  
宮内眼病院長  
大阪慈惠病院醫學校講師 宮内重志 講義

非賣品 宮内眼病院藏版



頃者学友之内志君自著眼科学講義を携へ  
来りて予小一言を題せんを需む、抑之予也君  
と共に大阪慈惠病院醫学校にありて学生教授  
の任に當れり、予小して君が著に序するを聊か  
憚る所を記に能らず、然れども程思ひて茲小出  
を以て吾が本校に對するの衷情述べ能わざる  
所阿れたまふ。

回顧されし醫學士緒方収二郎、今村田豐作、今  
江口襄乃諸君及至予等が本校を創設せしは距今



七年の以前にあり、當時數十乃學生を募集し、  
蕪病院乃一隅に講筵を弄る也、時に君は本院の  
醫務主任多し、爾來病院及至醫學學校は群疑を  
排し百難不堪へ、遂に今日乃如坐幾千の患者  
を療し兼て数千百乃醫士を出生乃隆譽を東せ  
る者也、全之會費及至講師、諸君の熱心也、誠實  
也、以て社會の信用を博するを得多るに因由せら  
るにあらざ也、

學友宮内君表君此完備せる病院醫學學校に於て、

患者診療の傍に眼科講師として學生を薰陶し、  
日夜奮勵以て事に従ふ為々斯の道の進歩を計  
る、余更に學生の爲め、其教科書を編纂せら  
る、予等同輩豈に本校の爲めに努めざる可け  
んや、

此書君が熱血を注ぎて學生に口授せし乃講本多  
し、書中提要簡明易ら理解し易たを告せし、務  
免て繁冗濛濛の弊を避けられ多る、予の景を  
同意を表す乃取服す、思ふに此書梓上らば



後進の便を得ば甚だ喜かばるる、本校に  
對する君の効亦甚だ喜かばるる、茲に聊か予の  
感懷を述べて序言に代へ、併せて本校前途の昌  
運を祝せしむ云爾、

明治三十二年十二月

大阪慈惠病院醫學學校々長

ドクトル 緒方正清 誌

### 自序

此書ハ予ガ大阪慈惠病院醫學學校ニ於テ、講  
演シタル眼科學ノ「メモランダム」ニシテ、今  
回生徒諸氏ガ請ニヨリ、鉛槧ニ上セタルモ  
ノナリ、故ニ書中記スル所、主トシテ簡明ヲ  
貴ビ、勉メテ初學者ニ眼科ノ大要ヲ理解セ  
シメンコトヲノミ注意シ、高尚ノ理論未定  
ノ爭議等ハ之レヲ省略シ、予ガ多年ノ經驗  
ニヨリテ實地上ニ必要ト認メタル治驗、手



術方法及ゼ二三ノ研究成績ヲ載録セルノ  
ミニシテ、眼科學上ニ於ケル未定ノ爭議ニ  
關スル予ノ意見ハ此書中ニ記述スルナ  
シ、

明治卅二年十二月中旬

宮内重志誌

### 例言

- 一 本書ヲ前後ノ二篇ニ別テ一冊ト爲シ纏讀ノ便ヲ計リ圖式ハ別冊トシテ附ス
- 一 屈折異狀及ヒ眼筋麻痺等ノ諸篇ハ幾多ノ教科書ヲ見ルモ一讀了解シ難キ處ナリ殊ニ予ガ苦心シタルハ實ニ此篇ニアリ
- 一 本書中○点或ハ●点ヲ附スルハ殊ニ注意ヲ要スベキ部ナリ
- 一 治療總論并ニ各論治療ノ部ニ於テ單ニ亞



水又ハ硫亞水トアルハ亞篤魯比涅水又硫  
酸亞鉛水ノ略字ト知ル可シ他ハ其例ニ從  
フ

一附録圖式ハ單ニ手術式及ヒ病的變狀ノ一  
般ヲ示スモノナレバ其体裁ト飾粧ヲナサ  
ズルモノト知ル可シ

一本書中圖解ヲ爲サル部ハ圖式ニ其大略  
ヲ示ス



眼科學講義前編目次

第一章

診斷法	……	一
斜照法	……	三
中心視力檢查法	……	四
光神檢查法	……	五
視野檢查法	……	六
色神檢查法	……	八
檢眼鏡檢查法	……	九
(一)檢眼鏡ノ論理	……	十
(二)檢眼鏡ノ種類	……	十一
(三)檢眼鏡ノ用法	……	全
(甲)直像檢查法	……	十二
(乙)倒像檢查法	……	十三



徹照法	十五
檢眼鏡的屈折檢定法	十六
(甲)直像檢定法	全
(乙)倒像檢定法	十七
眼底ノ生理的常態	十八
眼底ノ高底ヲ知ルノ法	十九
視差移動	二十
檢影法	二十一
<b>第二章</b>	
<b>治療總論</b>	二十三
(一)瞳孔散大藥及ニ收縮藥	全
(二)麻痺藥	二十四
(三)收斂藥	二十五

(四)毒法	全
(五)蒸氣露撤法	二十六
(六)瀉血法	全
(七)防腐劑	全
(八)綳帶	二十七
(九)注射藥處方	二十八
(十)外科的手術	全
(十一)內服藥處方	全
(十二)驅梅毒療法	三十
(十三)器械	三十二
(十四)電氣療法	三十三
<b>第三章 結膜諸病</b>	
結膜充血論	全



(一) 結膜充血	三十四
(二) 加答兒性結膜炎	全
(甲) 急性加多兒性結膜炎	
(乙) 慢性結膜炎	
(三) 膜漏性結膜炎	三十七
(四) 格魯布性結膜炎	四十三
(五) 實扶的里性結膜炎	四十四
(六) 水泡性結膜炎	四十八
(七) 濾胞性結膜炎	五十一
(八) トヲホーム	五十三
(甲) 急性トヲホーム	
(乙) 慢性トヲホーム	
(九) 軍陳眼炎	六十七
(十) 春季加多兒	全

第四章 角膜諸病

(十一) 結膜乾燥症	六十八
(十二) 結膜翼狀贅片	六十九
(十三) 結膜下溢血	七十一
(十四) 結膜天疱瘡	全
(十五) 結膜澱粉樣變性	全
(十六) 眼球癒着	七十二
(十七) 結膜損傷	全
(十八) 結膜潰瘍	七十三
(十九) 結膜腫瘍	全
角膜炎總論	七十三
各論	七十五
(甲) 無膿性ノ	全



(一)水泡性結膜炎	全
(二)角膜ヘルペス	七十六
(三)小泡性角膜炎	七十七
(四)点状角膜表層炎	全
(五)角膜パンマス	全
角膜周圍切除法	八十六
(六)角膜實質炎	全
(七)硬化性角膜炎	八十四
(八)帶狀角膜炎	八十五
(九)外傷性角膜炎	全
(十)点状角膜炎	全
(乙)化膿性ノモノ	全
(十一)角膜膿瘍	八十六
(十二)角膜潰瘍	八十八

(イ)單性潰瘍	
(ロ)葡行性潰瘍	
(ハ)蠶蝕性潰瘍	
(ニ)枝狀性潰瘍	
(ホ)吸収性潰瘍	
角膜穿孔術	九十五
(十三)神經麻痺性角膜潰瘍	九十六
(十四)兔眼性角膜潰瘍	全
(十五)角膜乾燥症及ヒ角膜軟化症	全
(十六)角膜翳	九十八
剝刺術	九十九
(十七)角膜葡萄腫	百
全葡萄腫切除術	百二
(十八)圓錐角膜	百三



(十九) 球狀角膜 ..... 百四  
 (廿) 小角膜 ..... 全  
 (廿一) 角膜腫瘍 ..... 全

第五章 虹彩病諸

(一) 散瞳症 ..... 百六  
 (二) 縮瞳症 ..... 百七  
 (三) 虹彩充血 ..... 百八  
 (四) 虹彩炎 ..... 百九  
 (甲) 成形性虹彩炎  
 (乙) 漿液性虹彩炎  
 (丙) 化膿性虹彩炎  
 (一) 護膜性虹彩炎  
 (二) 結核性虹彩炎  
 (三) 癩病性虹彩炎

(五) 虹彩腫瘍 ..... 百十七  
 (六) ヒツプーヌ ..... 百十八  
 (七) 虹彩震盪症 ..... 全  
 (八) 虹彩先天性異狀 ..... 全  
 (九) 虹彩外傷 ..... 全  
 虹彩切除術 ..... 百十九

第六章 毛樣體及ヒ脈絡膜諸病

(一) 毛樣體炎 ..... 百二十二  
 (甲) 成形性毛樣體炎  
 (乙) 漿液性毛樣體炎  
 (丙) 化膿性毛樣體炎  
 (二) 脈絡膜炎 ..... 百二十六  
 (甲) 漿液性脈絡膜炎  
 (乙) 成形性脈絡膜炎



(三)全眼球炎	百二十九
(四)交感性眼炎	百三十一
眼球摘出術	百三十四
眼球內容除去法	百三十五
視神經及毛樣神經切除術	百三十六
(五)脈絡膜腫瘍	全
(六)先天性異狀	百三十七
第七章	
綠內障	百三十七
(甲)原發性綠內障	
(一)急性炎性綠內障	
(二)慢性炎性綠內障	
(三)單性綠內障	
(乙)繼發性綠內障	

第八章 鞏膜諸病	
(一)上鞏膜炎	百四十八
(二)鞏膜膨張症	百四十九
(一)全鞏膜膨張症	
(二)局處鞏膜膨張症	
(甲)后葡萄	百五十
(乙)前葡萄	百五十三
第九章 眼瞼諸病	
(一)眼瞼皮膚ノ炎症	百五十四
(二)眼瞼腫瘍	全
(三)瞼緣疾患	
濕疹一名眼瞼緣炎	百五十五
(四)瞼線ノ疾病	



(一) 麥粒腫 : : : : : 百五十六

(二) 霰粒腫 : : : : : 全

(五) 眼瞼筋層ノ疾病

(イ) 眼瞼痙攣症 : : : : : 百五十七

(ロ) 眼瞼輪匠筋麻痺 : : : : : 百五十八

(ハ) 上眼瞼下垂症 : : : : : 百五十九

(六) 眼裂ノ疾病 : : : : : 百六十

(七) 睫毛變位

乱毛症 : : : : : 百六十一

(八) 眼瞼變位

(イ) 眼瞼内翻症 : : : : : 百六十五

(ロ) 眼瞼外翻症 : : : : : 百六十六

第十章 淚器諸病

(一) 淚腺疾病 : : : : : 百六十七

眼科學講義後編目次

第十一章 網膜及視神經諸病

(一) 網膜充血 : : : : : 百七十八

(二) 網膜貧血 : : : : : 百七十九

(三) 網膜炎 : : : : : 全

總論

各論



(イ)單純網膜炎	百八十二
(ロ)梅毒性網膜炎	百八十三
(甲)梅毒性單純網膜炎	全
(乙)梅毒性脈絡網膜炎	百八十四
(丙)再發性中心網膜炎	百八十五
(ハ)蛋白尿性網膜炎	百八十七
(ニ)糖尿性網膜炎	百九十一
(ホ)白血病性網膜炎	全
(ヘ)惡性貧血症ニ因スル網膜炎	全
(ト)白濁点狀網膜炎	全
(チ)增殖性網膜炎	全
(四)中心動脈栓塞	全
(五)中心靜脈血栓	百九十四
(六)網膜出血	全

(七)色素性網膜炎	百九十七
(八)網膜剝離症	百九十九
(九)網膜膠腫	二百二
(十)網膜有髓纖維	二百七
(十一)乳頭充血	全
(十二)鬱血乳頭	二百八
(十三)下行性視神經炎	二百十
(十四)眼球后外視神經炎	二百十一
(十五)視神經消耗症	二百十四
(甲)純正視神經消耗症	全
(乙)網膜炎性消耗症	二百十七
(丙)視神經炎性消耗症	二百十八
乳頭陷凹ヲ起ス疾病及ヒ症候鑑別	全

第十二章 弱視及ヒ黒内障



(一)先天性弱視 : : : : : 二百二十一

(二)不用性弱視 : : : : : 全

(三)眼筋痙攣症性弱視及レ黒内障 : : : : 全

(四)暫時性局處黒内障 : : : : : 二百二十二

(五)歌私的里性弱視及レ黒内障 : : : : : 全

(六)煙草及レ酒精中毒性弱視 : : : : : 全

(七)鉛中毒規尼涅中毒尿毒性 : : : : : 全

(八)失血性黒内障 : : : : : 二百二十三

(九)外傷性及レ反射性弱視 : : : : : 全

第十三章

(一)半盲症 : : : : : 全

(二)夜盲症 : : : : : 二百二十五

(三)晝盲症 : : : : : 二百二十七

(四)色盲症 : : : : : 全

第十四章 硝子体諸病

(一)硝子体溷濁 : : : : : 二百三十

(二)硝子体融解症 : : : : : 二百三十一

(三)硝子体出血 : : : : : 全

(四)硝子体異物竄入 : : : : : 二百三十二

(五)硝子体胞蟲 : : : : : 二百三十三

第十五章 水晶体諸病

(一)白内障

(甲)先天性白内障 : : : : : 二百三十五

(一)前水晶体囊白内障 : : : : : 二百三十九

(二)后水晶体囊白内障 : : : : : 全

(三)中心白内障 : : : : : 全

(四)紡錘狀白内障 : : : : : 全

(五)点狀白内障 : : : : : 全



(六) 先天性完全白內障 : : : : : 全

(七) 層間白內障 : : : : : 二百四十

(乙) 後天性白內障

(一) 水晶囊白內障 : : : : : 二百四十

(二) 核白內障 : : : : : 全

(三) 黑色白內障 : : : : : 全

(四) 蜜尿性白內障 : : : : : 全

(五) 皮質白內障 : : : : : 二百四十一

(六) 軟性白內障 : : : : : 全

(七) 老人白內障 : : : : : 全

(八) 外傷性白內障 : : : : : 全

各 論

層間白內障 : : : : : 二百四十一

軟性白內障 : : : : : 二百四十二

皮質白內障 : : : : : 二百四十三

老人白內障 : : : : : 二百四十四

白內障ノ手術

(甲) 壓下法 : : : : : 二百四十九

(乙) 截開法 : : : : : 全

(丙) 摘出術 : : : : : 二百五十一

線狀摘出術

(一) 單性線狀摘出術 : : : : : 二百五十一

(二) シロフエー氏周邊線狀摘出術 : : : : : 二百五十三

辨狀摘出術 : : : : : 二百五十五

(一) 單性辨狀摘出術 : : : : : 二百五十七

(二) 複性辨狀摘出術 : : : : : 二百五十八

(丁) 自他白內障ノ手術 : : : : : 二百六十三

(三) 后發白內障 : : : : : 二百六十四



(三)外傷性白內障 : : : : : 二百六十五  
 (四)水晶体欠亡症 : : : : : 二百六十六  
 (五)水晶体脱位症 : : : : : 二百六十八

第十六章 眼鏡ノ種類及ヒ光線屈折

(一)保護眼鏡 : : : : : 二百七十一  
 (二)裂孔眼鏡 : : : : : 全  
 (三)三稜鏡 : : : : : 全  
 (四)球面眼鏡 : : : : : 二百七十二  
 (甲)凸面鏡 : : : : : 全  
 (乙)凹面鏡 : : : : : 二百七十三  
 (五)フロンクソン氏眼鏡 : : : : : 二百七十六  
 (六)圓柱鏡 : : : : : 二百七十七

第十七章 屈折機及ヒ調節機

(一)眼球ノ光線屈折 : : : : : 二百七十八

(二)調節機能 : : : : : 二百八十四

第十八章 屈折機異狀及ヒ調節機異狀

總論 : : : : : 二百八十九  
 (一)老視眼 : : : : : 二百九十  
 (二)遠視眼 : : : : : 二百九十五  
 (三)近視眼 : : : : : 三百一  
 (四)亂視眼 : : : : : 三百十二  
 (甲)不正亂視 : : : : : 三百十三  
 (乙)正亂視 : : : : : 三百十四  
 (五)調節麻痺 : : : : : 三百二十六  
 (六)調節痙攣 : : : : : 三百二十八

第十九章 眼筋諸病

眼球生理的運動 : : : : : 三百三十  
 眼筋一覽表 : : : : : 三百三十一



(一)眼筋麻痺……………三百三十七

各論

(甲)外直筋麻痺……………三百四十八

(乙)上斜筋麻痺……………三百四十九

(丙)動眼神經麻痺……………三百四十九

(一)內直筋麻痺……………三百五十

(二)上直筋麻痺……………全

(三)下直筋麻痺……………三百五十一

(四)下斜筋麻痺……………全

(二)眼筋痙攣症……………三百五十二

(三)眼球震盪症……………全

(四)共同偏視……………全

斜視……………三百五十三

第二十章

斜視ノ手術

(甲)后轉法……………三百五十九

(乙)前轉法……………全

手術ノ效果……………三百六十一

(二)內直筋作用不全症……………三百六十二

第廿一章 眼窩諸病

(一)眼窩蜂窠織炎……………三百六十四

(二)眼窩骨膜炎……………三百六十五

(三)テノノ氏囊炎……………全

(四)眼靜脈血栓……………全

(五)眼窩内腫瘍……………全

(六)ハセトウ氏病……………全



# 眼科學講義前編

緒方病院長醫學士  
大阪慈惠病院醫學校顧問  
宮内眼病二院長  
大阪慈惠病院醫學校講師  
大阪慈惠病院醫學校生徒

緒方収二郎 閱  
宮内重志 講義  
筆記

## 第一章 診斷法

大凡眼病ノ部位ト性質トヲ確知スル處ノ徵候ヲ分チテ二種トス其一ハ器質的變  
狀ヲ察知スル者ニシテ他覺的症候ト云ヒ其一ハ病的感覺ヲ枚擧スル者ニシ  
是レヲ自覺的症候ト云フ凡テ眼病ヲ診斷スルニモ亦一定ノ順序ナカルヘカラス  
先ツ患者ニ自覺症ヲ尋テ大畧其部位ヲ察シ次テ他覺的診查ヲ行フヘシ

- (一)眼瞼ハ其形狀瞼裂ノ大小睫毛ノ正乱閉鎖ノ全不全涙囊炎ノ有無ヲ診查ス
- (二)結膜殊ニ眼瞼結膜ハ最モ病處ナレハ最モ注意ヲ要ス之レヲ檢スルニ  
ハ眼瞼ヲ反轉スルニアリ若シ著シク腫起スルカ或ハ小兒ニアリテハ(テスマル)氏



開檢器ヲ以テス

(三)眼球 ハ其運動及ヒ結膜ノ浮腫充血ノ有無ヲ檢スヘシ充血アレハ角膜周圍部ニ甚シキヤ否ヤニ注意シ若シ周圍部ニ充血著シケレハ角膜又ハ葡萄膜ニ炎症アルト知ルヘシ

(四)角膜 ハ其面ノ凸凹及ヒ潤濁血管ノ有無等ヲ檢スヘシ凸凹ノ不正ハ角膜計ヲ以テ檢シ潤濁ハ斜照法ヲ以テセハ能ク診定シ得ルナリ

(五)前房 ハ其深淺廣狹及ヒ其内面ニ斑点ナキヤ否ヤヲ檢ス

(六)虹彩 ハ其色澤織紋及ヒ癒着ノ有無ヲ檢ス

(七)瞳孔 ハ其形狀大小及ヒ反應等ヲ檢シ而シ瞳孔ハ直徑四密迷ヲ常トス然レモ左ノ關係ニ由リテ多小ノ差異アリ即チ年齡長光線強視距近ナレハ小ナリ之レニ反スレハ大ナリ今連子ヲ以テ光線ヲ瞳孔領ニ送り連子ヲ一進一退スレハ瞳孔ハ縮小開大ス之レヲ瞳孔ノ直達反應ト云フ夫レト共ニ他眼モ亦同一ノ反應ヲ呈ス之レヲ同感性反應ト云フ

末項ノ四局部ハ斜照法ヲ以テセハ一層僅微ノ微候モ詳カニスルヲ得ルノ利益アリ

### 斜照法

斜照法 ハ瞳室ニ於テ十二乃至十三Dノ凸面連子ヲ以テ燒火ヲ集合シ斜ニ角膜ヲ照スモノトス此法ニ據ルルハ僅微ノ變狀モ尙ホ且ツ詳カニ檢知シ得ルナリ健全ナル角膜モ時トシ潤濁スルカ如キ感アリ殊ニ老人ニ於テ尙ホ然リ

(八)水晶體 ハ元來透明ナレモ年長スレハ硬固トナリテ光線ヲ反射スルヲ強シ爲メニ灰白色ヲ呈シ白内障ト疑フコトアリ凡テ水晶體ヲ檢スルニハ斜照法又ハ徹照法ニ據ルヘシ

(九)眼球内壓 ナ檢スルニハ指觸法ニ據ルヲ良トス即チ兩眼險ヲ輕ク閉鎖シ左右ノ示指ヲ上眼險ノ上ニ置キ交々指壓ヲ試ミ兩眼相比較シテ内壓ノ強弱ヲ察スヘシ兩眼共ニ強クシテ疑アルハ醫士自身ノ眼球ニ比較スベシ

(十)視覺機能ノ檢査

(十一)檢眼鏡檢査

末項二條項ハ診斷法中尤モ必要ニシ且ツ複雑ナルモノナレハ更ニ條項ヲ設ケテ詳細ニ論セント欲ス



### 中心視力検査法

視力健全ナルモノハ初メ屈折異常ノ有無ヲ檢シ若シ異常アリトセハ之レヲ矯正セサルヘカラス若シ異常ナケレハ眼球内ニ異常アルモノト推知スヘシ視力ヲ檢スルニハ斯涅兒連氏視力表ヲ以テス該表ハ文字又ハ鈞劃ヲ記シ新舊ノ二式アリ舊式ハ二百號ヲ尤大字トシ二十號ヲ尤小字トス新式ハ六十號ヨリ六號ニ至ルコアリ

之レヲ檢スルニ斯氏視力表ヲ憲ニ對シ被檢者憲ヲ背ニシ其位置ヲ定ム而メ被檢者ノ位置ヲ進退スルハ大ニ煩雜ニ涉ルヲ以テ斯氏ハ一定ノ距離ヲ定メ即チ貳拾フート(六メートル)ノ距離ニ於テ明視シ得ヘキ尤小文字ノ記號ヲ分母トシ其距離ヲ分子トシ其距離ニ代ユルニ健眼ヲ以テ視得ヘキ番號即チ貳十號ヲ以テスルモ可ナリ例ハ二十フートニ於テ二十號ヲ明視スレハ健眼ニメ20/20(6/6)若シ貳百號ニアラサレハ明視シ難キハ20/200(6/60)又四十號ヲ明視スルモ其以下ヲ認メ難キハ20/40トスルカ如シ

中心視力ハ年齢及各人ニ就テ多少差異アリ又光線ノ強弱ニ關係ス

若シ二百號ヲ辨シ難キハ指數ヲ問ヒ幾干距離ニ於テ指數ヲ辨ストシ其指數ヲモ辨シ難キハ眼前ニ於テ手動ノ如何ヲ問フ尙ホ辨シ難キハ光覺力ヲ検査スヘシ

中心視力ハ黃斑部ノ機能ニ就中其中心窩ニ於テス此部ハ專ラ圓錐体ヨリ成リ以テ光線ヲ感受ス圓錐体ハ大凡ソ○○○四八密迷ノ横徑ヲ有セリト云フ是レ視角一分ニ相當スルモノナリ若シ圓錐体ノ横徑尙ホ小ナリトセハ視力ハ今ヨリ一層敏捷ナルモノナラン

### 光神又ハ光覺力検査

光神ハ視力ト同一ナルモノ、如シト離色素ヨリ以テ同一ノモノニアラス爰ニ甲乙二人アリ視力ハ同ク健全ニシテモ差異アルコトナシ然ルニ同室内ニ在リテ均シク光明ヲ減スレハ甲ハ乙ヨリ急ニ物体ヲ辨セサルニ至ル之レ甲乙ノ間多少光神力ニ差異アル一例ナリ

光神減損ノ原因ハ網膜外層ノ細胞侵サル、微ニノ脈絡膜網膜等ノ疾病ニ來タル固有ノ症候ナリ



### 視野検査

眼ノ物体ヲ視ルヤ其注視スル處ハ最モ明ニシテ中心視力ト云フ其周邊ニアリテモ尙ホ物体ノ存在ヲ辨視スルヲ得之レテ周邊視力ト云フ而シテ周邊視力ハ漸次其周圍ニ至ルニ從テ減少シ遂ニ全ク視ル能ワサルニ至ル之レヲ外界ト云フ其界内ヲ視野ト云フ第一圖ノ如シ

(二)外界 大凡視野ノ外界ハ人種或ハ各人ニ於テ稍々異ナル處アリ然ルニ余ハ醫學士緒方收二郎君ト共ニ本國人數十名ニ就テ調査セシ結果ニ據レハ平均左ノ表ヲ爲セリ視野ノ廣狹ハ鼻梁ノ高底眼瞼ノ垂舉限窩縁ノ高底瞳孔ノ大小等ニ關係ヲ有ス視野ヲ計ルニハ視野計ナルモノアリ目下一般ニ仕用セラル、モノハ(フホルステル)氏視野計ニシテフット半徑ヲ有スル半輪狀ニシテ中心ノ零点ヨリ各方九十度アリ輪ハ四方ニ回轉ス眼ヲ固視点ニ置キ零点ヲ注視セシメ輪ニ裝置スル小白紙ヲ移轉シ

方 色	表 力 視							
	外	内	上	下	外上	内下	内上	外下
外界	90	60	60	70	70	60	60	80
青	70	50	50	55	55	50	50	70
赤	60	45	40	45	50	45	40	55
綠	50	35	35	35	35	35	35	40

其辨スル能ワサルニ至リテ外界ノ度トス視野計ヲ備エサル輩ハ尤モ簡易ナル法アリ即チ我ト患者ハ相對坐シ其間ニ左右ノ兩指ヲ籠キ之レテ動力シツ、上下左右ニ開轉スルニ我ハ未ダ指動ヲ辨スルモ彼レハ己ニ之レテ辨セス之レ即チ彼レハ我ヨリ視野ノ狭小ナルヲ知ルニ足レリ  
視野ハ眼底諸病ノ診斷ニ尤モ必要ナルモノニシテ諸般ノ疾病ニ由リ種々ノ變狀ヲ爲スモノナリ

- (イ)同心性狭縮 ハ視野ノ周圍ヨリ均シク縮小セルモノニシテ其尤モ著明ナルモノハ色素性網膜炎之レナリ第二圖ノ如シ
- (ロ)截痕狀視野欠損 ハ視野ノ縮小不正形ノ欠損ヲ爲スモノニシテ視神經消耗症ニ多シ第三圖ノ如シ
- (ハ)半盲狀視野欠損 ハ視野半ハ全ク欠損スルモノニシテ視神經行路ニ於テ損害ヲ蒙リ爲メニ來タルモノニシテ半盲症ニ見ル處ナリ
- (ニ)列孔狀視野 ハ視野ノ左右或ハ上下ヨリ著シク欠損シ遂ニ細長ナル形ヲ爲スモノナリ之レ多ク線内障ノ末期ニ見ル



(ホ)暗点ハ視野ノ一部ニ欠損ヲ生スルモノニシテ若シ中心ニアレハ中心暗点ト云ヒ輪狀ヲ爲セハ輪狀暗点ト云ヒ周圍部ニ於テ一局處ニアレハ周邊暗点ト云フ暗点ヲ患者自ラ視認スルモノヲ實性暗点ト云ヒ之レヲ檢スルニハ白紙ヲ見セシメ眼ノ運動ニ由リ暗点ヲ動クヲ見ル之レ網膜脈絡膜硝子体水晶体ノ疾病ニ見ルノ尤モ多シ若シ自然ニ暗點ヲ見ルノ能ワス視野計ニ據リテ初メテ見得ルモノヲ虚性暗点ト云フ視神經ノ疾病ニ多シ暗点部全ク暗黒ナルモノヲ眞性暗点ト云ヒ尙ホ多少光明ヲ有スルモノ比較的暗点ト云フ凡テ周邊暗点ハ疾患所在ノ部位ト反對ノ方位ニ現ハルモノトス第四圖ノ如シ

(二)色神視野ノ廣狹ハ色ニ從テ差異アリ其尤モ廣キモノハ青色ニシテ尤モ狭キモノハ綠色ナリ赤色ハ其中間ニ位ス視神經ノ疾病ハ一般ニ視野ノ縮小スルハ勿論ナリト雖モ殊ニ色神視野ハ比較的早ク縮小スルモノナリ

色神検査

眼ノ色彩ヲ辨スル力ヲ色神又ハ辨色力ト云フ其欠損スルモノヲ色盲ト云フ色神ヲ検査スルニ種々ノ方法アリト雖モ尤モ社會ニ信用アルモノハ(ホルムグレン)氏

毛絲検査法ニシテ左ニ其方法ヲ論ス初メ患者ノ眼前ニ數十種ノ着色毛絲ヲ置キ左ノ順序ニ基キ検査スルハ何性ノ色盲ナルヤヲ診定スルヲ得ルナリ

(一)綠色ヲ検査ノ原色トシ之レト同様同調ノ色ヲ撰拔セシムルニ灰白色灰白黄色暗褐色等ヲ撰拔スルハ赤綠色盲ノ徵ナリ若シ右ノ外ニ赤色ヲモ撰拔セハ赤色ノ綠色ト共ニ同色ニ覺知スルモノナレハ尙ホ赤綠色盲タルヲ知ル又愈々綠色盲ノ他ニ赤色盲ヲ混有スルヤ否ヤヲ確定セント欲セハ排色ヲ原色トシ若シ青色或ハ紫色ヲ撰拔セハ赤色盲ヲ有スル徵ナリ如何トナレハ排色ハ赤青混合格ナルカ故ニ赤色トシテ見エスノハ青色トシテ應スルハ理ノ當然ナレハナリ又紫色トシテ撰ルハ其色タル多量ノ青色ト少量ノ赤色ヨリ成レハナリ

(二)青色ト黄色ヲ原色トシ撰拔セシムルニ若シ青色ニ對シテハ綠色黄色ニ對シテハ赤色ヲ撰拔セハ青ヲ綠ト黄ヲ赤トシテ撰マルモノナレハ之レ即チ青黄色盲ノ徵ナリ

(三)諸色ヲ只黑白ノ明暗ニ止マルハ各辨色力ナキモノニシテ之レ即チ全色盲ナリ

檢眼鏡検査法



夫レ檢眼鏡ハ一千八百五十一年吾カ嘉永四年(ヘルムホルツ)氏初メテ之レヲ發明シ大ニ眼科學ニ一大進歩ヲ與エラレタリ

(一)檢眼鏡ノ論理 吾人カ瞳孔平素黑色ナル理由ハ眼内ニ射入スル光線ハ其一分ハ吸收セラル、モ大部分ハ反射シテ光源ノ方位ニ歸ルモノナリ由テ其光路中ニ吾人ノ眼ヲ置クヲ得ハ敢テ眼内黑色ナルノ理ナカラン然レモ一ツノ方法ヲ用ユルニアラサレハ決テ反射光路ニ吾人ノ眼ヲ置クヲ能ワス之レ(ヘルムホルツ)氏ノ名聲天下ニ轟カシタル以所ナリ全氏ハ第五圖ノ如ク硝子板ニ斜ニ光線ヲ受ケ其大部分ハ通過スルモ小部分ハ硝子板ヨリ反射シテ眼内ニ入り眼底ヨリ反歸シ來タル光線ハ再ヒ硝子板ヲ通過シテ初メテ(ヘルムホルツ)氏ノ眼内ニ入り爰ニ於テ他人ノ眼内ヲ輝照シ得ラレタリ爾來種々研究ヲ經テ(エフケンズ)氏ハ中央ニ小孔ヲ有スル平面鏡ヲ用ヒ其後(リユーテ)氏(リーフライヒ)ノ両氏ハ中央ニ小孔ヲ有スル凹面鏡ヲ應用セリ爰ニ於テ反射鏡ヲ用ユルハ好ク眼内ヲ照スヲ得然レモ未ダ以テ眼内ノ狀況ヲ詳カニスルヲ能ハス之レ檢者ト被檢者ノ眼ニ於ケル屈折器ニ關係ヲ有スル者ナレハ次項ニ就テ熟考スレハ自ラ明瞭ナリ

### (二)檢眼鏡ノ種類

(ヘルムホルツ)氏以來諸家競テ檢眼鏡ヲ案出シ或ハ改良シテ今尙ホ其局ニ至ラズト雖モ昔日ヨリ今日ニ至リ世人ノ多ク仕用スルモノハ即チ(リーフライヒ)氏檢眼鏡之レナリ

(イ)リーフライヒ氏檢眼鏡ハ凹面鏡ニ其後部ニ連子ヲ相入スヘキ裝置ヲ有シ凹面矯正連子數枚ト十二乃ヒ十三屈光力ノ凸面連子二個ヲ備ユルモノナリ

(ロ)平面鏡ト凹面鏡ヲ兼備シ更ニ凸面連子二個ヲ有シ直像法及ヒ到像法何レニモ相交換シ用ユルニ便利ナルモノナリ

(ハ)両眼檢眼鏡(プリスマ)ノ作用ヲ備リ兩眼ヲ以テ兩眼底ヲ検査スル裝置ニ不用ノ器ナリ

(ニ)示教檢眼鏡ハ初學ノ徒ニ指示スルニ要ス

(ホ)屈折檢眼鏡ハ目下大ニ實用セラレツ、アリ且ツ諸家競テ改良ニ吸々スル處ナリ要スルニ眼底検査ニ兼テ眼球屈折變狀ヲ檢定スルニ用ユル裝置ニノ反射鏡ノ后部ニ凸凹連子數個ヲ圓板ノ周圍ニ並列スルモノナリ

### (三)檢眼鏡用法

之レヲ仕用スルニハ一定ノ準備ナカルヘカラス即チ瞳室ニ於テ



檢者ハ被檢者ト相對坐シ燒火ヲ被檢者ノ左側ニ於テ頭部ヨリ稍々后部ニ置キ眼ト同シ高サニアルヲ要ス爰ニ於テ檢者ハ檢眼鏡ヲ手ニス(眼底ヲ檢スルニハ瞳孔ノ散大ハ大ニ便利ヲ與フルモノナレハ預メ亞篤魯比涅水ヲ点眼スルヲアリ)以下檢者ヲ甲トシ被檢者ヲ乙トス

檢眼鏡ヲ用テ眼底ヲ檢査スル目的ニ二種アリ

**(甲)直像檢査法**

甲ハ光原ヨリ射來スル光線ヲ平面檢眼鏡ニ受ケ左指ノ拇指ト示指ヲ以テ乙ノ眼驗ヲ開キ光線ヲ乙ノ眼面ニ投射シ檢眼鏡孔ヨリ望視スルキハ乙ノ眼底ヨリ反歸スル光線ヲ受ケテ乙ノ眼底ヲ照輝スルヲ得然リト雖モ未タ以テ眼底ヲ明視スルヲ能ワス眼底ヲ明視セント欲セハ爰ニ二三ノ注意アリ如此シテ視ル像ハ眼底ノ直像ナリ

注意(一)甲ハ乙ニ近接セサルヘカラス

(二)甲乙共ニ調節機ヲ停止セサルヘカラス

(三)乙ハ必ス遠方ヲ見ル心持ニセサルヘカラス

(四)乳頭ヲ見ント欲セハ乙ハ少シク鼻側ノ方向ヲ見サルヘカラス

(五)周邊ヲ見ントセハ眼ヲ少シク左右上下セサルヘカラス

(六)屈折機ノ異常之レナリ左ニ其理由ヲ説明ス第六圖ノ如シ

(一)甲乙共ニ正視ナレハ眼底ヨリ反歸スル光線ハ並行光線ナルニ由リ矯正眼鏡ヲ要セス

(二)乙若シ近視ナレハ乙ヨリ反歸スル光線ハ集合光線ナルカ故ニ甲ハ凹面連子ニテ矯正シ並行光線トナシテ迎ヘサル可ラス

(三)乙若シ遠視眼ナレハ乙ヨリ反歸スル光線ハ開散光線ナルカ故ニ甲ハ凸面連子ニテ矯正シ並行光線トナシテ迎ヘサル可ラス

(四)乙ハ正視ニシテ甲ハ近視或ハ遠視ナレハ初メ甲ヲ矯正シテ后チ乙ヲ檢査スヘシ

**(乙)倒像檢査法**

倒像檢査ハ吾人カ常ニ仕用スル處ニテ(リーフライヒ)氏檢眼鏡ヲ以テス即チ甲ハ凹面檢眼鏡ニ光線ヲ受ケ乙ノ眼驗ヲ開ヒテ光線ヲ投射シ凸面連子ヲ眼前ニ支持ス然ルキハ眼底ヨリ反歸スル並行光線ハ連子ノ燒点ニ像ヲ結フ故ニ甲ハ自己ノ



近点以外ニ退テ鏡孔ヨリ望視スレハ眼底即チ像ヲ明視スルヲ得ベシ如此シテ見  
得ル像ハ即チ倒像ナリ前ニ同シク二三ノ注意アリ左ニ

注意(一)乳頭部ヲ見ント欲セハ顔ヲ甲ニ對坐シ眼ヲ自身ノ鼻側ヲ見セシメサルハ  
カサス

(二)周邊ヲ見ルニハ連子ヲ反對方向ニ進メ檢眼鏡ヲ同方向ニ轉スヘシ例エハ眼  
底ノ上部ヲ視ント欲セハ連子ヲ少シク下方ニ轉シ鏡ヲ稍々上方ニ進ムルニ  
アリ

(三)連子ハ眼ニ近接スルヨリ寧ロ其燒距ニ應シテ遠クルヲ良トス  
(四)連子ノ面ニ鏡ノ像ヲ見ルコトアリテ視瞻ヲ妨害ス宜シク連子ヲ少シク傾斜ス  
ヘシ

(五)角膜ノ反射像モ亦初學ニ妨ケアレハ熟スレハ其害容易ニ觀過スルコトヲ得  
(六)倒像法ハ近視ナレハ之レヲ矯正スルヲ要セズ正視ト雖モ高度ノ近視トナル  
ノ理ナレハナリ遠視ナレハ之レヲ矯正シ或ハ然ラサルモ可ナリ若シ矯正セシ  
ト欲セハ鏡后ニ凸面連子ヲ副用スルカ或ハ本法ニ特ニ用ユル彼ノ連子ノ度ヲ

強クスルモ可ナリ

屈折異常ノ如何ニ由リ像ノ部位ヲ異ニシ故ニ像ニ大小ノ差アリ即チ正視眼ナレ  
ハ像ハ連子ノ燒点ニ生シ近視ナレハ燒点以内ニアリテ其像小ナリ遠視ナレハ燒  
点以外ニアリテ其像大ナリ第七圖ノ如シ

比較直像法倒像法何レモ其得失アリ宜シク二法ヲ併用スベシ

- (一)眼底ノ區域ハ倒像法廣クシテ直像法狹シ
- (二)箇々ノ像ハ倒像法小ニシ直法大ナリ甲ハ七倍乙ハ十四倍ナリ
- (三)倒法ハ眼底ノ大部分ヲ概見スルニ便ナリ直法ハ小部分ヲ詳見スルニ利アリ
- (四)倒法ハ近視ニ小ニシ遠視ニ大ナリ之レ連子ニ由テ生スル像ニ遠近アレハナ  
リ直法ハ近視ニ大ニシ遠視ニ小ナリ

### 徹照法

暗室ニ於テ大凡二十五仙迷ノ距離ニ在リ相對坐シテ甲ハ平面鏡ヲ以テ乙ノ眼内  
ヲ照ラシ漸次己ノ身ヲ近ケ且ツ乙ヲ照ラシテ眼ヲ左右上下ニ運動セシメ以テ眼内ヲ  
廣ク照見スルコトアリ而シテ光線ハ可成弱キヲ良トス若シ強クハ反歸スル光線滯



濁部ヲ通過シテ反射セザレハナリ

目的本法ハ眼内ニ存在スル濁濁ノ有無及ヒ其所在ヲ定ムルニアリ

(一)若シ濁濁水晶体ノ前面ニ在レハ眼球ノ運動ニ際シ瞳孔縁ニ對シテ其位置ヲ變セス若シ前方ニ在レハ同一ノ方向ニ后方ニアレハ反對ノ方向ニ轉ス第八圖ノ甲ノ如シ

(二)檢眼鏡ノ反射像ヲ角膜面ニ現出ス而シテ眼球ノ回轉点ハ常ニ反射像ト同一ノ方向線中ニアリ今試ニ上方ヲ視セシムルニ回轉点ヨリ前方ニアル濁濁ハ同一ノ方向即チ反對像ヨリ上方ニ現ワル其後部ニアルモノハ下方ニ轉ス第八圖ノ乙ノ如シ

### 檢眼鏡の屈折檢定法

屈折檢眼鏡ヲ以テセハ眼底ヲ檢査スルト共ニ眼球ノ屈折變狀ヲ檢定スルヲ得而シテ此法モ亦直像及ヒ倒像ノ二法アリ

#### (甲)直像檢定法

本法ハ直像檢査法ト同シク法方ニ由リ眼底ヲ視ツ、屈折檢眼鏡ノ背後ニ裝置ス

ル矯正連子ヲ回轉シ或ル度ニ於テ眼底ヲ明視スルヲ得ハ即チ其度ハ屈折異狀ノ度ヲ示スモノナリ今其標目トスル部位ハ乳頭ノ外圍縁又ハ黃斑血管ヲ明視スルニアリ本法ニ就テノ要点ハ

(一)甲乙共ニ正視ナレハ背後ノ連子ハ〇ナリ

(二)甲ハ正視ニシテ5D凹面鏡或6D凸面鏡ヲ以テ明視スルヲ得ハ乙ハ5Dノ近視或ハ6Dノ遠視ノ徵ナリ

(三)甲乙共ニ異性ニシテ同度ノ屈折異狀ヲ有スレハ矯正連子ヲ要セス若シ性ヲ同フスルカ或ハ異性ナルモ度ヲ異ニセハ左ノ如キ狀ヲ呈ス

(四)甲ハ5Dノ近視或ハ遠視ニシテ8Dノ凹面或ハ凸面ニテ明視スレハ乙ハ(8D-5D)ニシテ3Dノ近視或ハ遠視ナリ何ントナレハ自家ノ屈折變狀ヲ矯正スルニ要スル連子ノ度ヲ去レハナリ

(五)甲ハ5Dノ近視ニシテ3D凸面ニテ明視スレハ乙ハ(5D+3D)8Dノ遠視ナリ何ントナレハ自家ニ5Dノ近視アルニモ係ラス尙ホ3Dノ凸面連子ヲ要スレハナリ

#### (乙)倒像屈折檢定法



此ノ法ハ學理ニ精クシテ實地ニ不利ナリ甲法アレハ足りトス

### 眼底ノ生理的常態

(一)網膜ハ元來澄明ナルモノナリ故ニ只血管ノ所在ニ由リテ之ヲ知ルノミ眼底一般ノ狀況ハ第九圖ノ如シ

(二)乳頭ハ吾人ノ尤モ注意ヲ要スヘキ部位ニシテ其形ハ正圓ナリ其色ハ帶黃赤色或ハ淡紅色ニシテ判然網膜ト境ス其境界部ハ白色輪ト黑色輪トアリテ乳頭ヲ二重ニ圍繞ス白色輪ハ内部ニ位シ鞏膜ヨリ成リ名テ鞏膜輪ト云ヒ黑色輪ハ外部ニアリテ脈絡膜ヨリ成ル名テ脈絡膜輪ト云フ之レ完全ナル輪ヲ爲サス多クハ乳頭ノ外側ノミニ半輪狀ヲナスヲ常トス

視神經纖維ハ篩板ノ網眼ヲ通過スルニ當リ其髓鞘ヲ脱シテ而シテ乳頭ニ現出シ以テ四方ニ散乱ス由テ乳頭ノ中央ハ勢ヒ漏斗狀ヲナサハカラス名テ生理的陷凹ト云フ而シテ其陷凹部ト一般乳頭面トハ自然屈折狀態即チ視格ニ於テ異ナラサルヲ得ス今乳頭面正視格ナレハ陷凹面ハ近視格ナラサルヘカラス故ニ底面ヲ熟視セントセハ調格セサルヘカラス其調格シテ陷凹面ヲ視ルルハ白色ニ淡綠色ノ

斑点ヲ目視ス之レ篩板ノ網眼ニシテ篩板自家ハ白色ニシテ鞏膜ノ結締織ヨリ成リ之レニ脈絡膜纖維僅カニ加リ以テ網眼ヲ構成ス

(三)黃班部ハ眼底ノ中央ニシテ死后ノ現狀ハ黃色ナレモ生者ハ暗紅色ヲ呈シ横ニ橢圓形ヲ爲シ其中心ハ少シク陷凹シテ鮮紅色或ハ暗赤色又ハ蒼白色ヲ呈ス之レヲ名テ中心窩ト云フ此部ハ網膜極メテ非薄ニシテ只圓錐體ト色素上皮ヲ有スルノミニシテ光線ノ感受力ハ此部ニ於テ尤モ過敏ナルモノナリ

(四)血管ハ中心動靜脈ニシテ動脈ハ乳頭ヲ出ルヤ分レテ上下ノ二枝トナリ之レヨリ枝々分岐シテ網膜ニ分布ス靜脈ハ動脈ト行路ヲ同ス只異ナル處ハ靜脈ハ大ニ迂回シ且ツ暗赤色ヲ爲スノ差アルノミ又別ニ黃班血管ナルモノアリ其一ハ中心動脈ヨリ二三ノ枝別ヲ爲シ其一ハ未タ視神經中ニ在リテ二三ノ分枝ヲ爲シ乳頭ノ外側ヨリ出テ或ハ葡萄膜血管ヨリ分枝シテ同側ニ出テ共ニ黃班部ニ分布ス之レヲ毛機網膜血管ト云フ

### 眼底ノ高底ヲ知ルノ法

乳頭ノ陷凹及ヒ網膜面ニ生スル腫瘍又ハ剝離等ニ於ケル高底ノ差ヲ知ルニハ屈



折換眼鏡ヲ要ス愛ニ要スル矯正連子ノ度ハ即チ陷凹高底ノ度ヲ示スモノナリ其  
 度ニ於テ三Dニ對スル一密迷ノ差アルト知ルヘシ之レ其高キ部ト底部ハ遠視近  
 視ノ状態ニ等シキモノナリ由テ今愛ニ網膜腫瘍アリ最高点ヲ明視スルニ九Dノ  
 凸鏡ヲ要シ網膜面ヲ明視スルニ矯正眼鏡ヲ要セサルモノトセハ腫瘍ノ高サハ三  
 密迷ナリト知ルヘシ其他視差移動ニ據ルモ亦其陷凹高底ノ差ヲ知ルヲ得ルナ  
 リ第十圖ノ如シ

### 視差移動

此法ハ眼底ノ高底ヲ知スル法ニ直像法ヲ以テ眼底ヲ檢スル際血管ニ高底アレ  
 ハ其上下ノ血管ハ移動ス即チ乳頭ヲ注視シ患者ナシテ急ニ左右ニ眼ヲ轉セシム  
 ルハ乳頭部ノ血管ハ浮動スルカ如キ狀ヲ爲ス又倒像法ヲ以テ第十一圖ノ如ク連  
 子ヲ甲ニ置キ(イロ)ノ二点ヲ視ルルハ(イ)(ハ)(ニ)(ロ)(ハ)(ニ)ニ像ヲ生ス然ルニ今少シク  
 連子ヲ左右即チ乙ニ轉スレハ(ハ)(ニ)(ホ)(ハ)(ニ)ニ移動シ(ハ)(ホ)ノ前方ニ於テ浮動スル  
 カ如ク見ル之(ホ)(ハ)(ニ)ヨリ連子ヲ距ルト遠ク從テ移動大ナレバナリ凡テ本法ハ  
 乳頭ノ陷凹ヲ知ルノミナラス眼底腫瘍又ハ網膜剝離等ヲ知ルヲ得ルナリ

### 檢影法

本法ハ佛人キチ氏ノ發明ニシテ瞳孔ニ現出スル影ノ方位ニ由リ屈折異常ヲ診定  
 スル法ニシテ平面或ハ凹面檢眼鏡ヲ用ユ而シテ鏡ノ種類及ヒ被檢者ノ遠点内外ニ  
 於テ其現出スル影面ハ相互ニ反對スル處ノ現像ヲ呈出ス

(甲)平面鏡ヲ用ヒ之レヲ右ヨリ左ニ回轉シテ瞳孔ヲ照スヘシ若シ遠点部ニ檢者  
 其位置ヲ占ムルルハ瞳孔ハ如何ニ之レヲ回轉スルモ暗黒ニシテ照面ヲ現ハ  
 サス

一檢者遠点以外ニ於テセハ影ハ回轉ノ方向即チ右ニ現ハル、ト第十二圖ノ(イ)  
 ノ如シ

一若シ遠点以内ニ於テセハ影ハ左ニ現ハル、ト(ロ)ノ如シ

(乙)凹面鏡ヲ用ヒ同シク右ヨリ左ニ回轉スルニ前ニ同シク檢者遠点ニアレハ瞳  
 孔ハ暗黒ナリ

一遠点以外ニ於テセハ影ハ回轉ノ方向ニ反對シテ左ニ現ハル、ト(ハ)ノ如シ  
 一遠点以内ニ於テセハ影ハ右ニ現ハル、ト(ニ)ノ如シ



以上示スカ如ク鏡ヲ異ニセバ相反對スル處ノ現像ヲ呈ス其差アル所以ノモノハ平面鏡ヲ以テセバ眼底ノ照面ハ同シ方向ニ轉スルモ凹面鏡ヲ以テセバ眼底ノ照面ハ反對ノ方向ニ移轉ス由テ影ハ矢ノ方向ニ現ハル又遠点ノ内外ニ於テ差アル所以ノモノハ其内方ニ在テハ眼底ノ直像ヲ其外方ニ在テハ倒像ヲ見ルヲ以テナリ用法檢者ハ被檢者ヨリ一迷ヲ距テ、坐ヲ占メ平面鏡ヲ用テ瞳孔ニ現ハル、影ヲ檢スルニアリ

一其影面平面鏡ノ回轉、同シ方向例へハ右ヨリ左ニ回轉スルニ當リテ右方ニ影ヲ認ムレハ檢者ハ被檢者ノ遠点以外ニ坐ヲ占ムルモノナリ由テ被檢者ノ眼前ニ凹鏡ヲ加ヘ瞳孔ノ暗黒トナルヲ度トシ以テ鏡ノ度ヲ檢シ若シ三Dナレバ之レニ一Dヲ加ヘテ四Dノ近視トス爰ニ一Dヲ加フル所以ノモノハ檢者ハ一Dノ遠点ニ坐ヲ占ムレハナリ

一回轉ノ反對方向即チ在方ニ影ヲ認ムレハ檢者ハ遠点以内ニ在ルモノナリ由テ被檢者ノ眼前ニ凸鏡ヲ加ヘ瞳孔ノ黒色ナルヲ度トシ以テ鏡ノ度ヲ檢シ若シ一Dナレバ被檢者ハ即チ正視ナリ何トナレハ正視ニ一Dノ凸鏡ヲ加フル

ハ遠点一迷ニアレハナリ若シ三Dヲ要スレハ二Dノ遠視ナリ之レヲ行フニ必ズシモ一迷ニ限ルニアラズ半迷ニ於テスルモ可ナリ然ルレハ一Dニ代ユルニ二Dヲ以テセサルヘカラス故ニ四Dノ凸鏡ヲ要スレバ二Dノ遠視三Dノ凹鏡ヲ要スレハ五Dノ近視ナリト知ルヘシ乱視ニアリテハ影ヲ左右上下ニ現ハスニ由リ乱視ナルヲ知ル又其度モ定ムルヲ得ルナリ

第二章 治療總論

眼病ノ療法ハ專ラ外用法即チ点眼、洗眼、塗擦、點法及ヒ手術的療法ニ據ルト雖モ場合ニ於テハ内治法トシテ沃度劑、水銀劑、緩下等却テ右ニ出ル必要ナルコトアリ

(一) 瞳孔散大藥及ヒ收縮藥

瞳孔散大及ヒ縮瞳藥ハ目下藥物學ノ進歩ト共ニ大ニ其數ヲ増加セリト雖其効確實ニシテ世醫ノ一般ニ信用スル處ノモノハ四五品ニ止マルモノナリ左ノ品目ヲ擧クレンハ

- 瞳孔散大藥 (一) アトロピン (二) ダトウリン (三) ヒヨスチン (四) 硫酸ホモアトロピン (五) コ



カイン之レナリ

瞳孔收縮藥 (一) エセリン (二) ピロカルピン之レナリ

「アトロピン」ハ散瞳藥中尤モ通用セラル、モノニシテ其作用ハ虹彩括約筋ヲ麻痺シ、散大筋ヲ刺戟シテ瞳孔ヲ散大シ且ツ調節機ヲ麻痺セシムルコトアリ而シテ其効力ノ持續ハ大凡一周日余ナリ特意性ノ人ハ「アトロピン」ニ由テ結膜炎ヲ發スルコトアリ如此場合ニハ「ダトウリン」或ハ「ヒヨスチン」ヲ用ユ「コカイン」ハ散大久シカラサルヲ以テ手術上又ハ檢眼鏡檢査上必要ノ場合或ハ炎症疼痛ヲ鎮製スル目的トシテ廣ク應用セラル

「エセリン」ハ瞳孔收縮藥トシテ奏効アリ其作用ハ瞳孔括約筋ヲ刺戟シ散大筋ヲ麻痺セシメ併シテ調節機痙攣ヲ起ス縮瞳ノ持續時ハ大凡五六時間ナリ而シテ之レヲ点眼シテ頭痛ヲ發スルコトアリ豫メ察セサルヘカラス通常用ユルモノハ硫酸エセリンナリ次ニ「ピロカルピン」ヲ用ユ然レモ其効弱シ

### (二) 麻痺藥

全身麻痺藥トシテ一般ニ用ユル處ハ「コロホルム」ナリ然レモ近來局處麻痺藥トシ

「コカイン」ノ出テシヨリ大ニ手術ニ便ニシテ大手術或ハ小兒又ハ神經性婦人ノ外大ニ其使用ヲ減セリ

局處麻痺藥トシテ「コカイン」ヲ点眼シ手術ニ臨ミ皮下注射ス此場合ニ於テ時トシテ中毒症ヲ發スルコトアリ然レモ1%「コフエイン」ヲ溶液トシテ皮下注射シ或ハ「アミール」コトリツトヲ吸入セシメ腦ノ貧血ヲ治スル法ヲ務ムヘシ

### (三) 收斂藥

収斂藥ハ硝酸銀、硫酸亞鉛、硫酸銅、醋酸鉛等ヲ水劑又ハ和施林ニ和シテ点眼又ハ塗擦料トス

總テ収斂藥ハ蛋白質ト化合シ血液ヲ凝固シ血管ヲ縮小シ組織ヲ硬化ナラシメテ其弛緩ヲ去リ以テ其分泌ヲ減スルノ性アリ之レ収斂劑ノ大ニ効アル所以ナリ結膜ハ極メテ刺戟シ易シ蒸水ト雖モ多少刺戟ス故ニ初メテ患者ニ点眼スルニハ稀薄ノモノヲ点眼スルハ實地家ノ注意スヘキ件ナリ又屢々眼病ニ罹ルモノハ意外ニ藥劑ニ堪ユルモノナリ

### (四) 法



(一) 氷冷罨法 ハ直ニ氷片ヲ以テスルハ宜シカラス氷片ノ上ニ布片數枚ヲ置キ其一片ヲ取リテ眼瞼上ニ罨フテ終始交換スルヲ宜トス

(二) 冷罨法 ハ冷水或ハ防腐藥収斂藥ノ冷溶液ヲ布片ニ浸シ冷スベシ場合ニ由テハ之レヲ止ムレハ却テ灼熱ヲ感スルニ由リ温罨法ニ如カサルコトアリ

(三) 温罨法 ハ布片ヲ硼酸水又ハ昇汞水ニ浸シ眼瞼ヲ罨ヒ頻々交換シテ温ヲ保ツヘシ又ハ巴布ニテモ宜シ此法目今一般ニ流行スル處ノ良法ナリ

(五) 蒸氣霏撒法

蒸氣霏撒法ハ「ブーケル氏」ノ吸入器ニテ硼酸水又ハ昇汞水等ヲ以テス而シテ其効驗ニ於テハ敢テ温罨法ト異ナルコトナシ

(六) 瀉血法

瀉血法ハ虹彩結膜等ノ充血著シキ時ニ施行ス即チ水腫人工蟻針乱切又ハ外痔切開法等之レナリ

(七) 防腐劑

(一) 防腐藥 ハ刺戟少ナキモノニシテ防腐ノ効大ナルモノヲ良トス故ニ石炭酸撒里

矢兒酸アリト雖ヒ普通用ユルコト希ク多ク昇汞水硼酸水沃度保護等之レナリ

(二) 器械 ハ昇汞水硼酸水ニ久シク浸セハ腐蝕スルヲ以テ石炭酸又ハ純アルコトナリ良トス熱湯ハ更ニ良ナリ其法種々アリト雖ヒ一理一害ハ世ノ免カレサル處ナレハナリ余ハ尤モ注意ヲ要スヘキ手術ニ於テハ先ツ左ノ法ヲ以テス 2% 石炭酸水ニ浸シ用ニ臨ミ蒸溜水ニテ洗ヒ用ユルヲ法トス

(八) 繃帶

繃帶ハ其目的ニ二種アリ保護繃帶及ヒ壓定繃帶之レナリ其材料ハ硼酸リント硼酸綿花沃度母膜カトセ昇汞カトセ及ヒ昇汞綿花等之レナリ

法式初メ眼瞼上ニ硼酸リント硼酸綿花或ハ沃度保護母カトセ等ヲ置キ更ニ昇汞綿花或ハカトセヲ置テ繃帶ス(一) 偏眼ナレハ顛頂ノ周圍ヲ二回環行シ患側ノ耳下ヨリ斜メニ患眼ヲ過キテ他側ノ顛頂骨上ヲ經テ又患側ノ耳下ニ出ツルコト三四回后再ヒ頭圍ヲ環行シテ止ム

(二) 双眼ハ初メ一眼ニ右法ヲ行ヒ次テ他眼ニ同一ノ法ヲ以テ繃帶スルヲ常トス保護繃帶ノ目的ハ一般ニ目ノ保護ニアリト雖ヒ主トシテ虹彩炎或ハ刺戟ノ甚シ



キモノニ施シ脈定法ハ角膜潰瘍ノ穿孔症或ハ手術時ニ適應ス又化膿性結膜炎或ハ角膜潰瘍ノ如キ屢々点眼洗滌ヲ要スヘキモノニハ綳帶ニ交ユルニ眼瞼覆布ヲ用ユルヲ良トス

(九)注射藥處方

皮下注射トシテ

(一)0.5%硝酸斯篤里規尼涅水毎日三分一筒或ハ隔日半筒ツ、含量〇〇〇一〇〇〇二五ヲ含ム

(二)1%ピロカルピン水一日一回或ハ隔日一回一筒ツ、含量〇〇一ナリ  
結膜下注射トシテ

(一)0.5%食鹽水ヲ一日半筒隔日一筒ツ、  
(二)五千倍身朮水ヲ一周一回半筒ツ、

(十)外科的手術

外科的手術ハ各論ニ於テ其必要ナル部ニ就テ論ス

(十一)内服藥處方

強壯劑及ヒ神經興奮劑トシテ左ニ其例ヲ示ス

(一)塩酸キニール還元鉄各〇〇六爲丸一日三回分服ス

(二)硝酸ストリチニール〇〇八廿末適宜爲丸一日三回分服ス

(三)硝酸銀〇〇三廿末適宜爲丸一日三回分服

(二)硝酸ストリチニール〇〇八廿末適宜爲丸一日三回分服  
ス

鎮痛劑トシテ

(一)鹽酸モロヒチ〇〇一頓服又ハ分服ス

(二)安知必林〇五頓服又〇五〇一〇ヲ一日三回分服ス

(三)格魯刺兒一〇〇一五頓服

(一)塗擦劑トシテ  
ロートエ一分水銀膏九分ノモノ或ハロートエ一分單膏九分ノモノヲ前額部ニ貼付ス

緩下劑トシテ

(一)硫酸苦土一五塩酸里茂一二〇一日量



(一)カル、ス泉三〇頓服

(二)複方大黃丸日本局方頓服又ハ連服

(三)屈氏散五、六、〇一日三回分服

製法 旋那末四〇甘草末四〇小茴香二〇精々硫黃二〇白糖二〇右混和調合ス  
小兒或ハ炎性甚シキモノニハ

甘汞ヲ年齢ニ準シ頓服トシテ與フ

(十三)驅梅毒療法

内服トシテ左ノ藥劑ヲ與フ其分量ハ適宜増減ス

(一)沃劍一、鹽酸里茂一二〇、一日量四回分服

(二)沃度汞〇〇三爲丸一日三回分服

(三)昇汞〇〇一爲丸一日三回分服

(四)水揚酸汞〇〇三爲丸一日三回分服

筋肉注射トシテ臀部ニ施ス

(一)水揚酸汞一、流動バランフイニー〇

右調製ニ用ニ臨テ振盪シ三分一筒ニ半筒ヲ四五日毎ニ一回反復注射ス含量〇、  
〇五〥〇〇三

(一)甘汞一、〇オレフ油一〇〇一周一回半筒ツ、

(二)1%昇汞水昇汞〇、三食塩二、蒸水三〇、四五日毎ニ一回一筒ツ、含量〇〇一ナリ

塗擦劑トシテ

水銀膏一日一回二〇ナ上搏及ヒ上腿ノ内側ニ施ス

(十三)製劑

診察所用点眼藥或ハ塗擦藥トシテ但シ數字ハ%數ヲ示ス

飽和硼酸水 2 硼水 2 比魯水 1 2 亞篤水 1 2 古加水

0.05 昇水 0.5 2 銀水 0.5 エセリン水 0.5 1 硫亞水

1 2 鉛水 10 5 硫銅水 1 1.5 黃汞ワセリン 3 硼酸和セリン

1 亞篤魯比涅加古加尼涅水 2 亞篤水一分 2 古加水一分 ヨリ成ル 屈列於林加昇汞

水 五千倍ノ昇汞ヲ以テ製ス 百倍ノ屈列於林水ニ製ス

投與点眼藥トシテ



0.2 硫酸水 0.02 昇水 5 阿片耐水 飽和又ハ1 礪水

沃加水沃劍〇、二重曹〇、二五、〇ヨリナル

掃法用トシテ

1 硫酸水 2 鉛水 0.02 昇水 1 礪水

蒸氣用トシテ

2 || 4 礪水 0.05 || 0.1 昇水 2 重曹水

洗眼用トシテハ大凡左ノ三種ヲ常備セハ足レリ

1 2 礪水 0.005 昇水 1 食鹽水

總テ變敗シ易キ点眼藥ハ飽和礪水ヲ以テ製劑スヘシ且ツ又硫酸トセシハ其主藥タル硫酸亞鉛ノ落號ト知ルヘシ他ハ此例ニ同シ

(十四) 器械

眼科手術ニ要スル器械ノ要点ハ

- 開險器 狭險器 角膜板 固定攝子 普通攝子 睫毛攝子
- 直剪刀 曲剪刀 淚管消息子 紅彩攝子曲直 鏡ヒ

斜視鈎 グレンフェ氏線狀刀 ベール氏内障眼力 ウエツグル氏内障眼力

鎗狀力曲直 ホーメン氏截囊計 匙子 スパテル 角膜穿孔計

淚管切開刀 腹双刀 水晶囊開囊針

(十五) 電氣療法

燒灼電氣ハ近來眼科ニ欠クヘカヲサルモノトシテ廣ク應用セラレ殊ニ角膜潰瘍ヲ療スルニ欠ク可ラス若シ其準備ナキハ斜視鈎或ハ淚管消息子ヲ酒精燈上ニ熱シテ使用スルコトアリ其効能ニ於テハ甲乙ノ別ナク只体裁ヲ異ニスルノミ

第三章 結膜諸病

結膜充血論

抑々結膜血管ハ眼瞼軟骨動脈弓及ヒ前毛様動脈ヨリ來タル動脈弓ハ二條アツテ眼瞼軟骨ノ上縁ニ沿フモノヲ上動脈弓ト云ヒ其下縁ヲ沿フモノヲ下動脈弓ト云フ而シテ下動脈弓ヨリスルモノハ軟骨ノ下縁ヲ穿孔シテ穿行動脈トナル眼瞼結膜ノ下縁ニ分布ス上動脈弓ヨリスルモノハ軟骨ノ上縁ニ於テ結膜ニ入り二枝二分枝シテ一ツハ眼瞼結膜ニ分布シテ下縁ノ血管ト吻合ス一ツハ



上行シテ穹窿部ヨリ眼球結膜ニ分布ス第十三圖ノ如シ故ニ若シ結膜ニ疾病アル  
トハ此血管充血シテ以テ結膜充血ヲ來スモノナリ

前毛様動脈ノ一部角膜ノ周圍部ニ分布シ結膜血管ト吻合シテ網狀ヲ爲シ之レヲ  
角膜周圍血管ト云フ若シ角膜虹彩及ヒ毛様体ニ疾病アレハ此部ニ充血シテ發赤  
ス之レヲ角膜周圍充血ト云フ而シテ他ノ一部分ハ鞏膜ヲ穿チテ葡萄膜ノ血管ト連  
絡スルヲ以テ彼ノ部ニ疾病アレハ角膜周圍ニ充血ス第十四圖ノ如シ

(一) 結膜充血

結膜充血ハ已ニ述フル處ツ結膜血管ノ充血ニ單ニ充血ヲ來タスノミニノ分泌  
物ハ概シテ少シ又浮腫等ヲ發スルコトナシ故ニ一ツニ乾性結膜炎ノ名アリ自覺症  
ハ輕微ノ刺戟症アルノミニノ冷罨法等ヲ施セハ直ニ消散ス

(二) 加答兒性結膜炎 單性結膜炎

本症ヲ別テ二種トス

(甲) 急性加多兒性結膜炎

症候急性加多兒性結膜炎ハ諸症急劇ニ殊ニ眼球絡膜及ヒ穹窿部ニ甚シク充血

ヲ發シ過多ノ分泌ヲ來シ刺戟ニアリテハ眼球結膜モ亦發赤シ時トシテ浮腫ヲ來シ  
又眼瞼モ浮腫シ涙液甚シク爲メニ眼瞼糜爛セラルコトアリ

自覺症患者ハ如灼如刺異物ノアルカ如ク感テ有ス疼痛アリ光線ニ會エハ羞明ア  
リテ光ヲ忌ム夜間ハ却テ諸症増悪ス朝ハ分泌物ノ爲メ睫毛結束シテ修開ヲ妨ケ

視力ハ一時性ニ減少ス又燈火ヲ見レハ其周圍ニ紅輪ノ現ハルコトアリ  
合併症時トシテ角膜ニ小侵潤ヲ生シ次第ニ吸收スルコトアリ或ハ破潰シテ小潰瘍

ヲ生スルコトアリ然ルモ之レヲ加多兒性潰瘍ト云フ又角膜ノ周邊ニ多數併列ス  
ル處ノ小侵潤アリテ遂ニ潰瘍トナルコトアリ然ルモ周邊潰瘍ト云フ眼球結膜ニ  
膿泡疹ヲ發スルコトアリ或ハ小水泡ヲ發ス膿泡性結膜炎小水泡性結膜炎ト稱スル  
カ如キ種々ノ合併症ヲ發シ來タルモノナリ

原因春秋ニ流行性トナリテ發ス凡テ結膜充血ヲ來スヘキ原因即チ不良ノ空氣塵  
埃煙異物眼ノ過勞及ヒ麻疹痘瘡等ニ併發ス

鑑別(一)急性トシテハトテ殆ント同一ナリ然レモ彼レニアリテハ久シカラスシテ  
其本性タル顆粒發生スルヲ見ル(二)化膿性結膜炎ノ初期ニ類似ス然レモ彼レニア



リテハ諸症劇甚ニシテ膿液增多セリ(三)急性虹彩炎モ時トノ類似スルヲアレハ彼レ  
ニアリテハ周圍充血及ヒ毛様神經痛アルヲ以テ鑑別ス

### (乙)慢性結膜炎

症候充血及ヒ分泌物共ニ急性症ノ如ク著シカラス結膜ハ弛緩シテ暗赤色ヲ呈シ  
時トノ乳頭腫起シテ甚シク隆起スルヲアリ分泌物ハ少量ナレモ粘液質ニ富ミ又  
稀ニ腺縁ニ泡沫ノ沈着スルヲ見ル之レ涙液ノ亞爾加里トマイホーム氏線ノ分泌  
液中ノ脂肪ト和シテ石礫化セシモノナリ腺縁ニハ常ニ分泌物ノ凝固物ヲ附着ス  
自覺性ハ他覺的症候ニ比スレハ般雜ニシ且ツ一般ニ強ク眼中異物羞明搔痒ノ感  
覺アリ要スルニ急性症狀ニ同シト雖モ彼ノ如ク灼熱疼痛充血浮腫等ナク只緩慢  
ニ經過スルノ差アリ而シテ他覺症ハ却テ劇甚ナルモ自覺症ヲ訴エザルヲアリ大ニ  
注意セザルヘカラス

合併症(一)潰瘍角膜ニ小潰瘍ヲ發シ殊ニ周圍潰瘍ハ老人ニ多シ(二)眼腺炎涙液ノ  
爲メニ眼腺ニ温疹ヲ生シ眼腺縁炎ヲ來シ又彼レ之レノ原因トナルヲアリ  
原因(一)急性症ヨリ來タル(二)凡テ急性症ノ原因トナル件ハ慢性ノ原因トナル(三)眼

腺外縁及内縁(四)眼腺縁炎睫毛乱生淚管閉塞(五)老人ニ於テ見ル處ノ結膜弛緩之レ  
カ因トナルヲアリ

療法急性症ニハ点眼薬トシテ硼水ヲ冷又ハ温湯法トシテ硼水、醋水等ヲ與フ硫酸水  
ヲ点眼シ硼水ニテ洗ヒ又塩類下劑ヲ内服セシムルハ大ニ可ナリ或ル場合ニ於テ  
0.5% 銀水ヲ点眼シ食鹽水ニテ洗ヒ大ニ奏効アルヲアリ

慢性症ニハ(一)銀水銅水尤モ良トス(二)3% 硼和和1% 白降汞和世林塗布ス(三)原因及ヒ  
合併症ニ由リテ適當ノ所置ヲ爲ス即チ虹彩炎アレハ収斂劑ヲ廢シテアトロピチ  
水ヲ点眼シ潰瘍ニハアトロピチ水ノ点眼ニ兼テ防腐劑ニテ点眼洗滌シ腺縁炎ア  
レハ主トシテ硼和黃和等ヲ塗布スルカ如シ

凡テ慢性症ニハ銀水ヲ点眼シ食鹽水ニテ洗ヒ自家用トシテ硼水或ハ硫酸水ノ点  
眼薬ニ硼水ノ温湯法ヲ與フ

### (三)膿漏性結膜炎 化膿性結膜炎

症候本症ハ結膜疾病中尤モ必要ノモノニ初期ニ適當ノ所置ヲ爲サザレハ恐ル  
ヘキ疾病ヲ遺ス依テ之レヲ診斷スルニ當リ尤モ注意ヲ要スヘキ者ナリ而シテ其症



候三期ニ分チテ論スルヲ良トス

第一期中メハ結膜加多兒ノ症候ヲ呈スルニ過キサルモ一二日ヲ經過セハ諸症暴劇ス即チ眼瞼眼結膜共ニ發赤腫起シ殊ニ眼結膜腫起シテ角膜ヲ圍繞シテ堤狀ヲ爲シ角膜面ハ其甚シキモノニアリテハ殆ト全面ヲ覆フニ至ル眼瞼モ亦浮腫シテ容易ニ反轉スル能ハズ而シテ此期ニ於テ已ニ顯シク分泌物ヲ流出ス然レモ其液稀薄ニシテ少量ノ膿球ヲ混シ稍々黄色ヲ帶フルヲ常トス

第二期ハ化膿期ニシテ危險ナル角膜病ヲ合併ス而シテ其特徵ハ乳頭著シク増息肥大シテ天鵝絨ノ如ク第十五圖膿汁ハ帶黄乳色ニシテ濃厚ナリ眼瞼ハ常ニ閉鎖ス強ク之レヲ開ケハ膿液逆出ス眼瞼及ヒ結膜ノ腫起疼痛益々増劇ス而シテ第二期ノ末期ニ至レハ化膿益々盛ナルモ眼瞼及ヒ結膜ノ腫起次第ニ消退シ疼痛モ亦減退ス患者自ラ治ニ近キノ感ヲ訴フ然リト雖モ本症ニ於テ尤モ恐ルヘキ角膜潰瘍ヲ合併スル時期ハ實ニ第二期ノ末期ニアリ宜シク注意スヘシ

第三期ハ退降期ニシテ結膜ノ充血腫脹共ニ著シク減退シ化膿期漸ク衰エテ分泌物益々減シ膿性ハ漿液性ニ復シテ次第ニ全治ス然レモ其ノ治ニ至ル甚タ久シ由テ

一ツニ慢性膿漏期ノ名アリ之レ不定ノ時日ヲ經ルモノナレハナリ

合併症ハ第二期殊ニ其末期ニ於テ角膜ニ危險症ヲ發ス尤モ其恐ルヘキ合併症ハ角膜潰瘍之レナリ左ニ其合併症ヲ記スニ

(一) 角膜濁洞之レ其一部或ハ一般ニ濁洞ヲ遺スニアリ

(二) 角膜膿瘍ヲ生シ遂ニ吸收消散シテ濁洞ヲ遺スニアリ或ハ破潰シテ一大潰瘍トナルニアリ

(三) 周圍潰瘍ヲ生スルノ屢々之レアリ其潰瘍ハ半環狀ヲ爲スニアリ或ハ全環ヲ爲シテ角膜壞疽ニ陥ルニアリ

(四) 虹彩癰着角膜穿孔シテ治癒ヲ促シ或ハ虹彩癰着ヲ來ス

(五) 眼球萎縮角膜ノ大部分壞疽ニ陥ルルハ破潰シテ前房水ト共ニ水晶体及ヒ硝子體脱出シテ遂ニ眼球萎縮ヲ遺ス

經過ハ五六周日ニシテ全治ス若シ合併症ヲ遺スルハ經過ヲ緩慢ナラシム或ハ慢性膿漏症トナリ痊愈久シキニ沿ルニアリ又義膜ヲ生シテ實扶的里性結膜炎ニ類似ノ症ニ轉スルニアリ



鑑別(一)急性結膜炎如何ニ劇性ト雖本症ノ如キニ至ルコトナシ

(二)急性トヲホトシ劇症ハ本症ニ類似スト雖彼レニハ顆粒ノ存在ヲ以テ區別ス

(三)實扶的里結膜炎モ能ク之レニ類似ス然レハ結膜ハ充血セス却テ蒼白色ニシテ膜ヲ有ス本症モ時トシ義膜ノ点在スルコトアリト雖色素ヨリ以テ實扶的性ト爲スニ足ラス

(四)眼瞼蜂窩織炎及ヒ全眼球炎ハ稍々之レニ類似スト雖ハ結膜ニ毫モ變狀ナキヲ以テ判別スルヲ得

(五)腫脹性結膜炎ハ往々之レト誤マルコトナシトモ然レハ單ニ結膜腫脹スルノミニシテ充血少ナシ且ツ分泌物ハ漿液狀ニシテ少量ナルト毫モ膿性ヲ有セス刺戟モ亦殆ント無ト云フテ可ナリ

原因ハ專ラ麻病ノ傳染ニ由ル而シテ其病元ハ「ナイゼル」氏ノ「コハコツケン」即チ重珠微菌ナリ第十六回ノ如シ

微菌検査ハ普通一般ノ法則ニ據ル而シテ之レニ仕用スル染色液ハ「メチヒールピオ

レット」或ハ「チンチアナビオレット」ノ液ヲ用ユ然ルハ微菌ハ紫色ヲ呈シ集簇群居シテ膿球ヲ混有シ細胞ノ内外ニ存在シ結膜コアリテハ其上皮中ニ止マリテ深部ニ達セス

傳染ノ順路ハ(一)麻毒ハ自身ヨリ傳染シ或ハ他人ノ麻毒又ハ婦人ノ膿漏症ヨリスルコトアリ男子ハ女子ヨリ多シ如此原因アリテ特ニ大人ニ來タルモノヲ麻毒性結膜炎ト云フ

(二)初生兒ニシテ母体ノ麻毒或ハ腔膿汁等ノ不潔物ヨリ感傳スルモノヲ特ニ初生兒膿漏症ト云フ生后三日乃至七日ノ間ニ發スルモノ多シ之レ失明者%數ノ尤高位ニアリ宜シク注意スヘシ

(三)他人同性分泌物ヨリ傳染ス

(四)實扶的里性結膜炎ノ分泌物ハ膿漏性結膜炎ヲ起ス又之レ彼レノ原因トナルコトアリ

(五)麻毒ニアラサル凡テ膿性分泌物ハ本病ノ原因トナル例ハ急性結膜炎急性トシテホトシ或ハ隆加多兒ノ分泌物等之レナリ然レハ麻毒性ノモノニ比スレハ凡テ輕



少ナルヲ常トス

療法本症ハ尤モ危険ノ疾病ナレハ之レヲ未發ニ防クヲ急務トス由テ左ニ其豫防法ヲ論シ次ヲ對症療法ヲ述ント欲ス

豫防法(一)眼疾病ニ罹ルルハ健眼ハ防腐綳帶ヲ施シテ其傳染ヲ防クヘシ之レヲ行ヒカタクキモノ例ハ小兒ノ如キハ昇水ヲ点眼シ若シ傳染ノ疑ヒアルルハ銀水ヲ点眼洗滌ス

(二)麻病或ハ臆加多兒ヲ有スル人ハ其分泌物ニ觸接セサル様注意シ其局處モ常ニ清潔ニスヘシ其治療ニ任用セン器具及ヒ醫師モ宜シク消毒スヘシ

三妊婦ニノ麻病或ハ臆加多兒ヲ有スル者ハ一層注意ヲ加エ殊ニ産前産后ニ於テ尙ホ然リ初生兒ハ助産婦ノ所置終ルヤ否1%銀水ヲ点眼シ盥水ヲ洗ヒ眼瞼ハ防腐水ヲ布片ニ浸シ洗滌スヘシ之レ即チ「クレンヂ」氏ノ法ニシテ大ニ初生兒臆漏症ノ數ヲ減少セシメラレタリト云フ其例ヲ舉レハ「グレンヂ」氏産科院ニ於テ從來アル處ノ一〇・八%ノ初生兒臆漏性結膜炎ハ減シテ〇・一乃至二%トナルヲ得タリト云フ  
(三)麻病ト眼トノ關係ヲ俗間ニ知ラシムル又豫防ノ一策ナリ

對症療法

ハ角膜合併症ノ有無ニ關シ少シ其起キテ異ニス(一)本症ト認ムルルハ其初期ヨリ一乃至二%ノ銀水ヲ一日一二回点眼或ハ盥布シ盥水ニテ洗滌ス若シ劇性ノモノニハ一日二回二%ノモノヲ塗布スヘシ本症ニ對スル古來種々ノ方法アリト雖モ右ニ若クモノナシ后期ニ至レハ硫酸水或ハ銅水ヲ用テ銀水ニ換ユ(二)前法ヲ行フト共ニ冷罨法或ハ煎熱甚シケレハ水罨法ヲ施ス又之レニ交ユルニ温罨法及ヒ蒸氣露罨法ヲ以テス之レニ用スル藥液ハ昇水ヲ良トス余好テ此法ヲ施行ス(三)第一第二法ト共ニ一日數回昇水或ハ屈列於林加昇水ヲ点眼シ昇水又ハ礮水ニテ洗滌ス(四)結膜充血腫張シキルハ眼瞼結膜ヲ乱切シ或ハ外皆切開術ヲ施スヘシ然ルルハ輪匠筋ヲ切離スルカ故ニ眼瞼ノ緊張弛緩スルカ爲メ大ニ疼痛ヲモ共ニ緩解ス此法ハ剪刀ヲ以テ外皆ヲ一頓ニ切開ス(五)角膜ノ合併症アルルハ温罨法ヲ費用ス潰瘍若シ増進スルルハ角膜穿孔術ヲ施シ前房水ヲ泄スヘシ角膜自ラ穿孔シ虹彩脫出セハ其部位ニ從ヒ「エセリン」或ハ「アトロヒチ」ヲ点眼ス即チ中央部ニアレハ「アトロヒチ」周圍部ニアレハ「エセリン」ヲ用ユヘシ

(四)格魯布性結膜炎



症候初期ハ膿漏性結膜炎ニ類似スト雖凡テ諸症輕少ニ分泌物ハ漿液性ニ近シ結膜面ハ灰白色ノ義膜ヲ有シ且ツ容易ニ剝離ス可シ又容易ニ再發シ剝離スレハ再發ス而シテ剝離面ハ充血シテ点狀出血アリ角膜ハ概シテ侵サイルヲ常トス

原因本病ハ概シテ腺病性ノ小兒ニ多シ間々流行性トナリテ來タリ又或ハ喉頭ニ格魯布ノ存スルカ或ハ眼瞼ニ濕疹アルモノニ來タルコトアリ

療法義膜尙ホ存在スル間ハ硼水或ハ昇水ノ温濕法又ハ洗眼ノミニテ足レリ決シテ収斂劑及ヒ腐蝕劑ヲ用ユヘカヲス義膜去ルノ后チハ之レヲ用ユルモ可ナリ

（五）實扶的里性膜炎

症候本症ハ結膜組織内ニ纖維性義膜ヲ生スル處ノ疾病ニシテ時期ニ由リ左ノ三期ニ分ツ

第一浸潤期本症ノ起ルヤ炎症症狀暴起シ上眼瞼發赤腫脹シ上眼瞼下垂シテ硬固トナリ一般ニ膿漏性結膜炎ノ如シ然レモ分泌物ハ漿液性ニシテ疼痛劇甚ナリ結膜ハ充血ヲ呈セス却テ蒼白色ニシテ一面ニ義膜ヲ有シ剝離シ難シ強テ剝離スレハ出血ス而シテ義膜ノ狀恰モ腐蝕セラレタルカ如シ其輕症ニ於テハ結膜面ニ点狀ノ陷

没アリテ灰白色ノ義膜ヲ有ス

第二膿漏期ニ至レハ義膜剝離シテ結膜組織欠損シ肉芽ヲ生シ此ノ期ニ至レハ若リニ膿ヲ分泌ス

第三癒痕期ニ至レハ肉芽面次第ニ縮少シテ癒痕ヲ生シ時トシテ驗球ノ癒着ヲ來タスコトアリ

原因（一）一種ノ病毒即チリヨフレル氏桿狀微菌ニ原因シ流行性トナリテ來タルコトアリ一般實扶的里ト共ニ流行ス而シテ本病ハ三四歳ノ小兒ヲ侵シ殊ニ虛弱ノモノニ多シ小生兒及ヒ大人ヲ侵スハ極メテ希ナリ

（二）膿漏性結膜炎ヨリ傳染シテ本症ヲ來スコトアリ又之レ彼ノ原因トナルコトアリリヨフレル氏ハ義膜ノ深層ヨリ本病固有ノ微菌ヲ純粹培養セリ其微菌ハ桿狀菌ニシテ尤モメチユールン青色素ニ染色シ易キ性ヲ有シ其形ハ僅ニ彎曲シ長サ結核菌ト殆ト同一ニシテ稍々肥大セリ而シテ此ノ菌ハ屢々一極又ハ兩極ニ於テ膨突ヲ呈シ又一個ニシテ數節ニ分割スルコトアリ之レ培養基ノ榮養不良ニ由リ卷縮セルモノナリ第十七圖ノ如シ着色液大凡三十瓦中加里礮汁二三滴ヲ加入スルヲ要ス



合併症ハ化膿性結膜炎ト殆ント同一ナルヲ以テ爰ニ畧ス危險彼レヨリ一層甚シキモノトス

豫后合併症ノ爲メ視力ニ關シテ不良又虛弱ノ小兒或ハ咽頭等ヲ侵ス爲メ命ヲ失フコトアリ

鑑別 實扶的里性

一咽頭其他實扶的里性ト共ニ全身性トナリテ來ルヲ常トス

一結膜實質ヲ侵スニ由リ義膜剝離シ難シ

一容易ニ出血セス強テ義膜ヲ剝離スレハ出血多シ

一義膜ヲ剝離スレハ結膜

格魯布性

一主トシテ腺病性ノ小兒ニ來ルコト多シ

一浸出性義膜ニシテ實質ヲ侵サス由テ剝離シ易シ

一義膜下ノ結膜充血強キヲ以テ剝離スレハ出血シ易シ

一義膜ヲ剝離スルモ結膜實質

欠損シテ瘢痕ヲ作ル

一疼痛劇甚ナリ

一多ク角膜合併症ヲ來ス

一豫后尤モ危險ナリ

實扶的里性

一全身病トナリテ來タルコト多シ

一發熱強シ

一結膜面ハ一面ニ或ハ一

局部ニ於テ灰白色ノ義

膜ヲ有ス

一眼瞼ハ硬固ニシテ久シク

且ツ強シ

一疼痛劇甚ニシ且ツ久シ

ノ欠損ナシ

一疼痛アリト雖モ強カラス

一合併症少シ

一尤モ良ナリ

化膿性結膜炎

一全身病ノ關係ナシ

一著シカラス

一一面發赤腫起シ后ニ至リ乳

頭肥大ス

一硬固ナルモ久シカラス且ツ硬

固ノ度強カラス

一稍々輕クシテ輕快スルコト早シ



**療法**(一)本病ハ危險ナル傳染病ナルヲ以テ他人ト隔離スヘシ(二)第一期ニハ防腐液ヲ以テ洗眼シ、角膜ノ剝離ヲ促カサシメ、爲メニ昇水或ハ硼水ヲ以テ温湯法ヲ施シ兼テ蒸氣法モ可ナリ(三)第二期ニハ銀水ヲ塗擦シ、鹽水ニテ洗ヒ、后テ昇水ニテ洗フ(四)第三期ニハ癒着ヲ防ク爲メ、硼和ヲ点眼シ、或ハ眼瞼ト眼球ノ間ニ油紙ヲ箝置スルコトアリ

第一期ニハ銀水ヲ用ユルハ不可ナリ、本症ニ對スル療法種々アリト雖、其効驗少シ要スルニ、義膜面ニ黃降汞和施林ヲ塗擦シ、又其吸收ヲ促ス目的ヲ以テ石灰水ヲ塗布ス、全身療法トシ、水銀膏ヲ塗擦ス、然レハ營養不良ノ小兒ニハ用ユヘカラス

予ハ本症ト認ムルハ、一般療法ニ兼テ、**鏡**、**治療**ヲ施ス、**アイロール**和世林ヲ用ユ、而シテ今日ハ洗滌シテ、**硼酸**和世林ヲ塗布ス、近頃ハ**アイロール**和世林ヲ用ユ、而シテ今日ニ至ル迄六名ニ就テ、**鏡七療法**ヲ執行セシニ、盡ク其結果ヲ得タリ

一回ハ廿五歳ノ男子ニ、血清療法ヲ施シ、注射后二日間ニ、佳徵ヲ呈セス、遺感セシ轉醫ノ故ヲ以テ、其結果ヲ見ルコトヲ得サルナリ

**(六)水泡性結膜炎 腺病性結膜炎**

眼球結膜ト角膜ノ境界部ニ於テ水泡若シクハ膿泡狀ノ疹ヲ發シ、其部ハ著シク充血シ、中央ハ灰白色ヲ呈ス、之ヲ眼科學上「**フリユクテ**」ト云フ、此疹ハ結膜ノ濕疹ニ外ナラス、已ニ濕疹性結膜炎ノ名稱出ルニ至レリ

**症候及種類**(一)結膜加多兒ノ症候ヲ呈シ、結膜ハ充血シテ刺戟症狀ヲ發ス

(二)局部ノ充血シテ刺戟症少ナキコトアリ、殊ニ水泡小ニシテ數少ナキニ於テ然リ

(三)其數多ク發生スルカ或ハ一個ナルモ惡性ナルモノニアリテハ刺戟症劇甚ニシ、流涙羞明、疼痛アリ、眼瞼輕擡シテ、自ラ開瞼シカタク、殊ニ小兒ニアリテハ羞明甚シク、患者常ニ眼瞼ヲ閉鎖シテ終日室内ニ閉居ス、如此小兒ヲ診斷スルハ「**デスマル**」氏開瞼器ヲ以テスヘシ、然ルハ大概水泡ヲ認ム、若シ然ラサレハ角膜水泡之レナリ

(四)水泡ハ主トシテ角膜ト結膜ノ境界ノ部ニ於テ殊ニ内或ハ外皆ノ方向ニ生スルヲ常トス

種類之レヲ類別ツシテ三種トス、即チ其形小ニシテ一個或ハ二三個發生スルハ之レヲ「**孤立性**」ト云フ、小水泡角膜縁ニ沿テ簇生シ、殆ト角膜ヲ半還又ハ全還セントスルカ如キ多發スルモノヲ「**多發性**」ト云ヒ、時トシ



テ一個巨大ナル水泡孤生スルコトアリ之レヲ(三)廣瀾フリユクテト云ヒ又其性惡性ニ容易ニ角膜ヲ侵シ遂ニ潰瘍トナリ芒把狀角膜炎ヲ發シ或ハ穿孔シテ虹彩脱出ヲ來タス處ノ一大水泡ヲ角膜縁ニ孤生スルコトアリ然ルモ其ハ之レヲ惡性フリユクテ又ハ惡性膿胞疹ト云フ第十八圖ノ如シ

原因(一)腺病性ノ小兒ニ多シ大人モ亦之レニ罹ルコトアリ概シテ少シ(二)時期ニ關係ス即チ春秋ノ期ニ尤モ多キカ如シ(三)砂煙、風等ノ刺戟ニ由リ平素健康ノ人ト雖モ之レニ罹ルコトアリ(四)麻疹痘瘡后ニ罹ルコトアリ凡テ本病ハ温疹及ヒ加多兒ヲ有スル腺病性ノ人ニ來ルヲ以テ一ツニ腺病性結膜炎ノ名アリ

合併症(一)角膜病即チ芒把狀角膜炎、角膜潰瘍、角膜パンノマス、角膜溷濁(二)角膜穿孔シテ虹彩癒着(三)眼瞼濕疹等之レナリ眼瞼濕疹ハ却テ之レカ原因トナル凡テ不長ノ轉歸ヲ取ルモノハ惡性フリユクテ之レナリ

療法(一)腺病家ニハ新鮮ナル空氣ノ土地ニ轉セシメ内服トシテ肝油、鉄劑、比石劑、沃度劑等ヲ與エ滋養法ヲ施ス(三)局處療法トシテ本症ノ特效藥タル黃和チ点眼シ或ハ甘汞細末ヲ撒布ス(三)刺戟ノ甚シキモノニハ古加水、亞水等ヲ点眼シ濕布帶ヲ施ス(四)

合併症ニハ其處置ヲ施スヘシ余ハ刺戟ノ有無ニ關セス本病ト認ムルモハ初メヨリ黃和チ点眼シ大ニ効ヲ奏ス只涙液多キモノニハ効少シ

### (七)濾胞性結膜炎

症候本症ハ下眼瞼穹隆部ニ透明水泡狀ノ小隆起ヲ生シ其隆起ハ細胞群集ヨリ成ル腸遊ニ存在スル濾胞ト稱造テ同ス故ニ濾胞性ノ名アリ其濾胞ハ圓形ニシテ結膜ノ表面ニ並列シ其數少ナキモ下眼瞼ノ外側ニ限局スト雖モ多發スルモノハ全面殊ニ穹隆部ニ存在シテ相並列ス又上眼瞼ニモ發生スルコトアリ然ルモハ急性トシテホームト類似スト雖モ彼レニアリテハ上眼瞼結膜下即チ軟骨面ニ灰白色ノ斑點ヲ認ム之レ即チトヲホームトノ幼稚ナルモノト知ルヘシ本症ハ多クハ慢性ニ經過シ毫モ炎症性症狀ヲ呈セサルコトアリ或ハ急性ニ來タリテ結膜加多兒ノ症狀ヲ兼有スルコトアリ

### 濾胞性

トヲホーム

一專テ下眼瞼ニ發シ殊ニ穹隆部ニ生シ軟骨部ニ

一專テ上眼瞼ニ發シ初メ軟骨部ニ生シ后チ穹隆部ニ蔓延



生スルコト少シ

スルヲ常トス

一多クハ結膜面ニ並列シ  
テ珠子状ヲ爲ス

一多クハ不規則ニソ所々ニ散  
在ス

一濾胞ノミヨソノ灰白色ノ  
斑点ヲ有セス

一顆粒ノ外結膜下ニ灰白色ノ  
斑点ヲ有ス

一癍痕ヲ形成スルコトナシ

一癍痕ヲ形成ス然レトモ急性ノ  
モノニハ之レヲ有セス

原因衛生上不良ノ結果即チ不潔ノ空氣光線射入ノ不全及ヒ群居等之レカ因トナル  
往々狹舍監獄等ニ流行性トナリテ來タル其他貧血症及ヒ腺病性ノモノ「アトロ  
ヒ」ニ「エセリン」ノ点眼頻回反復スル場合ニ來タル「ア」アリ

預后經過預后ハ其ニ癍痕ヲ遺サス經過ハ極メテ永シ

療法原因療法ヲ主シ若シ亞水ニ因スルモノニハ之レヲ用ヒス急性症ニハ0.5%銀  
水ヲ用ヒ或ハ鈉糖和施林慢性症ニハ硼水ノ温卷法ニ兼テ2%銀水或ハ銅水ヲ塗擦  
ス

(八)トラホーム

本症ハ結膜ニ半透明灰白色ノ顆粒ヲ生スルヲ以テ特徴トス而シテ其性ハ傳染性ヲ  
有スル尤大難治ノ疾病ニシテ尤モ多ク蔓延ス本症ヲ分テ急慢ノ二種トナス

(甲)急性トラホーム

症候本症ハ急性劇甚ハ炎症ヲ以テ起リ初メ眼瞼結膜著シク發赤腫起シ眼球結膜  
モ亦發赤シテ少シク浮腫シ之レニ觸レハ出血シ易シ分泌物ハ粘液膜狀ヲ爲シ患  
者ハ羞明流淚及ヒ眼中ニ異物アルカ如キ感覺アリテ恰モ急性性結膜加多兒或ハ輕  
症ノ膿漏性結膜炎ニ類似ス然レトモ上眼瞼ヲ反轉シテ其裏面ヲ檢スレハ發赤増息  
スル乳膏ノ間ニ顆多ノ帶黃灰白色ノ圓形斑点散在スルヲ見ル之レ顆粒ノ初期ニ  
シテ其増大更ニ大ニシテ顆粒モ亦顆多ナリ濾胞性ト誤マルナカレ  
合併症角膜ハ通常侵カサレトモ雖モ又往々点狀浸潤ヲ來ス「ア」リ或ハ周圍潰瘍  
ヲ來ス「ア」リテ刺戟症狀モ此ノ場合ニハ頗ル増加ス



經過ハ大概數周ノ顆粒吸收セラレ癩痕ヲ結ハスヲ結膜ハ尋常ニ復ス若シ治療宜シキヲ得サレハ炎症減退スルモ顆粒ハ尙ホ存在シテ慢性トラホームニ轉スルモノ多シ

鑑別(一)濾胞性結膜炎ニ類似ス共ニ下眼眼ヲ侵シ其治スルヤ共ニ癩痕ヲ留メス故ニ本症ヲ急性濾胞性加多見ト看做スル者アリ然レモ上眼瞼囊面ニ灰白色ノ斑点許多散在スルアルヲ以テ之レカ別ヲナス若シ斑点ヲ認メサレハ濾胞性トナシテ可ナルモ一個タリトモ之レヲ認ムレハ急性トラホームト診定シテ可ナリ

(二)急性結膜炎又ハ輕症ノ化膿性結膜炎ト誤診スルコトアリ顆粒ノ存否ニ注意スレハ自然ニ區別スルコトヲ得若シ顆粒ナキモ時日ヲ經テ炎症消退スレハ顆粒自ラ現出ス

(三)慢性トラホームトノ區別ハ其末期ニ癩痕ヲ形成セサルニアリ

療法初期ニハ結膜ヲ亂切シ昇水硼水等ノ冷又ハ温罨法ヲ施シ炎症稍々消退セハ1%ノ銀水ヲ塗擦シ或ハ1%ノ鋸糠又ハ硫亞水ヲ点眼洗滌シ夫レト同時ニ罨法ヲ命ス角膜ニ合併症アレハ亞水ヲ点眼シ硼水ノ温罨法ヲ良トス

(乙)慢性トラホーム

本症ハ尤モ多ク有ル所ノ疾病ニシテ其經過モ亦緩慢ナリ而シテ本症ヲ乳頭性トラホームト顆粒性トラホームトニ種ニ區別ス

症候(一)自覺性ハ羞明流淚結膜充血等凡テ結膜病ニ發スル所ノ症狀ハ又本症ニ來タルモノニシテ角膜合併症ノ有無ニ由リ大ニ差異アリ又初ヨリ毫モ疾病アルヲ自覺セサルモノ多シ醫ノ診斷ニ由リ初メテ目性惡敷キヲ告ケ知ラス自然ニ經過シ可恐角膜病ヲ合併スルニ當テ初メ醫ニ診テ乞フ者比々皆然リ而シテ事已ニ重症ニ陥リ幸ニ視力ヲ得ルモ完全ナラス爲メニ幾多ノ時日ヲ要ス甚シキニ至リテハ完全社會ノ癩疾トナル宜シク注意セサルヘカラス

(二)他覺症ハ其種類ニ由リ多小異ナル所アリ左ニ論述ス

(イ)乳頭性トラホーム(眼瞼ヲ反轉シテ内面ヲ檢スレハ乳頭増息シテ恰モ天鵝絨狀或ハ覆盆子實狀ヲナシ而シテ本症ハ解剖上ヨリ觀ルルハ宜シク慢性化膿性結膜炎ト爲スヘキモノナレモ其性情ニ至リテハ(トラホーム)中ニ入ル、ナ當然トス

(ロ)顆粒性トラホーム(ハ吾人カ普通トラホーム)ト稱スルモノニシテ其經過ヲ三期



ニ分ツテ便利トス

第壹期 眼瞼結膜面ニ偏平灰白色ノ顆粒ヲ散發シ其ノ顆粒ハ結膜全面ニ互ラス或ハ其一部ニ於テシ或ハ内外眥ノ一部ニ於テ殊ニ多クハ穹窿部ニ上眼瞼軟骨ノ上縁ニ沿テ尤モ著シトス此期ハ即チ眞ニ顆粒性結膜炎ト云フヘキ期ニ結膜ハ一般ニ慢性結膜炎ノ症候ヲ呈スト雖モ比較的ニ炎症輕シ又希ニハ初メヨリ急ニ顆粒ヲ發シテ起ルコトアリ然ルモハ顆粒ハ非常ニ多ク發生シテ恰モ結膜ハ顆粒ヲ以テ充タスコトアリ如此夥シク發生スルモノヲ瀰蔓性トテホームト云フ

第貳期 ハ顆粒ノ半ハ破潰シ半ハ吸收シテ治ニ赴カントスルノ期ニ此期ニ於テハ顆粒ノ間ニ乳頭增大シ其甚シキモノハ顆粒ハ乳頭增大ノ爲メニ覆ハル、ニ至ル之レヲ雜性トテホームト云フ本期ノ特徴ハ已ニ述フルガ如シ半ハ脂肪變性ニ由リ吸收セラレ半ハ破潰シテ潰瘍トナルニアリ而シテ其潰瘍面ハ肉芽ヲ生シ爲メニ結膜面ハ不正トナリ分泌物ハ盛ニシテ膿性ニ變テ刺激症モ亦増劇シ本症ノ最モ可恐角膜病ヲ合併スルハ實ニ此期ニアリ

第三期 ハ癍痕期ニ顆粒破潰シテ癍痕ヲ形生シ又發生スレハ從テ破潰シ遂ニ結膜面ニ癍痕ヲ形生スルモノナリ而シテ其癍痕ハ固ヨリ顆粒發生ノ多少ニ由リ差異アリト雖モ其ノ劇症ニ於テハ左ノ變狀ヲ來タスヲ常トス

(一) 癍痕全結膜面ニ及ホセハ結膜ハ其常態ヲ失ヒ灰白色ノ膜ニ變シテ癍痕組織ヲ現シ其質固クシテ白線ヲ縱横ニ引クカ如キ狀ヲ爲ス

(二) 一層甚シキモノハ穹窿部モ亦消失シテ眼球后癒着ヲ來シ試ミニ下眼瞼ヲ下方ニ牽引スレハ縱走セル皺壁ヲ見ル

(三) 眼瞼軟骨モ亦常ニ炎症刺激ヲ蒙リ遂ニハ萎縮シテ内方ニ彎曲シテ夫レヨリ諸般ノ合併症ヲ來ス

合併症 (一) 角膜潰瘍 (二) 角膜ハンマ (三) 角膜炎 爲メニ虹彩炎ヲ併發スルコトアリ (四) 眼瞼内翻症及ヒ亂毛症 (五) 眼裂縮小症 (六) 結膜乾燥症及ヒ眼球后癒着症等之レナリ

角膜潰瘍及ヒ(パンマ)ヲ來タス病理ニ二說アリ其一ハ眼瞼結膜粗糙面ヲ以テ角膜ヲ刺戟シテ小潰瘍ヲ生シ潰瘍ノ發生スルニ及テ小血管新生シテ(パンマ)トナルト云ヒ其一ハ結膜粗糙ニ關係セス初メ点狀浸潤ヲ角膜ノ上部ニ起シ小血管之



レニ追隨シ浸潤益々多キニ及テ血管益々増加シ以テ(バンマス)トナリ其初メニ起ル小浸潤ハ結膜粗縞面ノ刺戟ニ由ラズシテ角膜ニ更ニ(トラホーム)ヲ新生セシモノナリト云フ此ノ説或ハ近カトラン果シテ眞ナリトセハ角膜(トラホーム)ノ名稱ヲ呼ブ又違キニアラサルナリ

**原因**本病ハ一種ノ傳染病ニシテ他人ヨリ受クルモノナリ蓋シ分泌物中一種ノ病毒アリテ間接ニ布片等ヨリ之レヲ他人ニ傳播スルナラン其病毒ハ或人ハ重球微菌ニシテ淋毒菌ニ類似スト雖ヒ(コッホ)氏ハ未ダ之レヲ發見セスト云フ其説一定ニ歸セサルモ何レニシテモ要スル處病毒ハ分泌物中ニ存在スルヤ明ナリ何ントナレハ分泌物益々盛ナレハ傳染愈々強ケレハナリ之レ第二期ニ於テ最モ可恐時期トスレハナリ

傳染ノ媒介物ハ大抵手指手布洗水ノ類ナリ而シテ衆人群居ノ所殊ニ育兒院學校監獄ノ如シ又貧民社會ハ同衾雜居スル等ノ爲メ傳播ヲ容易ナラシムルナリ

本病ハ何レノ地ト雖ヒ大抵之レアラサルハナシ殊ニ埃及亞刺比亞等ノ地方ニ多シ本國ハ山村都會ノ地ヲ問ハス何レノ地モ能ク流行シ在ルナリ殊ニ吾カ大阪市

ノ如キハ其ノ最モナル所トス  
男女ノ別ナク年齢ハ十歳以上二十五歳以下ニ尤モ多シ五歳以下五十歳以上ハ希ナリ二歳以下ハ絶テナシ

**病理**顆粒ノ由來ニ就テハ諸説紛々未ダ一定セス或ハ曰ク顆粒ハ新生物ナリト或ハ曰ク顆粒ハ結膜ニ於ケル濾胞ノ増大セル者ナリト云フ健康結膜ニ濾胞ナルモノアルヤ否ヤハ尙ホ確定セス或ル二三ノ氏ハ乙説ヲ信スルモ多クノ士ハ顆粒ハ新生物ナラント云フ説ヲ可トセリ

本症ト爾他結膜炎ト相互ノ關係ニ就テモ亦諸家ノ説一定セス急性化膿性ヨリ傳染スルヤ常ニ同一症ヲ發生スト雖ヒ其慢性症ヨリスルモノハ時トシテ同症ヲ發セスシテ却テ(トラホーム)ヲ發シ其ノ(トラホーム)ハ眞性ナルアリ或ハ乳頭性ナルアリ又ハ(トラホーム)ヨリ慢性化膿性結膜炎ヲ起スヲアリ由テ(トラホーム)ヲ明瞭ニ區別セラル、處ノ(アルト)氏ノ如キスラ死ニ望ミ(トラホーム)ヲ慢性化膿性結膜炎ノ條下ニ論スルヲ相當トセリト云フ

又ハ慢性化膿性結膜炎ヲ急性トシテ(トラホーム)中ニ入レ或ハ急性トシテ(トラホーム)ヲ慢性化



膿性結膜炎中ニ入レ論シ慢性トヲホームヲ全ク別物トシテ論スル輩アルト雖ヒ其論理未タ確定スルニ至ラス由テ舊ニ依リ區別スルノ優レルニ若カス

預后輕症ニシテ初期ニ適當ノ所置ヲナセハ治癒セシムルコトヲ得ルモ第二期ニ至レハ癢痕ヲ遺サスシテ治スルモノハ殆ント無シ凡テ角膜合併症ナキモノハ預后比較的良ナリ重症ニシテ病勢強キモノハ不良ナリ假令治スルト雖ヒ癢痕ノ爲メ角膜病ヲ遺シテ不良ノ結果ヲ取ルモノ殆ント皆然リ

療法慢性トヲホームノ療法ヲ論スルニ便宜上三段ニ分ツテ良トス

第一預防法ハ殆ント行ヒ難シト雖ヒ凡テ分泌物盛ナル患者ハ可成隔離シ之レニ用ユル器具及手布等一切ノ物品ハ消毒シ尙ホ他人ノ使用ヲ禁スベシ

第二藥品療法(一)1%||2%ノ銀水ヲ眼瞼結膜面ニ塗擦シ鹽水ヲ以テ洗滌スルコト毎日一回乳頭肥大甚シキハ濃厚ノ液或ハ硝酸銀棒ヲ以テ燒灼スルモ可ナリ(二)硫酸銅ハ古來諸家ノ稱用スル處ニシテ其用法ハ結晶硫酸銅ニテ結膜面ヲ摩擦スルカ或ハ5%||10%液ヲ滲布シ洗滌スルニアリ(三)昇水鉛醋水クレオリソ水等ヲ點眼洗滌ス(四)カイニンク氏其法ハ綿塊ニ五千倍乃至二千倍ノ昇汞水ヲ浸シ眼球結膜面及

ヒ穹隆部ナリ一回數十回摩擦スルニアリヒツベル氏ハ大ニ此法ヲ費用シ河本博士ハヒツベル氏カ賞スル如ク効ヲ見サルモ多少効驗アルヲ疑ハスト云フ

本法ヲシテ我國ニ初メテ實地ニ施行スルハ實ニ醫學士緒方収二郎君ニアリ氏ハ獨乙國ヨリ歸朝セラル、ヤ數名ニ就テ試ミ大ニ其効驗アルコトヲ余ニ示サレタリ時恰モ數名ヲ治療ス幸ニ法ヲカイニンク氏法ニ轉シ都合十ニ試ミタルニ緒方學士ト同シク良成績ヲ得タリ其結果ハ當時緒方病院醫事研究會雜誌第五十一號ニ舉ケテ世ニ公ニシ今尙ホ之レヲ行ヒ顆粒消失ノ如何ハ暫ク置テ患者ニ爽快ヲ與ルコトハ決シテ疑ハサルナリ

(五)昔ハ膿漏性結膜炎ノ分泌物ヲ接種シ近來ハ(ヤエキリチ)豆ノ浸汁ヲ点眼シ劇性炎症ヲ起サシメ后チ治癒スルト共ニ顆粒ノ消失ヲ目的トシテ用ヒタリ目下其法自然療法ニ歸セリ

以上述フル處ハ顆粒ニ對スル所置ナリ若シ合併症アラハ勿論夫レニ應スル所置ヲナササルヘカラス

第三手術的療法 (一)顆粒壓碎法其効疑シ(二)乱切法眼瞼結膜ヲ乱切シテ后チ昇水



ヲ筆ニ漫シ摩擦スルヲ良トス河本氏ハ顆粒ノ筒々分立スルモノニハ良ナルモ其  
 深部ニアルモノニハ効ナキカ如シ(三)穹隆部切除法眼瞼ヲ反轉シ有鈞攝子ヲ穹  
 隆部ノ結膜ヲ牽引シ剪力ヲ切開シ之レヲ剝離シテ其大部ヲ除去スルノ法ナリ(四)  
 軟骨切除法眼瞼ノ深部ニコカインヲ注射シ上眼瞼ヲ反轉シ其囊面ニ於テ瞼縁ト  
 軟骨縁ニ沿テ切開シ軟骨ヲ眼瞼ヨリ剝離シ之レヲ結膜ト共ニ切除ス而シテ后チ瞼  
 縁ヲ距ル大凡五密迷ノ處ニ於テ穹隆部ノ結膜ト眼瞼舉筋ト一舉ニ針ヲ眼瞼ニ貫  
 通シテ皮膚ニ結紮ス此法ハ軟骨著シク肥厚彎曲シテ結膜甚シク荒蕪スルキニ良  
 トス若シ穹隆部ノ結膜ニ顆粒顆粒シク存在スルキハ共ニ其部モ切除スルヲ良トス  
 (五)銳ヒ療法ハ目下廣ク行ハル、法ニ大凡一周一回反復施行スルヲ良トス之レ  
 施スニハ(コカイン)ニテ痲痺セルヲ良トス若シ穹隆部ニ顆粒多發スルキハ剪除ス  
 ルハ猶ホ秘ナリ(六)燒灼電氣ヲ以テ燒灼スルモ可ナリ

トヲホームニ對シ睫毛ノ關係ハ成書中未ダ曾テ見聞セシヲナシ然ルニ余  
 ハ明治三十年一月十二歳ノ小女ト八歳ノ男兒ノ睫毛著シク增長シ共ニ十  
 二密迷ニシテ幹ハ強固且ツ密生スルモノニ遭遇シ爾來數名ニ就テ試ニ眼瞼

ヲ反轉シ結膜面ヲ檢スルニ悉ク顆粒發生者ナラサルハナシ而シテ顆粒發生  
 スルニモ係ラス兒童ハ毫モ其疾病アルヲ自覺セス之レ余カ奇異ノ感ヲ生  
 シ研究ノ基礎トハナセリ爰ニ於テ余ハ大阪市某尋常小學校ニ就テ經驗ス  
 其ノ成績ニ由レハトヲホームト睫毛ノ關係ヲ世ニ紹介スルニ至ルヘキ價  
 値アルヲ信スルト共ニ小學兒童ニハ陰性ニ徑過スル、慢性トヲホーム、發生  
 者ノ大多數ヲ有スルヲ實驗セリ今左ニ其大畧ヲ記シ詳細ハ緒方病院醫  
 事研究會雜誌第六十八并ニ七十八號ニ舉テアリ

- 一 尋常小學校ニ就テ調査スルニ
- 一 長毛者ト顆粒發生者ノ關係調査成績
- 一 被檢者九百十五人
- 一 長毛者百九十九人睫毛九密迷以上ノ長サヲ算ス
- 一 長毛者中顆粒發生者百五十三人
- 一 其百分比例七十七人強
- 一 非長毛者ニ對スル顆粒發生者調査成績



- 一 被檢者七百十六人
- 一 顆粒發生者二百五十六人
- 一 其百分比例二十五人強

長毛者非長毛者ヲ間ヌ被檢者惣數ニ對スル顆粒發生者ハ實ニ可驚大多數ナリ

- 一 被檢者九百十五人
  - 一 顆粒發生者四百九人
  - 一 其百分比例四十四人強
- 之レヲ輕重ノ二種ニ分チテ檢査スルニ輕症ナルモノハ穹隆部又ハ内外皆ニ限局スルモノニシテ軟骨面ニ蔓延スルモノヲ重症トス
- 一 其百分比例ハ左ノ如シ
  - 一 輕症者二十三人弱
  - 一 重症者二十一人強
- 假リニ輕症者ヲ除テ算スルモ尙ホ百人中顆粒發生者二十一人余ヲ有ス

高等小學及ヒ尋常中學ニ就テ調査スルニ

- 一 高等小學ニ就テ顆粒發生者ノ調査成績
  - 一 被檢者八百六十人
  - 一 顆粒發生者百八十六人
  - 一 其百分比例二十一人強
  - 一 尋常中學ニ就テ顆粒發生者ノ調査成績
  - 一 被檢者五百十六人
  - 一 顆粒發生者五十二人
  - 一 其百分比例十人強
- 以上ノ成績ヲ相對照スレハ
- 一 右三學校被檢者惣數ニ對スル百分比例ヲ比較スレハ
  - 一 尋常小學四十四人強
  - 一 高等小學二十一人強
  - 一 尋常中學十人強



右調査ノ結果トシテ左ノ條項ヲ經驗スルヲ得タリ

- 一長毛者ハ眼疾ヲ自覺モサルモ己ニ顆粒患者タルヲ預診シ得ル
- 一顆粒現在者ハ睫毛長ク且ツ其幹強固ナル
- 一長毛者ノ顆粒發生者非長毛者ニ比スレハ三倍以上ノ%數ヲ有スル
- 一小學兒童ニハ意外ニ顆粒發生者ノ多キ
- 一輕症者ハ勿論重症者ト雖ヒ殆ント陰性ニシテ自ラ眼疾ヲ覺知セサル
- 一男女及ヒ榮養ノ如何ニ關係セサル
- 一年齡ノ長スルニ從ヒ顆粒發生者著シク減少スル
- 一幼時大多數ヲ以テ陰性ニ經過スルモノ年齡ノ長スルニ從ヒ自然ニ吸收消失スル
- 一一般眼病中尤モ多キモノハトヲホームナルニモ係ラス幼時陰性ニ經過スルモノハ尙ホ數倍多キモノト豫想シ得ル
- 一再言スルニトヲホーム患者ノ大多數ハ發現セシテ自然ニ治スルモノト知リ得ル

(九)軍陣眼炎 埃及眼炎

本症ハ那翁埃及遠征ノ時兵士ノ間ニ大流行ヲ來シ大ニ軍人社會ヲ煩シタルモノナリ由テ此ノ名アリ軍平ケテ歸ルニ及テ歐洲諸國ニ蔓延シテ一大流行ヲ來シ爲メニ失明スルモノ少カラス而シテ本症ハ惡性傳染病ニシテ或ハ化膿性結膜炎モ之レアルナラン或ハトヲホームモ之レアルナラン或ハ兩症混合ノモノモ之レアルナシテ要スルニ其性ノ強劇ニシテ惡性ナルハ右兩症ヨリ一層甚シキモノトス抑々トヲホームハ其前ヨリ己ニ流行シアルト雖ヒ歐洲大陸ニ蔓延セシメタルハ實ニ那翁遠征軍ニアリ

(十)春季加多兒

本症ハ極メテ希有ノ疾病ニシテ一種ノ徵候ヲ呈シ春季ニ發スル單純ノ加多兒ト混同スヘキモノニアラス

症候角膜縁ニ灰白色若シクハ淡江色ノ膠樣ニ肥厚セル隆起ヲ生シ結膜ハ多少充血シテ汚濁シ新鮮活發ノ赤色ヲ呈セス眼瞼結膜モ多少充血ス然レモ多クハ上皮肥厚シテ淡灰白色ヲ呈シ乳頭モ亦少シク隆起スル



前述角膜縁ニ發スル隆起物ハ外觀上「フリユツクデ」ニ類似スト雖ヒ素ヨリ異性ナルモノト知ルヘシ

(十二) 結膜乾燥症

症候 本症ハ結膜表面乾燥シテ涙液ノ濕潤セサルモノヲ云フ其乾燥部ハ白色ヲ呈シ且ツ一種ノ光澤ヲ放チ其狀恰モ脂肪或ハ石礫ノ附着スルカ如シ若シ角膜ニ來タレハ角膜乾燥症ト云ヒ多クハ共ニ合併スルモノナリ而シテ本症ヲ左ノ二種ニ區別ス

(甲) 實質性乾燥症 ハ結膜面ハ上皮細胞脂胞及ヒ粘液ヨリ成ル處ノ粉末樣ノモノヲ附着シ角膜ハ少シク溷濁シテ視力ヲ害ス

(乙) 上皮性乾燥症 ハ多クハ眼球ノ兩側ニ於テ其一部ノ結膜乾燥シテ白色ヲ呈シ泡沫ヲ附着シ患者多クハ夜盲ヲ合併シ而シテ其大部分ヲ侵スモノハ「キタ」トシテ恰モ銀鉞ヲ敷クカ如シ結膜ハ一種不快ノ暗褐色ヲ呈シ殊ニ榮養ノ不長ノ小兒ニ來ル時トシテ刺戟ノ爲メ常ニ眼瞼ヲ閉鎖スルモノアリ且ツ之レヲ開ケハ結膜ノ不快色尤モ甚シ

原因 (甲) ハ實扶的里トヲホーム火傷及ヒ内外反轉等ヨリ來タルヲ常トシ (乙) ハ榮養不良ノ小兒ニ來タルモノ多シ

療法 (甲) ハ不治ノ症ナリ然レヒ常ニ乳汁及ヒ「リスリン」水或ハ曹達水ヲ点眼シテ乾燥ヲ防禦セハ全治ニ至ラサルモ角膜ノ溷濁ヲ去リテ大ニ視力ヲ回復ス (乙) 温湯法ヲ施シ肝油、鵝肝、鐵劑、規那劑等ヲ與ヘ滋養強壯ヲ主トスヘシ余ハ甲乙共ニ鏡ヒ療法ヲ行ヒシト屢々之レアリ殊ニ上皮性ニシテ一小部ニ局限スルモノニハ鏡ヒ或ハ其局部ヲ剪刀ニテ切除スルヒハ一周内外ニシテ全治ス

(十三) 結膜翼狀贅片

本症ハ角膜又ハ其周圍部ニ一ツノ病變アリテ之レヲ誘起スルモノニシテ其本性ハ結膜肥厚シテ皺壁ヲナシ眼球ノ周圍部ヨリ角膜面又ハ其縁ニ向テ走ルモノナリ 症狀 已ニ述フル一ツノ皺壁即チ贅片ハ多クハ三角形ヲ爲シ頭頸體ノ三部ニ區別ス其頭ハ角膜ニ頸ハ眼球周圍部ニアリテ體ハ其中間ニ位ス其發生スル部位ハ多クハ内側外側ニアリ其小ナルモノハ害少シト雖ヒ大ナルモノハ眼球ノ運動ヲ妨害シテ復視ヲ來ス若シ贅片瞳孔ニ達スレハ大ニ視力ヲ害ス贅片ノ色澤ハ新生血



管ノ多少ニヨリ差異アリト雖モ多クハ著シク血管ヲ新生シテ赤色ヲ呈ス其少クシテ膜樣ヲ爲スモノハ之レヲ膜樣贅片ト云ヒ血管多クシテ肉樣ヲ爲スハ肉樣贅片ト云フ眼球運動ヲ害スルモノハ多ク此者ニアリ且ツ肉樣贅片ハ結膜炎ニ於ケルカ如ク刺戟症狀ヲ有ス

經過極メテ緩慢ナリ患者多クハ其初メヲ知ラス

原因已ニ述フル如ク角膜又ハ其周圍ニ一ツノ原因アリテ發スルモノニ「アルト」氏ハ角膜周圍潰瘍治癒スルニ當テ結膜ヲ牽引シテ以テ起ルモノトシ「フツキス」氏ハ主トシテ老人ニ發スルヲ以テ見ルニ恐クハ脂肪班ヨリ變化シ來ル者ニ潰瘍ト關係ナキモノトセリ然レモ其病理未ダ一定セズ

療法只手術ノ一法アルノミ(一)結紮法(二)移植法(三)燒灼法アリト雖モ目下之レヲ行フモノナシ左ニ述フル切除法アルノミ

(四)切除法ハ攝子ヲ以テ其体部ヲ握リ剪刀或ハ刀ヲ以テ頭部ヲ角膜ヨリ離斷シテ悉ク贅片ヲ切除シ角膜面ニ遺存スル部ハ銳ヒニテ搖把シ結膜ノ創口ハ縫合シテ后チ防腐劑帶ヲ施スベシ第十九圖ノ如シ

### (十三) 結膜下溢血

結膜下溢血ハ主トシテ外傷殊ニ打撲ニ因スルモノニシテ時トシテ結膜全面ニ及ホス「ア」リ然レモ意外ニ害ヲ蒙ルモノニアラス只鉛水、礮水等ニテ冷罨法ヲ施セハ至レリ然レモ其全ク吸收シテ消散スルニ至ルハ數週間ヲ要スルヲ常トス

### (十四) 結膜天疱瘡

症狀 結膜ニ一大疱ヲ生シ其上皮剝離シテ灰白色ノ一大欠損ヲ生シ結膜ヲシテ癢痕狀ノ萎縮ニ陥ラシメ甚シキニ至リテハ眼瞼ト眼球ノ癒着ヲ來ス多クハ兩眼ヲ侵スト雖モ極メテ稀有ノ疾病ナリ若シ天疱瘡アレハ診斷極メテ易シ  
療法 ハ只結膜辨ヲ造リ之レヲ眼瞼ニ移植シテ其癒着ヲ防クノミ

### (十五) 結膜澱粉樣變性

症候 結膜ニ硬固ナル腫瘍ヲ生シ黃赤色ヲ呈シテ一種ノ光澤ヲ帶ヒ恰モ赤蠟ノ如シ初メ結膜組織ニ細胞浸潤アリテ「ヒヤリン」變性ヲ爲シ次テ澱粉變性スルモノナリ又時トシテ化石或ハ化骨スル「ア」リト云フ經過ハ慢性ニシテ原因ハ不明時トシテ



ヲホームニ併發シ又中年ノ者ニ來タルト云フ

### (十六) 眼球癒着

本症ハ結膜疾病ノ結果トシテ來タルモノニシテ眼球結膜ト眼瞼結膜又ハ角膜ト癒着スルモノヲ云フ癒着廣クシテ穹窿部殆ント癒着スルハ之レヲ后眼球癒着ト云ヒ其狹クシテ橋狀ヲ爲スカ或ハ角膜ノ一部ニ癒着スルモノヲ前眼球癒着ト云フ乙ハ橋下ニ消息子ヲ通スルヲ得而シ癒着症ノ輕キモノハ敢テ障害ヲ爲サハルモ重クレハ眼球運動ヲ害シ且ツ常ニ刺戟症狀ヲ有ス

原因慢性トシテホーム實扶的里性結膜炎化膿性炎火傷大疱瘡等ヨリ來ルヲ常トス療法手術ノ一法アルノミ(乙)ニアリテハ其橋狀ノ兩端ヲ剪除スレハ足レリ(甲)ニアリテハ癒着部ヲ剝離シ眼球結膜ハ互ニ逢合スベシ

余ハ穹窿部ニ沿テ横切ヲ施シ其癒着ヲ防ク爲メニ毎日一回昇糸綿球ヲ以テ穹窿部ヲ磨擦シ後チ硼和ヲ点眼スルヲ創面ノ治スルニ至リテ止ム若シ刺戟甚シキハ古加水ヲ点眼ス

### (十七) 結膜損傷

結膜損傷ハ損傷異物火傷等之レナリ

### (十八) 結膜潰瘍

結膜ニ生スル潰瘍ハ梅毒性狼瘡性結核性潰瘍之レナリ

### (十九) 結膜腫瘍

結膜ニ生スル腫瘍ハ脂肪斑皮膚樣囊腫脂肪腫癌腫肉腫息肉腫血管腫肉芽性腫瘍疣贅等之レナリ

## 第四章 角膜諸病

### 角膜炎總論

惣論角膜炎ノ特徴ハ角膜ノ潤滑ニシテ其表層ニアルモノハ多クハ点狀ヲ爲シ中層ニアルモノハ汎發性内層ニアルモノハ專ラ点狀ヲ爲スヲ常トス而シテ病理上潤滑ノ原理ハ種々アリテ一定ナラス石灰變性或ハ脂肪變性又ハ「ミエリン」ヒヤリン等ノ變性ヨリ來タリ或ハ漿液蓄積等ニ由ルト雖ヒ眞ノ炎性潤滑ハ主トシテ細胞ノ浸潤ニアリ而シテ其細胞ノ由來ニ就テハ古來諸說紛々トシテ未ダ一定ニ歸セス要



スルニ左ノ二説ニ外カナラス(一)角膜周圍ノ血管ヨリ白血球出テ、角膜組織内ニ集積スルニ由ル(二)病毒ノ刺戟ニ由リ角膜自家ノ固定細胞増殖スルニ由ルト云フ

濁濁ニ次テ角膜炎ノ必發症ハ周圍充血之レナリ其理由ハ已ニ結膜充血ノ部ニ於テ詳論ス又角膜炎ニハ大概血管ヲ新生ス殊ニ實質炎ノ如キハ無血性トスル處ノモノモ精細ニ之レヲ檢スレハ殆ント皆之レヲ認メサルモノ無キカ如シ其他一般刺戟症狀ヲ發ス

區別角膜炎ノ區別ハ諸家ノ著書中少シク其趣キヲ異ニスル處アリ或ハ血管ノ有無或ハ化膿ノ如何ニ由ルト雖モ要スルニ化膿ノ有無ヲ主トシ解剖的ニ由テ分ツ

- (甲)無膿性角膜炎ニ其表層ヲ侵スモノ(一)水泡性角膜炎(二)角膜パンヌス(三)角膜ヘルヘス(四)点狀角膜表層炎(五)小泡性(六)大泡性角膜炎之レナリ其中層ヲ侵スモノハ
- (一)角膜實質炎(二)帶狀角膜炎(三)外傷性角膜炎(四)硬化性角膜炎其内層ニアルモノハ
- (二)点狀角膜炎之レナリ
- (乙)化膿性角膜炎ニシテ角膜ノ全層ヲ侵ス之レニ屬スルモノハ(一)角膜膿瘍(二)角膜潰瘍

瘍之レナリ

### 各論

#### 甲無膿性ノモノ

##### (一)水泡性角膜炎 一名腺病性角膜炎

症候本症ハ最モ多ク見ル處ノ疾病ニシテ殊ニ角膜面ノ中央ニ於テ灰白色ノ点狀浸潤即チフリユクランヲ一個或ハ數個ヲ生ス然ルニ名ハ水泡ト云フト雖モ格別隆起スルモノニアラス只一局部ニ細胞ノ浸潤スルモノナリ

自覺症候ハ刺戟尤モ盛ニ周圍充血又ハ結膜全般ニ充血シテ羞明甚シク小兒ハ光線ヲ恐レ頭ヲ垂レ室内ニ潛居シ眼筋痙攣シテ患者自ラ眼ヲ開クヲ能ワス然ルノミナラス醫モ亦之レヲ開ク能ハス須ラク「コカイ」ヲ点眼シテスマル氏開眼器ヲ用テスベシ強テ開ケハ熱水噴出シ人或ハ眼球破裂烈セシ感アリ又時トシテ刺戟症候全ク欠如スルモノアリテ患者自ラ疾病アルヲ知ラサルアリ

經過通常短キモノニシテ全ク治シ遠ハ再發ス動モスレハ小潰瘍ヲ生シ治癒后白斑



ヲ遺ス再發反復スレハ角膜ノ潤濁モ亦徒テ強ク且ツ血管新生シ潤濁部ニ向テ直  
行シ血管新生ノ部ハ潤濁シテ少シク隆起スルヲ常トス此ノ新生スル血管ノ形状  
ニ由リ第二十圖ノ如キ狀ヲ爲スルハ之レヲ芒把狀角膜炎又ハ有血性眼局性角膜  
表層炎ト云フ之レ本症ニ多ク見ル處ナリ若シ新生血管潤濁スル部ニ蔓延性ニ來  
タルハ水泡性邊縁潰瘍ト云フ  
ト云フ若シ又々角膜ノ周圍部ニ水泡ヲ生シ潰瘍ト成ル  
ハ水泡性邊縁潰瘍ト云フ

預後ハ良ナリ然レモ再發シ易シ或ハ白斑ヲ遺シテ大ニ視力ヲ害スルコトアリ

原因(一)腺病質(二)麻疹腸チーフス産後(三)局處ノ刺戟殊ニ(トヲホーム)其ノ原因トナ  
ルコトアリ(四)月經不調(五)氣候ノ變化(六)健全ナルモノモ亦之レニ罹ルコトアリ  
療法(一)刺戟甚シキハ(コカイソ)或ハ(アトロピン)ヲ点眼シ硼水ノ溫浴法ヲ施ス(二)  
原因療法(三)刺戟去ラハ(余)ハ刺戟アルモ黃降和或ハ甘汞ヲ撒布ス(四)芒把狀ノモノ  
ニハ燒灼電氣又ハ捧硝酸銀或ハ銳ヒ療法ヲ施ス(五)黃降和或ハ甘汞ヲ久シク用ユ  
レハ其潤濁ヲ去ルコトヲ得

### (二)角膜ヘルペス

### (三)小泡性又ハ大泡性角膜炎

### (四)点狀角膜表層炎

症候 角膜中央部ノ表層ニ灰白色ノ小斑点ヲ數多發生ス第廿一回ノ如シ然レモ刺  
戟症狀ハ概シテ少シ

原因 ハ呼吸器ノ加多兒ニ罹リ易キ人ニ多シ殊ニ小年ニ多クシテ三十歳以上ノ人  
ニ希ナリ

療法 (アトロピン)ノ点眼ニテ刺戟ヲ去リ黃降和ヲ点眼シ傍ヲ硼水ノ溫浴法ヲ命ス

### (五)角膜パンマス 一名有血性蔓延角膜表層炎

本症ハ殊ニ角膜ノ上部ニ潤濁シ蔓延性ニ血管新生スル處ノ疾病ヲ云フ

症候 自覺症ハ疼痛羞明流淚結膜充血視力障害等ヲ訴フ他覺症候ハ主トシテ角膜ノ  
上部潤濁シテ殆ント角膜ノ上半面ニ蔓延シ或ハ數箇ノ点狀浸潤ヲナス而シテ  
角膜ニ浸潤スル狀況ハ皆ナシ上皮下ニ於テ細胞ノ群集ヨリ形成スルモノニシテ  
(トヲホーム)ト搦造ヲ同フス由テ之レヲ(トヲホーム)浸潤ト云フ此ノ浸潤部ニハ結



膜ヨリ直チニ移行スル處ノ血管ヲ顆粒ノ新生シ其血管ハ表部ニアリテ蔓延ス第  
廿二圖ノ如シ其血管ノ多少ニ由リ本病ヲ肉狀(パンノマス)ト淡性(パンノマス)ノ二種ニ  
區別ス

原因(一)トシホトシハ粗澁面ヲ以テ角膜面ヲ摩擦スルニ由ルトス之レ今日迄專テ  
信用シツ、アル處ノ説ナリ(二)然レハ結膜面平滑ナルモ本病ヲ發スルヲアルニ由  
リ摩擦説ハ信スルニ至ラスト(レヘルマン氏ハ曰ク(パンノマス)ハ角膜(トシホトシ)由  
ト見做シ点狀浸潤ヲ顆粒ト同視シテ可ナリト云フ或ハ然ラン

余カ經驗ニ由レハ顆粒密生スルモ毫モ其刺戟ヲ感セサルモノ比較的多シ  
殊ニ已ニ述フルカ如ク小學生徒ニ就テ之レヲ詳カニスルヲ得タリ然ルニ  
「トシホトシパンノマス」ヲ療スル方進ハ多ク「トシホトシ」ニアリ殊ニ余カ信用シテ  
施行シツ、アル處ノ方ニ由リ只ニ顆粒ヲ治セシムルヲ得ハ「パンノマス」ハ自  
然ニ消失ス之レ「パンノマス」ハ「トシホトシ」ノ刺戟ニ因スルト云フノ説決テ捨  
ツヘカラサラン乎

(二)内反症或ハ亂毛症等ノ刺戟ヨリ來タル(三)潰瘍ノ回復期ニ來ルヲアリ然ルモハ

回復パンノマス「ト云フ(四)水泡疹再發反復ノ爲メニ來ルヲアリ水泡性パンノマス「ト云  
フ

經過及ヒ預後經過ハ概シテ緩慢ナリ而シテ結膜ニ關係シテ來ルモノハ其原因治ス  
レハ從テ治癒ス然レモ多少白翳ヲ遺ス又持久ナルモノニアリテ角膜軟弱トナレ  
ハ内壓ノ爲メ(パンノマス)性角膜膨脹症トナルヲアリ

療法(一)刺戟甚シキモ(アトロピン)コカイン等ヲ点眼スベシ(二)硼水ノ溫浴法蒸氣法  
冷浴法等臨機相交換シテ行フ(三)刺戟去ルカ或ハ現ニ刺戟アルモ其ノ原因結膜ニ  
アルモノハ結膜ニ對スル療法ヲ施スヘシ即チ結膜ノ粗澁面治スレハ(パンノマス)次  
第ニ治ス(四)肉狀(パンノマス)ニハ角膜周圍切除法ヲ行ヒ又燒灼電氣或ハ銳ヒ療法ヲ  
施ス此ノ場合ニハ勿論角膜上部ニ局限スルモノニ於テス(五)肉狀ノモノニハ強縮  
酸銀水或ハ硫酸水ヲ塗布ス又其結晶ヲ以テ塗擦スルヲアリ(六)パンノマス去ルノ后  
チニハ黃降和或ハ沃度保兒母和設林ヲ点眼ス  
余ハ(パンノマス)ト認ムルモ其ノ原因ヲ結膜ニ歸ス現ニ顆粒ヲ認ムルカ或ハ癍痕アル  
モハ勿論必ス(カイニンク)氏法ニ由リ大ニ快樂ヲ患者ニ與エルト共ニ全治ニ至ラ



シムルヲ經驗シ初診ヨリ之ヲ施行シテ良成績ヲ得ルナリ

### 角膜周圍切除法

角膜ノ周圍ヨリ二密迷計リ縁ニ沿テ結膜ヲ剪刀ニテ切除スルニアリ尙ホ確効ヲ得ント欲セハ同時ニ上鞏膜組織ノ血管ヲ亂切シ或ハ銳ヒテ以テ搖把スルヲ可トス

### (六)角膜實質炎

角膜ノ實質中淋巴細胞ノ侵潤ヲ起シ、滲濁ヲ來タス處ノ疾病ナリ而シテ肉眼上血管ノ有無ニ由リ有血性ト無血性ニ別ツト雖ル(一)ベテ以テ檢スレハ血管新生セサルモノ殆ントナシ其新生スル血管ハ多クハ蔓延シテ存ス由テ一名蔓延性有血性角膜實質炎ト云フ

症候自覺症候視力障害疼痛羞明及ヒ流淚等ノ刺戟症狀ヲ呈ス而シテ刺戟症狀ハ疾病ノ輕重ニ由ルト雖モ血管新生ノ多少ニ關シ其ノ多量ニシテ滲濁著シキモノハ強シ血管ヲ認メカタクモノハ一般ニ輕シ又初發ヨリ刺戟症狀ヲ訴エサルモノアリ

他覺症候角膜實質炎ノ特徵タル滲濁ハ多クハ角膜周圍部ニ初リ次第ニ中心ニ進行シテ全角膜ヲ犯スニ至ル而シテ其ノ侵害セラル、部分ハ恰モ研キ硝子ノ觀ヲ爲シ已ニ周圍部ハ消散スルモ中心部ハ長ク留マルヲ常トス然レモ時日ヲ經過セハ全ク消散スルモノアリ又否ラサルモノアリ滲濁ハ初メヨリ一局部ニ限局スルモノアリト雖モ多クハ廣ク蔓延スルモノナリ充血ハ必發ノ症ニシテ所謂角膜周圍充血之レナリ此充血ハ有血性ニシテ滲濁強ケレハ從テ強シ稀ニ血管ヲ認メ難キヲアリ此場合ニハ角膜翳ト誤診セサル様注意スヘシ血管新生ハ右二大特徴ニ次ク必要ノ症候ニシテ其著シキ者ニ於テハ(バ)ンヌ(ト)誤診シ易シ然レモ血管ノ走行ヲ詳カニスレハ自ラ(バ)ンヌ(ト)其ノ趣キヲ異ニセリ之レニアリテハ角膜縁ニ於テ忽然斷絶シ角膜面ニ現ハル、血管ハ恰モ刷毛ノ如キ狀ヲナスヲ第廿三圖ノ如シ又ハ初メヨリ刺戟症候欠如シ毫モ疾病ヲ感セス視力減少スルニ及テ初テ醫門ヲ叩ク者アリ又ハ初メ刺戟症狀アルト雖モ滲濁ナキモノ治療中滲濁ヲ起シ爲メニ視力ヲ害スルヲアリ醫士ハ須ラク爰ニ注意セサレハ患者治療ノ不可ヲ訴フルヲアリ



合併症虹彩炎ヲ起シ爲メニ点状角膜炎ヲ起シ或ハ虹彩癢着ヲ遺シ毛様体炎脈絡膜炎等ヲ誘起スルコト無キニアナルモ一般ニ希ナリ

經過疾病ノ輕重ニ由リ素ヨリ差異アリト雖ヒ大概五六ヶ月ヲ要シ又二三ケ年ニ及フコトアリ又一時全治スルモ再三發作スルコトアリ

預后一般ニ良ナリ經過數月ニ涉ルト雖ヒ治療ニ惰ヲサルモハ必ス全治スルコトヲ預メ患者ニ告グルヲ良トス劇性ノ者ハ瀉瀉ヲ遺スコトアリ又合併症ノ爲メニ不長ノ轉歸ヲ取ルコトナシトセズ

鑑別ハ角膜(パンヌス)ト相類似ス由テ其ノ鑑別ヲナス左ノ如シ

### 實質炎

- 一瀉瀉ハ濃厚ニシテ灰白色ヲ呈ス
- 一血管ハ中層ニアルカ故ニ瀉瀉部ニ於テ之レヲ認メ難シ
- 一血管ハ角膜縁ニ到テ忽然斷絶シテ結膜血管ト連通セス
- 一表面ハ粗糙ニシテ研キ硝子ノ如シ

### パンヌス

- 一多クハ希薄ニシテ淡赤色ヲ呈ス
- 一表面ニアルカ故ニ能ク其ノ枝別ヲ認メ易シ
- 一血管ハ結膜血管ト連通シ蔓延シテ能ク其枝別ヲ詳カニスルコトヲ得
- 一同シク粗糙ナルモ所々ニ表面ノ欠

一眼ニ特別ノ原因ナリ多クハ體質ニ關係ス

損部アリ  
一最も局部ニ關係ヲ有シ體質ノ關係少シ

原因 大概六歳以上二十歳ノ間ニ多シ素因ハ先天梅毒ニ由ルモノ多シ之レヲ詳明セシニハ(一)ハツチンソン氏ノ齒芽ヲ具フルモノヲ以テ特徴トス(二)骨線、皮膚及ヒ流産ノ避アル人ノ子等凡テ梅毒ノ關係アルモノ(三)后天、先天性梅毒ノ徴ナキモノモ之レニ罹ルコトアリ(四)時トシテ原因不明ナルモノアリ

ホツチンソン氏ハ遺傳梅毒ハ小兒期ニ於テ化骨スル所ノ齒ニ永久痕跡ヲ遺ス之レ主トシテ珐瑯質發育不全ニシテ口内炎ノ媒介ニ由ルト云フ其主ナル徴候ハ上門齒ノ末端欠損スルト齒ノ橫徑小ニシテ殊ニ發育善長ナルモノニ比スレハ明瞭ナリ且ツ各齒間ハ大ニ停離スルヲ常トス又門齒ハ盡ク然ルアリ或ハ一二ニ止マルアリ又犬齒ニモ發スルコトアリ

療法 本病ヲ治療スルニハ初診ニ於テ左ノ條件ヲ論告シ充分患者ノ意中ヲ定メ置クヲ要ス(一)經過ハ非常ニ長キ(二)預后ハ良ナル(三)一眼ナレハ他眼ヲ犯ス恐ア



ル(四)初期ニ濁濁少キモノハ治療中却テ濁濁増シ視力ヲ害スルヲ時トシ之レアル(五)治療ニ由リ大ニ佳良ニ赴キタル者時トシ據ルヘキ原因ナクシテ頗ニ増悪スルコトアルヲ預知シ置ク

(一)初メ(アトロヒチ)ヲ一日數回点眼シ瞳孔ノ散大スルヲ見テ毎日一回点眼シ兼テ硼水ノ温罨法ヲ施スヘシ

(二)新生血管多量ニ成積宜シカヲサルモノニアリテハ周圍切除法或ハ電氣燒灼ヲ行フコトアリ

(三)炎症去リ濁濁アルモノニハ黃降和沃度保和甘汞等ヲ塗擦ス

(四)全身療法トシテ樞梅毒法肝油ノ内服等ヲ爲サシム

### (七)硬化性角膜炎

本症ハ角膜縁ヨリ三角形ナル灰白色ノ濁濁ヲ生シ其治スルヤ殆ント全ク消散スルモノ少ナク多クハ硬化シテ灰白色ノ癩贅ヲ留ムルモノナリ而シテ初メハ實質炎ニ類似スト雖ヒ之レニアリテハ血管ヲ有セス且ツ多ク上鞏膜炎ヨリ來タルモノナリ由テ上鞏膜炎角膜ヲ周擁セハ本症モ亦周擁シテ角膜ハ鞏膜ニ變シ僅々中央

部ノニ角膜ノ常態ヲ有スルニ至ルコトアリ

### (八)帶狀角膜炎

本症ハ虹彩脈絡膜炎若クハ縁内障ニ由テ已ニ失明スル者ノ角膜ニ白色帶狀濁濁ヲ遺シ毫モ刺戟症狀ヲ有セサルモノナリ

### (九)外傷性角膜炎

本症ハ白内障摘出術后ニ發スルモノニシテ即チ創縁ヨリ灰白色ノ線狀ヲナス之レ創口ヨリ房水浸潤スルモノニシテ術后大凡七八日ヲ經過セハ全治スルモノナリ

### (十)点狀角膜炎

本症ハ虹彩炎ノ結果トシテ(テセメツト)氏膜ニ浸出物ノ附着スルニ由リ或ハ初發ヨリ其内層ニ白色ノ点狀浸潤ヲナシテ來タルコトアリ

### 乙化膿性ノモノ

角膜ノ全部或ハ一部化膿シテ角膜組織ノ欠損ヲ來タシ終ニ癩痕組織ヲ結テ治スルモノニシテ其化膿ハ組織内ニ限局シテ破壊セサルモノヲ膿瘍ト云ヒ其外面ニ破



壞スルモノ之レヲ潰瘍ト云ヒ其内面ニ破壊スルモノヲ前房蓄膿ト云フ其他原因ニ由リ特ニ名稱ヲ附スルコトアリ例ニ神經摩痺性角膜炎、兎眼性潰瘍ト稱スルカ如ク

### (十二) 角膜膿瘍

症候本症ハ角膜ノ一部ニ膿性浸潤ヲ起スモノコソ多クハ微菌ノ傳染ニ由ルモノナリ而シテ新鮮ナルモノハ灰白色或ハ黄色ヲ呈シ其周邊ハ溷濁ス發生ノ部位ハ多ク中央ニアリ一箇或ハ數箇發生ス又周圍部ニ數箇簇生シテ輪狀膿瘍ヲ爲スコトアリ  
膿瘍ノ局部ハ表面ニ隆起シ若シ膿液周圍ニ蔓延スレハ却テ陷没ス時トシテ膿液角膜ノ下方ニ沈降シテ凸面ヲ下方ニ向フ處ノ半月形ヲナス之レヲ名テ角膜爪ト云フ前房蓄膿ト區別セサルヘカヲス兩者共ニ凸面ヲ下方ニ向フ半月形ヲ爲ス然レレ(乙)ハ角膜縁ニ密接スルモ角膜爪ハ實質中ニアルニ由リ角膜縁ヨリ多小離隔ス

自覺症ハ疼痛、羞明、流淚等ノ刺戟症狀アリ殊ニ炎症ノモノハ刺戟症狀甚シ周圍充

血モ從テ強シ無炎症ノモノハ之レニ反シテ刺戟症少シ

轉歸佳良ノ轉歸ヲ取ルモノハ破壊セスシテ吸收セラル殊ニ膿瘍部ニ血管新生スルルハ吸収ニ便ナリ膿瘍ノ上層破壊スレハ潰瘍トナリ若シ内面ニ破壊スレハ前房蓄膿症トナル第廿四圖ノ如シ

預后好時期ニ於テ適當ノ療法ヲ施スハ僅微ノ溷濁ヲ遺シテ治ス然レレ多クハ角膜白斑ヲ遺スヲ常トス不幸ノ極ニ至レハ角膜全面破壊シテ全ク失明ス

原因(一)外傷殊ニ稻穂ノ尖端ニテ角膜ヲ穿透セテ發スルコトアリ又手術后病毒ノ進入ニ由リ發スルコトアリ(二)結膜炎殊ニ化膿性又ハ實質的里性結膜炎(三)傳染病即チ腸チフス、麻疹、痘瘡等ノ末期ニ於テ之レヲ發ス(四)糖尿病モ之レカ因トナルコトアリ

療法(一)アトロピン水ヲ点眼シ礪水ノ溫罨法ニ兼テ毎日防腐劑ニテ洗滌ス(二)膿瘍ノ前壁ヲ破リ鏡ヒニテ搔去シ或ハ電氣ニテ燒灼ス(三)線狀刀ノ又チ前方ニ向ケ膿瘍ノ一側ヨリ他側ニ貫キ以テ患部ヲ切開スルコトアリ(四)角膜芽孔術ヲ施ス其ノ理由ハ前房水ノ出ルト共ニ膿液排出シ且ツ内壓頓ニ下降シテ角膜ノ榮養善良トナ



リ膿瘍爲メニ停止スルニアリ

### (十二) 角膜潰瘍

本病ハ初メ一箇或ハ數箇角膜ニ浸潤又ハ膿瘍アリテ患部ノ上皮剝脱シ實質欠損ヲ來タスモノニシテ潰瘍ノ強弱ハ浸潤ノ深淺ト病毒ノ如何及ヒ體質ノ良否ニ由リテ差異アリ而シテ角膜潰瘍ハ尤モ強キ刺戟症狀ヲ有スルモノニシテ如此刺戟症狀ノ強キモノヲ炎症性潰瘍ト云フ又稀ニ刺戟症狀欠如スルモノアリ之レヲ無炎症性潰瘍ト云フ角膜潰瘍ノ症候ヲ論スルニハ大ニ時期ニ由リ異ナル處アレハ共ニ經過ヲ併テ論スルヲ良トス

症候及ヒ經過第一期ハ即チ進行期ニシテ常ニ充血羞明流淚疼痛等ノ刺戟症狀ヲ發シ潰瘍自家ノ底面ハ灰白色ヲ呈シ其緣界ハ溷濁シテ峻削ナリ溷濁次第ニ周圍ニ蔓延シ或ル一方ニ限局シテ進行スルコトアリ之レヲ進行性潰瘍ト云フ然ルモハ刺戟症狀一層増劇ス此ノ期ニ屢々合併スルモノハ虹彩炎或ハ前房蓄膿症ナリ角膜ノ周圍ニ環狀ノ溷ヲナスモハ輪狀角膜潰瘍ト云フ

第二期ハ退行期ニシテ刺戟症狀頓ニ中止シ潰瘍底面ハ平滑トナリテ緣界モ亦圓滑トナリ治癒ノ徵ヲ呈ス

トナリ治癒ノ徵ヲ呈ス

第三期ハ癒痕期ニシテ新生組織ヲ以テ欠損部ヲ補充シ常ニ結膜ヨリ血管來タリテ其治癒ヲ促ス此新組織ハ常ニ白色ヲ呈ス由テ之レヲ白斑ト云フ組織欠損部ヲシテ全ク補充シ能ワサルモノヲ沒落癒痕ト云ヒ其ノ沒落部殆ント透明ナレハ之レヲ磨滅ト云ヒ癒痕部内壓ノ爲メニ實際スルモハ之レヲ膨脹性癒痕ト云フ

潰瘍穿孔スレハ熱水噴出シ劇痛ヲ感シ患者自ラ眼球破裂ヲ訴フ其穿孔小ナレハ却テ好況ヲ呈シ治癒ヲ促ス若シ大レハ房水ト共ニ水晶體脱出シ爲メニ眼球内出血或ハ病毒侵入シテ全眼球炎ヲ起スカ如キ不良ノ轉歸ヲ取ルコトアリ通常ハ穿孔部ニ虹彩脱出シ穿孔大ナレハ虹彩ノ大部分脱出シ小ナレハ其ノ局部ニ脱出ス而シテ其部ハ次第ニ肉牙組織ニ由リテ白色ノ癒瘍ヲ形成ス之レヲ癒着性白斑ト云フ第廿五圖ノ如シ又ハ角膜ノ全部破壊シテ全虹彩脱出シ角膜ハ全ク消失シテ全虹彩ノ癒着セル一大癒痕ヲ以テ之レニ代ハルモハ之レヲ角膜炎ト云フ虹彩脱出スルニ當リ相當ノ所置ヲナサレハ脱出部ノ癒痕菲薄ニシテ内壓ニ勝ツコト不能シテ膨脹ス其膨脹角膜ノ全部ニ及フモハ全角膜葡萄腫ト云フ若シ覆盆子狀ヲ爲スモ



ハ覆盆子狀、葡萄腫ト云フ又角膜ノ局部ニアルキハ同處葡萄腫ト云フ  
種類(一)炎性ノモノハ(イ)單性角膜潰瘍(ロ)匍行性角膜潰瘍(ハ)蠶蝕性角膜潰瘍(ニ)枝狀  
角膜潰瘍ノ四種アリ

(二)無炎性ノモノハ(ホ)吸收性角膜瘍之レナリ  
以上類別スル角膜潰瘍ハ各自其症候ヲ異ニスルニ由リ各特徴トスル主症候ヲ各  
條下ニ論シ又原因及ヒ療法ニ於テモ特ニ異ナル處ハ更ニ其由ヲ記ス

(イ)單性角膜潰瘍

本症ハ角膜ノ外傷或ハ結膜病ヨリ來タルモノニシテ角膜ノ表層或ハ中層ニ浸潤又  
ハ膿瘍ヲ生シ前壁破レテ潰瘍トナル其數一箇或ハ數箇一時ニ發スルコトアリ羞明  
流淚疼痛等刺激症狀ハ常ニ強劇ニシ時トシテ前房蓄膿又ハ虹彩炎ヲ合併ス潰瘍ノ  
狀況ハ單鈍ニシテ意ノ徵候ナシ

(ロ)匍行性角膜潰瘍

本症ハ尤モ危險ナル疾病ニシテ角膜ノ中央部或ハ周圍部ニ浸潤又ハ膿瘍ヲ生シ續

テ潰瘍トナル其周圍ハ濁濁シテ帶黃白色トナリ漸次周圍ニ蔓延ス蔓延ノ狀況ハ  
好シテ表層ヲ犯シ深ク侵入スルハ稀ナリ其底面ハ濁濁シ邊緣ハ峻銳ナリ漸次進  
行スルニ從テ前房内ニ膿汁ヲ漏出シ前房蓄膿症ヲ來ス由テ(ロセル)氏ハ一ツニ前  
房蓄膿性角膜炎ト云フ

本症ハ角膜潰瘍中尤モ惡性ニシテ刺激症狀甚ク結膜充血アリテ眼球結膜少シク  
腫起シ虹彩モ多少犯サルコト多シ

(ハ)蠶蝕性角膜潰瘍

本症ハ角膜周圍部ニ鏽狀ノ潰瘍ヲ生シ夫レヨリ中央部ニ蔓延スルモノニシテ恰モ  
蠶ルカ桑葉ヲ蝕スルカ如キ狀ヲナシ其性主トシテ表層ノ三ヲ蝕シ毫モ深層ニ  
達セス通常角膜ノ表層ヲ殆ント全ク蝕シ而シテ初メテ止ムモノナリ蝕蝕ス  
ル邊緣ハ峻銳ニシテ底面ハ多少濁濁スルモ殆ント透明ナリ其蝕蝕スル周圍モ亦殆  
ント透明ニシテ濁濁少ナシ血管ハ愛ニ新生スルモ前房蓄膿ハ決シテ之レナシ而シ  
一般ノ刺激症狀ハ輕少ナレド疼痛ハ劇甚ナリ

(ニ)枝狀角膜潰瘍



此ノ症ハ角膜ノ表面ニ淺溝ノ潰瘍アリテ枝葉ヲ派出シテ匍行性ニ蔓延シテ劇甚ノ刺戟ヲ有スルモノヲ云フ其ノ枝葉ノ末端ハ灰白色ニシテ漸次破レテ潰瘍トナル本病ハ治癒ノ后ト雖モ尙ホ枝葉ノ痕跡ヲ有スルヲ以テ知ルヲ得ヘシ第廿六圖ノ如シ其原因ハ未ダ一定ノ説ナシ

以上四種ハ共ニ炎症潰瘍ナリ刺戟症狀劇甚ニシ其尤モ危險ナルモノハ(ロ)ノ二種ニアリ左ノ一種ハ無炎症ナリ

(ホ) 吸收性角膜潰瘍

本症ハ腺病性ノ小兒ニ多ク發生スルモノニシテ其性狀大ニ他ノ潰瘍ト異ニシテ常ニ角膜ノ表面ニ圓形ノ小欠損ヲ生シ其部ハ透明ニシ且ツ刺戟症ナク視力モ亦障害ナシ

其他神經麻痺性潰瘍、鬼眼性潰瘍、角膜軟化症等ヲ角膜潰瘍ノ部ニ論スルアリト雖モ如此ハ一般角膜潰瘍ト關係ヲ異ニシ一種特異ノ原因アリテ來タルモノナレハ更ニ條下ヲ設ケテ論スルヲ相當トス

原因(一)特發性ニシテ動モスレハ外傷或ハ手術ヨリ來タルヲアリ殊ニ淚囊炎アレハ

尤モ危險ナリ(二)結膜病(三)角膜營養不良(四)傳染病ヨリ來タルヲアリ以上原因ハ凡テ下等社會ニ多シ蓋シ一ハ外傷ニ罹リ易キト一ハ結膜病若シクハ淚囊炎ヲ有スルモノ多キニ由ル

(イ)單性ノモノハ殊ニ結膜病即チ水泡性、加多兒性、トヨホム、化膿性、實扶的呈性、結膜炎等ヨリ角膜中央ニ一箇或ハ數箇ノ小潰瘍或ハ一大潰瘍ヲナシ又ハ邊緣潰瘍ヲ來スヲアリ

(ロ)匍行性ノモノハ四十才以上ノモノニ來ルト多シ其原因ハ外傷殊ニ稻穂ノ刺戟竹木ノ枝尖、石片等ノ刺戟其因トナルヲアリ之レ屢々目擊スル所ナリ

(ハ)蠶蝕性ノモノハ原因不明ナリ營養不良ノ者多ク之レニ罹ルカ如シト云フ

(ニ)技狀性ノモノハ角膜水泡、又ハヘルヘス、等ノ變性症トナリテ來ルト云フ

預后ハ通常潰瘍ノ深淺大小ニ關ス小ニシテ淺ケレハ其大ニシテ深ケレハ不其ナリ潰瘍治癒スルモ白斑ヲ遺スヲ常トス由テ白斑ノ部位ト大小ニ關シ視力障害ニ差異アリ體孔領ニアリテ殊ニ大ナルハ從テ甚シトス匍行性ノモノハ假令輕症ナリト雖モ白斑ハ免カレヌ又局所葡萄腫若ハ癒着白斑ニシテ止マルモノハ幸ニシテ多クハ大



破潰セラル、チ常トス故ニ角膜潰瘍中ノ危険凶悪ナルモノトス。腐蝕性ノモノハ通常不良ナリ如何ニ非常手段ヲ施スト雖ヒ失明ヲ免カレス適當ノ療法ニ由リ一時佳良ヲ呈スト雖ヒ時ヲ待スシテ潰瘍ハ再ヒ進行ス其ノ判決難キトハ(フオレスチン)液ヲ用ユレハ進行縁ハ綠色ニ染ムルヲ以テ一目瞭然タリ製法フロレスチン〇〇五<sup>2</sup>%重炭酸曹達水一〇〇枝狀性ノモノモ亦其ノ潤濁ハ免カレス吸收性ノモノハ欠損部ハ頑固トシテ其補充ヲ全フスルヲ難シ

療法通則(一)亞篤魯比涅水ヲ一日一回乃至數回点眼シ礪水又ハ昇水ノ温罨法ヲ施シ或ハ沃度保兒母ヲ撒布シ壓迫崩帶ヲ施シ一日數回崩帶ヲ去リ礪酸水又ハ昇水ニテ洗フ疼痛劇甚ナレハ(コカイン)水ヲ点眼シ兼テロートX三〇水二〇〇ヲ以テ温罨法ヲナス又防腐ノ目的ヲ以テ硝酸銀水ヲ点眼シ食鹽水ニテ洗フベシ之レ決シテ危険ナルモノニアラス(二)潰瘍更ニ癒難キトハ潰瘍ノ底面ト縁界ヲ悉ク焼灼スベシ若シ縁界不明ナレハ之レヲ染色ス(三)尤モ有効ナルハ角膜芽孔術若シ(セミツ)氏法ヲ施スヲ要ス此法ハ潰瘍ノ境界部ヨリ少シク健全ナル部ニ於テ切開スルコアリ(四)蓄膿アラハ角膜穿孔術ニ由リ排除ス若シ少量ナレハ單ニ温罨法ニ

由リ吸收セラル(五)劇甚ナル疼痛アレハ安質必林モロヒチ規尼涅等ノ内服ヲ與フ  
 (イ)單性ノモノハ通則第一第二ニシテ多クハ足レリ  
 (ロ)循行性及ヒ腐蝕性ノモノハ通則全法ヲ施スモ多クハ不其ノ結果ヲ取ルモノナリ  
 (ハ)枝狀性ノモノハ別ニ特意ノ法ナク臨機ノ處置ヲナス  
 (ニ)吸收性ノモノハ初メ亞篤魯比涅水ヲ点眼シ温罨法又ハ刺載藥即チ黃和甘柔等ヲ撒布ス

### 角膜穿孔術

之レニ用スル器械ハ 開險器 固定攝子 角膜穿孔針 鉗狀刀 之レナリ初メ(コカイン)水ヲ点眼シ局部ノ麻痺スルヲ待テ開險シ眼球ヲ固定シ角膜下縁又ハ下外縁ニ於テ鉗狀刀又ハ穿孔針ヲ角膜ニ直角ニ刺入シ尖端前房内ニ入ルヤ柄ヲ横ヘ虹彩ト平行シテ進メ創二三密迷ニ達スレハ針ヲ去ル然ル時ハ房水漏出ス若シ膿汁濃厚ナルカ如キ場合ニ於テ漏出シ難キトハ(スハテ)ヲ以テ創口ヲ開クヘシ若シ潰瘍面已ニ穿孔セントスル狀況アレハ假リニ其底面ヲ穿孔スルモ可ナリ又電



氣ヲ以テ底面ヲ燒灼穿孔スルモ可ナリ

### (十三) 袖經麻痺性角膜炎

本症ハ三又神經麻痺シテ角膜其知覺ヲ失フルニ來タルモノニシテ角膜破壞セラル  
ト強ケレハ刺戟症狀ハ比較的弱シ預后ハ不良ナリ

### (十四) 兔眼性潰瘍

本症ハ眼瞼輪匠筋ノ麻痺又ハ外反症眼球突出症等ノ爲メ角膜暴露シテ遂ニ潰瘍  
ニ陥ルモノナリ

### (十五) 角膜乾燥症及角膜軟化症

症候本症ハ營養不良ノ小兒ニ多ク見ル處ノモノニシテ同時ニ結膜乾燥症或ハ夜盲  
症ヲ合併スルモノ多シ而シテ眼球ヲ檢スルニ角膜ノ一局部乾燥シテ泡沫狀白斑ヲ  
呈シ一般ニ角膜ハ少シク光澤ヲ失ヒ結膜モ亦乾燥シテ白斑ヲ呈シ暗視不快ノ色  
ヲ有シ刺戟症ハ著シカラサルモ時トシテ羞明甚シキトアリ如此症狀ヲ以テ一定  
ニ止マルモノアリ然ルモ之レヲ角膜乾燥症ト云フ時トシテ左ノ劇甚ナル症狀ヲ

來スモノアリ之レヲ名ケテ角膜軟化症ト云フ即チ角膜ハ廣ク潤濁シ尤モ急速ナ  
ル經過ヲ以テ黃色ニ變シ潰瘍トナリ數日ヲ出テ全角膜破壞セラレテ灰白  
黃色トナル如此急性ナルニモ係ラス刺戟症殊ニ疼痛ハ僅少ニシテ強劇ナラス然レ  
モ小兒ハ羞明甚シクシテ常ニ眼瞼ヲ閉鎖ス

預后初期ニ注意セザレハ極メテ不良ナリ已ニ角膜ニ黃色ノ浸潤ヲ生スレハ最早  
術ナシ殊ニ小兒ニ於テ尙ホ然リ蓋本病ハ眼病ノミナラス生命モ亦危險ナリ然レ  
モ初メニ於テ食物ニ注意セハ又恐ルヘキモノニアラス

原因營養不良ノ小兒ニ尤モ多シ由テ貧民社會殊ニ紡績職工摺附木製造所ノ小兒  
ニ屢々見ルヲアリ結膜或ハ角膜乾燥症ヲ診察スルモ問フニ母乳ノ有無ヲ以テス  
多クノ患者ハ乳ヲク人工營養法ニ由リ養育スル貧民社會ナリ又大人ハ産后ノ婦  
人ニ罹リ易シ其地一般衛生上不健康ナル場合ニ多シ

療法(一)營養強壯法(二)已ニ本病トナレハ温霍法ニ兼テ肝油或ハ鰵肝ヲ火ニテ乾燥  
セシメ細末トナシ散或ハ丸トナシテ與フ(三)已ニ軟化症ニ陥ラハ一般ノ潰瘍療法  
ヲ施スヘント雖モ効驗少シ



（十）角膜翳

症候本病ハ角膜病ノ結果トシテ來タル溷濁ニシテ浸潤、膿瘍、潰瘍トノ爲メ組織ノ變化ヨリ發スル角膜溷濁ノ惣稱ナリ其ノ厚薄ニ從テ左三種ニ區分ス

- 一 薄翳(マクヲ)尤モ菲薄ニシテ殆ント透明ナルモノナリ云フ
- 一 斑翳(マクヲ)半透明ナルモノナリ云フ
- 一 白斑(ロイコム)不透明白色ナルモノナリ云フ

翳ノ部分ハ健康部ト平等ナルアリ或ハ陷沒スルアリテ一定セス而テ其陷沒部僅微ノ溷濁ヲナシ殆ント透明ナレハ之レヲ磨滅ト云フ白斑ニ虹彩ノ一局部癒着スルコトアリ然ルルハ灰白青色ヲ呈シ其中心部ハ黑色ヲ呈スルコトアリ之レ虹彩癒着ノ現象ニシテ癒着性白斑ト云フ

凡テ角膜翳ハ刺戟症狀絶テ無キモノニシテ局部ニ血管ヲ新生スルアリ或ハ否ラサルアリテ一定ナラス血管新生スルモノハ時トシテ刺戟症狀ヲ發スルコトアリ視力障害ハ翳ノ厚薄ト部位ニ從ヒ大ニ差異アリ瞳孔傾ニアリテ翳厚ケレハ視力障害甚シ角膜面ニ廣ク數箇ノ磨滅狀癍痕アレハ不正亂視ヲ來シ大ニ視力ヲ害ス

然ルルハ(シリントル)或ハ列孔眼鏡ヲ用ユレハ時トシテ視力善長ナラシムルコトアリ又視力障害ノ結果トシテ少年中ニ之レニ罹ルルハ近視、斜視、眼球震盪症等ヲ發スルコトアリ

診斷 翳厚キハ一日瞭然タレヒ其薄キハ往々之レヲ看過スルコトアリ必ス斜照法ニ據ラサルヘカラス然ルルハ輕微ノ症ト雖ヒ能ク之レヲ診定シ得殊ニ平面鏡ヲ以テ瞳孔ヲ照セハ翳ハ黑翳トナリテ現ハル角膜彎曲ノ度ハ角膜針ヲ以テ檢スレハ輪畫正シカラス

療法 (一) 翳ニ對シテハ黃和沃保和ノ点眼甘柔ノ撒布礫水ノ温罨法ヲ施シ自家用トシ5%阿片丁幾水又ハ沃度加里○一重炭酸曹達○二五蒸水一五○ノモノヲ点眼料トス(二) 翳ノ爲メニ視力ヲ害スルルハ適當ノ部ヲ撰テ假瞳孔術ヲ施ス(三) 治スヘカラルル白斑ニハ剝刺法即チ入墨ヲナス

剝刺術

ウエツケル氏初メテ之レヲ行ヒ其ノ法五千倍ノ昂水ヲ以テ墨ヲ磨リ預メ角膜ヲ拭リ濕氣ヲ去リ墨汁ヲ翳上ニ点シ剝刺針又ハ截刺針ヲ以テ之レヲ刺傷シ墨汁



ヲ吸收セシムルニアリ本法ハ醫ノ陳舊ニシテ刺戟症ナキモノヲ適應トス其ノ効  
ハ外貌ヲ善クスルト醫ノ爲メ亂視ヲ來タスル光線ノ亂入ヲ防キ視力ヲ善良ナラ  
シムルコアリ余ハ常ニ墨汁ニ朱墨ヲ磨リタル液ヲ加エ少シク褐色ト爲シ用ユ

### (十七) 角膜葡萄腫

本症ハ角膜潰瘍ノ結果ニシテ角膜ノ一部或ハ全部ヲ侵シ癢痕膨突セルモノヲ云フ  
甲ヲ局處葡萄腫ト云ヒ乙ヲ全葡萄腫ト云フ

症候(一)局處葡萄腫ハ通常角膜ノ中央ヨリ却テ周圍部ニ來タルモノ多シ其形ハ圓  
錐形或ハ不正形ニシテ球形ヲ爲スハ罕ナリ瞳孔ハ葡萄腫ノ部位ニ由テ異ナリ若シ  
葡萄腫下方ニアリテ虹彩ノ大部分之レニ癒着スレハ瞳孔ハ斜ニ前上方ニ向フ  
若シ角膜ノ中央ニアレハ虹彩ハ全ク葡萄腫ニ癒着シテ瞳孔ヲ全ク失フ葡萄腫ノ  
色澤ハ多クハ灰白青色ヲ呈シ又ハ白色ナルアリテ周圍部ヨリ血管新生ス

(二)全葡萄腫ハ角膜ノ全部破壊スルニ當リ内壓亢進ノ結果ニシテ虹彩ノ全部ハ葡  
萄狀トナリ膨突シテ多クハ球形ヲナス第廿七圖ノ如シ而シテ虹彩ハ全ク葡萄腫ト  
成ル由テ前房消失ス新鮮ナルモノハ壁菲薄ニシテ青色ヲ呈シ恰モ葡萄ノ如シ年已

ニ經ルモ形ハ尙ホ球狀ヲナシ色ハ漸次灰白青色トナリ又時トシテハ覆盆子狀ヲ  
ナスモノアリ然ルモハ覆盆子狀葡萄腫ト云フ之レ四直筋ノ作用ニ由リテ形成ス  
ルモノナリ葡萄腫ニハ必ス結膜ヨリ大ナル血管ヲ派出ス  
葡萄腫ノ爲メ來タル障害(一)視力ハ局處性ノモノハ其部位ニ從ヒ多少之レヲ有  
スルモ全葡萄腫ニアリテ僅カニ光覺ヲ有スルニ過キス(二)常ニ醜容ヲ現ハスノミ  
ナラス結膜及ヒ眼瞼ハ其刺戟ニ由テ炎症ヲ起ス(三)眼瞼閉鎖ヲ妨ケ爲メニ潰瘍ヲ  
生シ易シ(四)内壓亢進シテ一方ニハ葡萄腫ヲ増悪セシメ一方ニハ乳頭ヲ陷凹セシ  
メ遂ニ全ク失明スルト共ニ疼痛ヲ發ス之レ本病ニ續發スル緣内障眼ナリ  
内壓亢進ノ學說諸家ノ說種々アリト雖ヒ歸スル處ニ二說ニ止マリ其一ハ虹彩常ニ  
展張セラル、ヲ以テ刺戟的分泌物増進スルニ由ルト由リテ内壓亢進スルハ却テ  
局處葡萄腫ニ多シト云フ其一ハ虹彩ト角膜ト癒着シ(ホンタナ)氏腔閉鎖シテ内壓  
亢進ヲ來タスト尙ホ詳細ハ緣内障眼ノ部ニ論ス前述ニ說中未ダ一定ナラスト雖  
ヒ要スルニ内壓亢進ヨリ來タル眼球變狀ハ(一)葡萄腫益々増進膨突シテ遂ニ些々  
タル事柄ニ遭フモ容易ニ反復發作シ或ハ破裂シ或ハ眼球内出血ヲ來シ或ハ虹彩



毛様体炎進テハ全眼球炎ヲ續發シ終ニ眼球萎縮ニ陥ルコトアリ(二)鞏膜ヲモ亦一般ニ膨脹シ且ツ限局シテ著シク變化ヲ蒙リ所々ニ於テ局處葡萄腫ヲ起スコトアリ

**原因**全角膜破壊シテ虹彩前方ニ突出膨大スルカ或ハ角膜潰瘍ノ穿孔スルヨリ來タルモノニシテ其發スルヤ虹彩爰ニ癒着シ癥痕未ダ強硬ナラサルニ當リ内壓亢進ノ爲メ遂ニ外方ニ膨突スルモノナリ其内壓亢進ハ前述ノ理由アルカ或ハ號泣努力等其誘因トナルモノナリ

**療法**(一)預防法初メ虹彩脫出アラハ之レヲ壓迫シ或ハ切除シテ壓迫崩帶ヲ持續シテ且ツ努力ノ動作ヲ禁ス(二)局處性ノモノニハ其反對側ニ於テ假腫孔術ヲ施シ内壓減少ヲ試ミ且ツ視力ヲ善良ナラシム若之レヲ施ス不能ルモハ局部ヲ切除シ沃度保母ヲ撤布シテ壓迫崩帶ヲ施スモ可ナリ(三)全葡萄腫ニハ葡萄腫切除術ヲ施ス若シ初期ナレハ(グレンフェー)氏線狀刀或ハ(ペール)氏刀ヲ以テ單ニ切開シテ壓定崩帶ヲ施ス(四)場合ニ由テハ眼球摘出或ハ内容除去術ヲ要スルコトアリ

**全葡萄腫切除術**

(一)ペール氏ハ全氏ノ内障眼力ヲ以テ葡萄腫ヲ其根底ニ於テ切除スルノ法ニシテ初

メ其上方ヲ切斷シ次テ剪刀ヲ以テ下方ヲ切斷スルコトアリ然ルモハ自然内容物流出スルモ意ヲ留メス直ニ沃度保母ヲ撤布シ防腐崩帶ヲ施ス

(二)クリツチエ氏ハ初メ鞏膜ニ彎針數本ヲ穿貫シ然ル后チ(ペール)氏ノ法ニ由リ葡萄腫ヲ切除シ創口ヲ縫合スルコトアリ

(三)ウエツケル氏ハ葡萄腫ノ根底ニ於テ結膜ヲ輪狀ニ切開シ少シク之レヲ剝離シ預メ其創縁ニ沿テ一糸ヲ通シ次テ(ペール)氏法ニ由リ葡萄腫ヲ切除シ而シテ直ニ創口ヲ縫口ノ如ク括約結紮セリ第廿八圖ノ如シ

以上三法中(ペール)氏ノ法ハ創口大ナルニ由リ内容物ノ流出及ヒ出血等ノ爲メ全眼球炎ヲ起ス恐アリ然レモ極メテ希ナリ

「クリツチエ」氏ノ法ハ尤モ危險ナル毛様体ヲ共ニ結紮スルニ由リ毛様体炎ヲ起ス嫌ナキ能フス故ニ近頃此法ヲ行フモノ絶テナシ

ウエツケル氏ノ法ハ右ニ比シテ尤モ良ナリ

**(十八)圓錐角膜**

本症ハ先天或ハ后天性トナリテ十二歳ヨリ廿歳ニ至ル婦人ニ多ク見ル處ノモノ



ナリ其狀況ハ角膜ノ中央膨突シテ圓錐狀ヲナシ著シク亂視症ヲ來シテ大ニ視力ヲ害スルモノナリ

### (十九) 球狀角膜

本症ハ全角膜面圓滿ニ膨脹スルモノニシテ虹彩ハ后癒着ヲナスコアリ或ハ虹彩震盪症ヲナスコアリ又時トシテハ眼球全体ニ及ホシ鞏膜膨脹シテ水腫眼一名牛眼トナルコアリ

### (廿) 小角膜

角膜ノ全經ハ通常十二密迷ノ直經ヲ有スルヲ常トス然ルニ本症ニ於テハ先天性ニ小ナルモノニシテ虹彩或ハ脈絡膜異狀症ト合併スルモノナリ

### (廿一) 角膜腫瘍

角膜ニ發生スル腫瘍ハ肉腫癌膜皮樣腫等ナリ然レモ一般希ナリ

## 第五章 虹彩諸病

虹彩ノ疾病ヲ論スルニ先キタツテ虹彩ノ生理的作用ヲ論セント欲ス夫レ虹彩ノ

運動ハ瞳孔ノ縮小ト散大ヲ爲スニアリ而シテ生理的瞳孔ノ縮小ヲ來スヤ括約筋ニ分布スル動眼神經ノ末梢或ハ中樞ヲ刺戟スルニ由テ起ルモノナリ其原因トナルヘキモノハ(一)光線ノ射入(二)調節機能ヲ營ムニ由ル(三)輻湊機能ヲ營ムニ由ル(四)三叉神經ノ眼ニ分布スル知覺纖維ヲ刺戟スルニ由ル其散大ヲ來スヤ散大筋ニ分布スル交感神經ノ中樞或ハ其末梢ヲ刺戟スルニ由テ起ルモノニシテ其原因トナルヘキ者ハ(一)交感神經ノ中樞タル延髓ノ刺戟(二)凡テ縮小ノ原因トナルヘキモノ、欠如スル場合(三)精神ノ劇怒(四)皮膚ノ刺戟等之レナリ皮膚ヲ切開スレハ瞳孔忽チ散大スルハ之レカ爲メナリ

眼瞼ヲ反復開閉スレハ其度ニ應シテ瞳孔ハ必ス縮小散大ス之レヲ直達反應ト云フ他眼モ亦同時ニ同シク反應ヲ呈ス之レヲ同感性反應ト云フ例ニ一眼ハ黒内障眼ノ如ク者ノ爲メニ失明スト雖モ此ノ同感性反應ハ必ス存在スルモノニシテ又一眼盲目ナルモ瞳孔ハ兩眼共ニ同等ノ大サヲ有スルモノナリ若シ左右瞳孔ノ不同ヲ呈スルハ病疾ニ屬スルモノニシテ反射環ノ違心部ニ障害アル証ナリ

反射環トハ視神經ニ刺戟ヲ受ケ之レヲ括約筋神經ノ中樞ニ傳ヘ以テ瞳孔ヲ収縮



セシムル神経系ノ道路ヲ云フ即チ光線眼内ニ入り視神経ヲ經テ視神経ノ中樞タル四疊体ニ達シ(マイナルト)氏纖維(以上)ヲ經テ動眼神経ノ中樞ニ傳エ更ニ動眼神経(以上)ヲ經テ瞳孔ヲ收縮セシムルニアリ兩側ノ括約神經ノ中樞ハ更ニ連結纖維アリ互ニ連結スルモノナリ故ニ今一側例ハ右眼ニ光線射入スレハ其刺戟ヲ左側ノ中樞ニ分與シテ同時ニ右左ノ瞳孔ヲ收縮セシムルヲ以テ一眼失明シ(例ハ視神經萎縮ノ爲メ盲目トナリ)其求心部ノ傳達力ヲ失フモ瞳孔ハ兩眼共ニ同大ナリ爰ニ於テ健眼ヲ覆ヒ病眼ニノミ光線ヲ射スレハ反應ヲ呈セス之レ求心部ノ傳達力ヲ失フカ爲ナリ故ニ瞳孔ノ反應ヲ檢セントセハ必ス片眼ツ、各別ニ檢セサルヘカラス若シ兩眼共ニ健全ナルカ如シト雖ヒ一眼ニ同感性反應ナキトハ必ス遠心部ニ疾病アルト知ルヘシ第廿九圖ニ就テ説明ス

(壹)散瞳症

瞳孔ノ散大ハ精神ノ感激及ヒ皮膚ノ刺戟ニ見ルトアリ之レ多クハ生理的ニ囁ス又失明者ニ見ルハ光線反應ノ欠如シタルニ由ルモノナリ散大症ノ弊ハ光線ノ射入多量ニシテ羞明、眩暈等ヲ來タシ視力ヲ害ス然ルモ他ニ疾病ナケレハ小孔眼鏡

ヲ以テ檢スレハ視力完全トナル且ツ又調節機ノ麻痺或ハ屈折異常アレハ眼鏡ニテ矯正シ得ルモノナリ散大縮小症共ニ左ノ二種ニ區別ス  
 (イ)麻痺性散瞳症ハ括約筋ノ麻痺ニ動眼神経ノ麻痺ニ基因ス其原因ハ優麻質私梅毒質扶的里亞后ニ發ス或ハ魚毒打撲緣内障眼殊ニ多キハ散瞳藥即チ亞篤魯比涅タウトリン等而シテ動眼神経ノ麻痺ニ由ル者ニ比スレハ藥劑性ノ者ハ一層甚シトス何ナレハ括約筋ノ麻痺ニ乘テ開大筋ノ刺戟ヲ加レハナリ  
 (ロ)癱變性散瞳症ハ交感神経ノ刺戟ニ由テ發ス其原因ハ腦貧血癩癩ヒステリー回蟲ヒホコンテリ一等ニ由ル又眼球打撲ニ由リ括約筋ノ麻痺ノ爲メニ之レヲ發スルコトアリ然ルモハ瞳死ハ圓形ナラスシテ橢圓形又ハ一局處ニ局限シテ非常ニ散大スルコトアリ之レ強ク打撲ヲ受ケシ部位ニ適ス

(貳)縮瞳症

瞳孔ノ大サハ四密迷ヲ常トス本症ニアリテハ著シク縮小シテ帽針頭大ニ至ルコトアリ而シテ調節機、輻湊機、睡眠時又ハ結膜、角膜即チ三又神經ノ分岐部ニ刺戟アレハ瞳孔ハ著シク縮小ス如此キモノハ未タ以テ本症ノ症候トナサス且ツ又己ニ述フ



ルカ如ク瞳孔ハ縮小スト雖モ視力ニ於テハ毫モ異狀ヲ呈セサルモノナリ  
 (イ) 麻痺性縮瞳症ハ開大筋即チ交感神經ノ麻痺ニシテ脊髓勞及ヒ進行性麻痺ヨリ來  
 タルヲ多シ此症ニ於テ奇トスル所ハ光線ニ對シテハ反應ヲ呈セサルモ調節機ヲ  
 營ム際ニハ能ク縮小ス此ノ奇症ヲ名テ反射的瞳孔不動症ト云フ之レ預后不良ノ  
 徵ナリ其病理ハ未ダ明カナラス恐クハ反射環ノ傳通力消失ニ歸スルナラン  
 (ロ) 痙攣性縮瞳症ハ括約筋即チ動眼神經ノ痙攣ニシテ亞爾固兒阿片誤兒化混ニシテ  
 シ、エセリン、ヒロカルヒン等ノ中毒ニ由ル其他角膜結膜ノ疾病ニ見ル處ナリ  
 以上二種ノ疾病ハ專ラ症候的疾疾ニシテ只症狀及ヒ原因ヲ述フルニ過キス其療法  
 ノ如キハ勿論原因療法ニ由ルノ外ナシ

(三) 虹彩充血

症候虹彩充血スレハ色澤變スルヲ特徴トス即チ青色ノ虹彩ハ綠色ヲ呈シ反白色  
 ノモノハ汚穢綠色ヲ褐色ノモノハ帶黑赤色或ハ暗褐色ニ變ス瞳孔ハ縮小シテ反  
 應遲鈍トナリ時トシテ程度ノ周圍充血ヲ起スニアリ若シ色澤ヲ失ヒ周圍充血著  
 シク且ツ前記ノ諸症狀ヲ呈スルハ眞ノ虹彩炎ト見做シテ可ナリ

原因多クハ虹彩炎ノ初期或ハ近接部ノ炎症ノ前徵症ト成リテ來タリ或ハ續發ス  
 ル者アリ殊ニ結膜角膜鞏膜葡萄腫ノ炎症ニ伴フ

療法アトロピン水点眼及ヒ硼水ノ冷器法其他原因療法ヲ施スニアリ

(四) 虹彩炎

虹彩炎ハ實地上尤モ必要ナル者ニシテ其種類ヲ三種ニ區別ス蓋シ其訴フル處ノ症  
 狀ハ殆ント同様ナリ由テ左ニ其一般症狀ヲ論シ各條下ニ於テハ只其特徴ヲ論ス  
 ルノミ

(甲) 自覺症 (イ) 疼痛ハ不定ナリ或ハ劇甚ナル毛様痛ヲ發シ前額疼痛偏頭痛等ヲ起  
 シ殊ニ夜分ニアリテ一層増劇ス患者爲メニ安眠ヲ得サルヲアリ或ハ初發ヨリ疼  
 痛微弱ナルモノモ亦ナシトセス (ロ) 羞明流淚ハ急性症ニアリテハ必發ノ症ナリ (ハ)  
 視力ハ常ニ障害セラル其障害セラル、ヤ前房水ノ濁濁、角膜ノ濁濁、瞳孔領ノ濁濁  
 或ハ瞳孔閉鎖症等ノ有無ニ大ナル關係ヲ有ス

(乙) 他覺症 (イ) 角膜周圍充血ハ急性症ニ強クシテ慢性症ニハ概シテ弱シ殊ニ病性  
 輕重ニ關スルモノトス (ロ) 虹彩ノ變色之レ專ラ充血ニ由ルモノナレハ已ニ充血ノ



部ニ於テ論述セリ(ハ)色澤ノ消失、通常ノ虹彩ハ少シク光輝ヲ有スレトモ、炎症ニ罹ルモノハ光澤ヲ失フテ條紋不明トナリ且ツ不快ノ色澤ヲ現ワスモノナリ(ニ)瞳孔縮小之レ充血ノ爲メ反應遲鈍トナルニ由ルモノナリ、單リ漿液性ノモノハ多クハ散大ス(ホ)前房水ノ濁濁之レ單ニ前房水ノミニ止マルコトアリ或ハ(テ)セメツト(氏)膜ニ点房ノ附着ヲナス殊ニ漿液性ノモノニ於テ然リ(ヘ)前房内出血時トシテ前房内ニ出血ヲ認ムルコトアリ之レ多クハ外傷ニ因スル虹彩炎ニ於テス(ト)紅彩癒着ハ漿液性ノモノニアリテハ希ニ見ル處ナリト雖モ成形成性ノモノニハ必發ノ症ニシテ第三十圖ノ如シ其一部ニ癒着スルモノヲ局處癒着ト云ヒ其數ヶ所ニ癒着シ或ハ癒着セサル部分アリテ亞篤魯比涅ノ点眼ニ由リ金米糖狀ノ形ヲナス之レヲ点狀癒着ト云ヒ兩癒着ノ何レヲ問ハス其癒着部ハ初メハ黑色ノ斑点ヲ生シ遂ニ灰白色ノ斑点ヲ現ハシ大ニ視力ヲ害ス若シ紅彩ノ瞳孔縁全ク癒着セハ之レヲ輪狀癒着ト云フ其瞳孔領ハ初メハ眞黑色(瞳孔ノ色ニアラス)ヲ呈シ續テ灰白色ノ滲出性偽膜ヲ生シテ全ク瞳孔ヲ閉鎖ス之レヲ瞳孔閉鎖症ト云フ以上述フル癒着ハ水晶莖ニ癒着スルモノニシテ角膜内面ニ癒着スル處ノ前癒着ニ對稱シテ之レヲ后癒着ト云

フ若シ裏面全ク癒着スレハ全后癒着ト云フ凡テ癒着ヲ診スルニハ斜照法或ハ亞篤魯比涅水ヲ点眼シテ檢スヘシ若シ癒着アレハ毫モ反應ヲ呈セサルモ然ラサレハ瞳孔不正形ニ散大シ一目瞭然タリ(チ)前房蓄膿ハ化膿性ノモノニ於テ見ルノミ(リ)虹彩ニ結節ヲ生スルモノアリ結節性虹彩炎ト云フ其原因ニ由リテ護膜腫性結核性癩性ノ三種ニ區別ス

(丙)全身症狀トシテ過敏性ノ人ハ急性性症ノ初期ニ熱發惡心嘔吐等ヲ發スルアレモ一般ニ希ナリ

種類虹彩炎ヲ類別シテ左ノ三種トナス(一)成形成性(二)液漿性(三)化膿性虹彩炎之レナリ又其經過ニ由リ急慢ノ二症ニ分ツコトアリ虹彩炎ニ結節ヲ生スルモノハ之レヲ結節性虹彩炎トシテ更ニ原因ニ由リ(一)護膜腫性虹彩炎(二)結核性虹彩炎(三)癩病性虹彩炎ノ三種トナス

**(甲)成形成性虹彩炎** 一名單性虹彩炎

症候本症ハ普通虹彩炎ト稱シ尤モ多キ所ノ疾病ニシテ前述自他兩症候共ニ大概之レヲ借フル者ニシテ其特徵トスル處ノ者ハ炎症滲出物ノ爲メ虹彩ノ一局部或ハ点



狀又ハ輪狀ニ虹彩后癒着テ來タシ癒着部ノ初メ一局部ニハ一層黑色ヲ呈シ續テ同部ハ灰白色ノ濁濁ヲ生シ或ハ瞳孔ノ全部灰白色トナリテ瞳孔閉鎖症ヲ來タス原因ハ主トシテ梅毒ノ第二期ノ終ヨリ第三期ニ來タルモノナリ

(乙) 滲液性虹彩炎

症候本症ハ營養不良ノ婦人ニ多ク發スル處ノ症ニシテ漿液性分泌物ノ過多ナルカ爲メ前房水増量シテ少シク濁濁シ角膜ノ内面ニ点狀ノ沈着物アリ所謂点狀角膜炎ヲ起スヲ以テ特徴トス瞳孔ハ内壓亢進ノ爲メ却テ散大ス之レ他症ニ於テ見サル處ナリ

原因多クハ佝僂質斯ニ由ルモノナリ

(丙) 化膿性彩炎

症候虹彩實質ハ變色シテ膿球ヲ蓄積シ黄色ハ小結節ヲ呈ス又膿液前房内ニ蓄積シテ一般ノ刺戟症狀劇甚ナルヲ特徴トス而シテ病勢全葡萄膜炎ニ蔓延シテ全眼球炎ヲ來タスヲアリ

原因ハ特發性トナリテ來タル殊ニ外傷其因トナリ又角膜潰瘍ニ續發ス

經過一般ニ虹彩炎ノ經過ハ急性ノ者ハ諸症劇甚ナレハ慢性ノ者ハ症候緩慢ニシテ判然タラス屢々再發スルヲアリ

急性症ノ者ハ前記ノ諸症候ハ凡テ具フルモノニシテ適宜ノ治療ヲ施セハ五六周日ニシテ治癒スルモノナリ

慢性ノ者ハ諸病候極メテ輕微ニシテ時々反復發作シ其發作毎ニ二三ノ癒着ヲ來タシ些少ノ羞明ト視力ノ朦朧ヲ訴フルニ過キス或ハ全ク諸症候ヲ欠如スル者アリ又慢性症ノ者ハ一種ノ虹彩脈絡膜炎ト見做スヘキ者ニシテ經過久シク治セザレハ遂ニ眼球勞トナリ之レ再三反復シテ輪狀癒着ヲナシ前後兩房ノ行路ヲ妨ケ内壓亢進ノ爲メ失明ニ陥ルモノナリ

合併症硝子体ノ濁濁角膜實質炎内障眼毛様体炎及ヒ脈絡膜炎等ヲ合併スルヲアリ

轉歸治癒ニ赴クモノハ諸症候消退シ只水晶囊ニ黑色素ヲ遺スノミ全治ニ至ラザルモノハ局處癒着点狀又ハ輪狀癒着或ハ瞳孔閉鎖症等ヲ遺シ他日再ヒ虹彩炎又ハ葡萄膜炎或ハ縁内障眼等ヲ發スル恐アリ宜シク顧慮スヘシ



**原因**(一)先天梅毒トシテ初生兒ニアリ(二)后天性梅毒トシテ大人ニ尤モ多シ(三)外傷虹彩  
 角膜水晶体ノ外傷ハ本病ノ一大原因トナル又虹彩水晶体ノ手術后發スルヲアリ  
 (四)塞胃僕麻質斯(五)結膜角膜ノ疾病ヨリ續發スルヲアリ(六)癩病結核等ヨリ結節ヲ  
 發スルヲアリ(七)痘瘡腸至扶斯猖紅熱ヨリ續發スルヲアリ(八)交感性眼炎トナリテ  
 來タルヲアリ

梅毒ハ本病ノ一大原因ニシテ虹彩炎中殆ント三分ノ二ヲ有ス而シテ成形性ノモノ  
 ハ多クハ梅毒第二期ノ終ニ來タリ第三期ニ來タルモノハ多ク護膜腫性虹彩炎ナ  
 リ夫レ虹彩ニ護膜腫即チ結節ヲ新生スルトシテ特ニ之レヲ稱シテ護膜腫性虹彩炎  
 ト云フ

一般虹彩炎トシテハ以上三種ノ區別ヲ爲セハ足レリトス然リト雖モ尙ホ虹彩ニ  
 結節ヲ新生スルトシテハ結節性虹彩炎ト稱シ其ノ原因ニ由リテ更ニ三種ニ區別スル  
 ナ良トス

(一)護膜腫性虹彩炎ハ梅毒第三期ニ發スルモノニシテ成形性虹彩炎ト同一ナル症  
 狀ヲ呈スルト共ニ其特徴トシテ虹彩組織内ニ局處スル粟粒大ノ結節ヲ虹彩周圍

部或ハ瞳孔縁ニ一箇又ハ二三箇ヲ生ス此結節ハ血管ヲ有シテ帶黃赤色ヲナシ顯  
 微鏡下ニ檢スルニ一般護膜腫ト同一ノ構造ヲ爲ス由テ其ノ名アリ而シテ本症ハ適  
 當ナル治法ニ由リ全治スルトハ虹彩ハ萎縮シテ水晶體ト癒着シ其ノ局部ハ灰白  
 色ヲ呈スルヲアリ又護膜腫ハ時トシテ著シク増大シテ前房ヲ充タシ遂ニ角膜ヲ破  
 壞スルニ至ルヲアリ

(二)結核性虹彩炎ハ殊ニ幼年ニ多クシテ帶黃白色ノ小結節ヲ散發シ一節治スレ  
 ハ一節發シ又治スレハ又發スルカ如シ遂ニ全ク消散スト雖モ同時ニ脈絡膜炎ヲ  
 併發シテ失明スルヲアリ又時トシテ血管ニ富メル一大結節ヲ生シ前房ヲ充シ遂  
 ニ角膜ヲ破潰スルモノアリ

(三)癩性虹彩炎ハ虹彩ノ根部ニ小結節ヲ生スルモノナリ然レモ此症極メテ希ナ  
 リト云フ結節性ニアラサル普通ノ虹彩炎ハ屢々見ル處ニシテ極メテ慢性ニ經過  
 シ周圍充血モ亦輕クシテ刺戟症狀殆ントナシ多クハ無炎症性角膜炎ヲ併發スルモ  
 ノナリ而シテ炎症性微弱ナルニモ係ラス虹彩ノ反應遲頓ニシテ容易ニ散大セス  
 預后化膿性ノモノハ必ス不良ナリ葡萄膜炎ニ合併症アレハ從テ宜シカラス結核性



及ヒ癩性ノ者モ亦不良ニシテ梅毒ニ基因スルモノニ有テハ概シテ良ナリ殊ニ成形性及ヒ漿液性ナルヲ問ハス癒着ノ有無ト治療ノ時期ニ關係シ癒着少シテ時期愈々早ケレハ預后愈々良ナリ由シ癒着有ルニモ係ラス充分ニ適當ナル治療ヲ加レハ失明ニ陥ルカ如キ不幸ヲ見ルコトナキノミナラス患者ノ希望ヲ充スニ足ル由リテ初期ト認ムルハ治療法中第一項ヲ忘ルヘカラス

療法(一)虹彩炎ト認ムルハ第一ニ亞篤魯比涅ヲ点眼シ虹彩ヲ安靜ニシテ炎症ヲ除キ且ツ癒着ヲ防クニハ亞篤魯比涅ニ若クモノナシ宜シク亞篤魯比涅ヲ点眼シテ瞳孔ノ散大スルニ至ル迄一日數回点眼スヘシ若シ亞篤魯比涅ニ特意性ノ者ニハ他ノ散瞳藥例ニハ(ダトウリン)又ハ(シユホイジン)(ヒヨスチン)等ヲ代用ス(二)温器法トシテ(ロート)X三、水三〇〇、〇又礮水ヲ用ユ(三)水蛭尤モ劇甚ナルハ頤顛部二十二三箇ヲ貼ス(四)疼痛甚シキハ安質必林モロヒチ規尼涅ノ頓服又ハ(ロート)X三、水銀膏一〇、ノ膏劑ヲ貼附ス(五)儂麻質性ノモノニハ水揚酸曾達又ハ(ヒロカルヒン)ヲ頓服或ハ皮下注射ス(六)梅毒性ノ者ニハ沃剝沃度劑水銀劑撒兒朮ノ内服或ハ筋肉注射又ハ水銀膏ノ塗擦ヲ施シ若シ梅毒ノ原因ナキモ沃剝或ハ水銀膏ハ常ニ檢

用スルモノナリ(七)結核性ノモノハ限局セルハ其一部ヲ切除スヘシ(八)患者ハ可成腫室ニ置クヲ良トス(九)常ニ緩下劑ヲ用ヒ食餌ニハ淡白ノモノヲ良トス(十)虹彩癒着アリテ視力ヲ害スルニ至レハ虹彩切除法ヲ施ス  
以上ノ方法ニ由リ疾病ハ己ニ治スルモ尙ホ亞篤魯比涅ヲ点眼シ保護綑帶又ハ黑色ノ眼鏡ヲ用ユルヲ良トス

成形性	漿液性
<ul style="list-style-type: none"> <li>一 比較的多シ</li> <li>一 虹彩癒着殆ント皆ナ然リ</li> <li>一 前房潤濁ハ殆ント無シ只色澤ヲ失フノミ</li> <li>一 周圍充血著シク</li> <li>一 原内多ク梅毒ニアリ</li> <li>一 瞳孔縮小ス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一 比較的少シ</li> <li>一 極メテ希ニ之アルノミナリ</li> <li>一 殆ント皆ナ潤濁シ殊ニ角膜内面ニ点狀ノ潤濁ヲ生ス</li> <li>一 著シカラス</li> <li>一 多クハ儂麻質斯ニアリ</li> <li>一 多クハ散大ス</li> </ul>

(五)虹彩腫瘍



虹彩ニ發生スル腫瘍ハ 囊腫 眞珠腫 肉腫 血管腫 其他已ニ論スル 護膜腫 結核等之レナリ

(六) ヒツプアース

瞳孔反應ヲ起スヘキ原因ナク自然ニ散大縮小相交換シテ發スル症ヲ云フ

(七) 虹彩震盪症

虹彩ノ支置トナルヘキ水晶体欠亡或ハ硝子体軟化症等ノ散大縮小ノ際虹彩自ラ震盪スル症ヲ云フ

(八) 虹彩先天性異狀

虹彩ノ先天性ニ異狀ヲ呈スルモノハ極メテ希ナリ 虹彩欠亡症 虹彩色澤不同 虹彩裂孔 瞳孔轉移症 多腫症 瞳孔遺殘膜

(九) 虹彩外傷

虹彩ノ外傷ハ直達性又ハ間接性トナリテ來タルコトアリ

虹彩ノ手術ニ數法アリ今之レヲ大別シテ五種トナス 虹彩結紮法 虹彩剝離法

虹彩切開法 虹彩斷列法以上四種ハ目下不用トシテ應用セス尤必要ナル手術ハ即チ虹彩切除法之レナリ

虹彩切除法

手術準備初メ五千倍ノ昇永水ヲ以テ眼瞼及ヒ結膜面ヲ洗ヒ同時ニ昇水ヲ浸シタ

ル棉花ニテ眼圍ヲ清潔ニシ后チ(コカイシ)水ヲ点眼シテ局處ヲ麻痺セシム

器械之レニ用スル器械ハ 開瞼器 固定攝子 創狀刀又ハ芽孔針 虹彩攝子

彎剪刀又ハ攝子狀剪刀 スハナル

適應症(一)假瞳孔ノ目的ニテ角膜中央部ノ白斑、瞳孔閉鎖症、層間白內障、核白內障、

等光路ヲ遮キル者ニ虹彩ノ一部ヲ切除シテ視力ヲ回復スルニアリ虹彩ヲ廣ク切除スルハ不可ナリ

(二)內壓亢進ヲ減降セシムル目的ニシテ一般ニ縁內障眼、又ハ輪狀癒着ニ行フ其切除ハ廣大ナルヲ良トス

(三)消炎ノ目的ニテ專ラ慢性虹彩炎ニ應用スルコトアリ

(四)白內障摘出ニ便理ヲ與エン爲メ之レヲ切除ス



(五)異物又ハ腫瘍ヲ摘出スル爲メ之レヲ行フ

部位虹彩ヲ切除スヘキ部位ハ其ノ目的ニ由リテ大ニ差異アリ

第一ノ目的ニ出ツルルハ内下方ヲ撰フナ良トス何ントナレハ視軸ハ常ニ内下方ニ向フレハナリ若シ此部ニ障害アラハ下方外方上方ト次第ニ其位置ヲ定ムヘシ左右兩眼ニ施スルハ可成同部位ヲ撰定スルヲ良トス

第二第三第四ノ目的ニ出ルルハ上方ニ施スナ可トス之レ術后瞳孔ハ上眼瞼ニ由テ被覆セラレ光線多量ニ眼内ニ射入シ眩朦ヲ來スノ害ヲ防クヲ得レハナリ第五ノ目的ハ其發生ノ部位ニ由ルノ外ナシ

大小切除スヘキ虹彩ノ大小モ亦其目的ニ由リテ異ナラサルヲ得ヌ第一ニ出ルルハ小ナルヲ要ス之レ假瞳孔大ナレハ眩朦ヲ來ス恐アレハナリ第二ニアリテハ可成廣ク且ツ虹彩ノ毛様線ヨリ切除スルヲ良トス此ノ場合ニ於テハ角膜創ヲ周圍部ニ造リ尤モ大ナルヲ要スルルハ鞏膜部ニ造ラサルヲ得サルコアリ由テ虹彩切片ノ大小ハ角膜創孔ノ部位ト廣狹ニ關ス第三十一圖ノ如シ

術式第一節進備終レハ開瞼器ヲ以テ眼瞼ヲ開キ術者ハ左手ニ固定攝子ヲ以テ眼

球結膜ヲ角膜ニ近接シ切除部ニ相對スル部位ヲ固定シ右手ニ創狀刀又ハ穿孔針ヲ取リ其穿孔セント欲スル部ニ直角ニ刺入シ刀尖前房内ニ達セハ柄ヲ次第ニ下ケ虹彩面ト並行ニ進メ目的大ノ創口ヲ造リ刀ヲ抜去スヘシ此際ニハ柄ニ力ヲ加エ刀尖ヲ可成角膜ノ方ニ向ハシメ徐々ニ之レヲ抜去セサルヘカラス

第二節爰ニ於テ固定攝子ヲ助手ニ持セ術者ハ攝子ヲ取リ之レヲ密閉シテ創口ニ送入シ虹彩ノ瞳孔線ニ至リテ之レヲ開キ虹彩ノ一部ヲ箝取シ創口外ニ牽出シ攝子狀剪或ハ剪刀ヲ以テ角膜面ニ接シテ切除ス

第三節已ニ切除セシ虹彩ノ根部ハ自然ニ舊位ニ復シ然ラサレハ(スパテ)ヲ以テ舊位ニ復サシメ開瞼器ヲ去リ后ヲ洗テ繃帶ヲ施シ爰ニ於テ術ヲ終ル術后ハ毎日一回洗滌繃帶ス

術中ノ不幸(一)輪狀癒着又ハ閉鎖症ノ如キモノニ於テハ多クハ前房出血ヲ來ダス然リト雖モ敢テ愛フルニ至ラス其出血多量ナレハ(スパテ)ヲ以テ創口ヲ閉キ或ハ臉上ヨリ輕ク麻擦スレハ血液房外ニ流出ス其流出スルヲ待テ再ヒ術ヲ施ス萬一多量ニ出血止マサレハ手術ヲ中止シテ繃帶ヲ施ス然ルルハ四五日間ニ多



クハ吸収シ去ルヲ常トス深ク案スルニ至ラス(二)創口斜メニ過キ前房内ニ達セス  
 シテ角膜ニ終ルヲアリ或ハ前房内ニ達スト雖ヒ余リ斜ニ過キテ抽出ニ不便ナル  
 ヲアリ殊ニ角膜穹隆ノ度ヲ減シ角膜ハ殆ント平坦トナルヒニ於テ然リ第三十二  
 圖ノ如シ(三)攝子ヲ以テ水晶体ヲ傷クルヲアリ或ハ虹彩容易ニ破壊スルヲアリ然  
 ルヒハ亞篤魯比涅水ヲ点シ術ヲ中止スヘシ  
 術后ノ不幸(一)創口ヨリ傳染毒ヲ受クルヲアリ  
 (二)時トシテ虹彩炎又ハ虹彩毛様体炎ヲ起スヲアリ

### 第六章 毛様体及ヒ脈絡膜諸病

#### (一)毛様体炎

毛様体ハ前方ニ虹彩後方ニ脈絡膜アリテ其中間ニ位ス故ニ葡萄膜中何レカニ炎  
 症アレハ多クハ相伴フモノトス而シテ其炎症小ナルハ虹彩毛様体炎大ナルハ虹彩  
 脈絡膜炎虹彩毛様体脈絡膜炎又ハ全葡萄膜炎ト云フトナリテ來タリ極メテ希ニ  
 ハ毛様体ニ單獨シテ來タルヲアリ今毛様体ニ單獨スル者トシテ一般症候ヲ示ス

ニ左ノ如シ

- (一)周圍充血ハ他ノ葡萄膜炎ニ比スレハ一層劇甚ニシテ時々浮腫ヲ呈スルヲアリ
- (二)疼痛モ亦他ニ比シテ強劇ナリ試ニ毛様部ヲ壓スレハ思フス頭ヲ後方ニ避ケ甚  
 シキハ一聲絶倒セントスルモノアリ之レ毛様体炎ニ固有ノ徵候ナリ其他ノ刺戟  
 即チ流涙羞明等モ順シテ劇甚ナリ
- (三)視力ハ外見ヨリ意外ニ减小ス之レ硝子体濁ヲ生スルニ由ル
- (四)内壓多クハ減降ス然レヒ急性症ノ初期ニハ反テ増進ス
- (五)前房ニハ血液或ハ膿液ヲ認メ反覆出沒スルヲアリ

以上條項ヲ參考セハ自然虹彩炎ト辨別スルヲ得ル然レヒ多クハ合併スルモノ  
 ナレハ次ノ條下ニ於テ論スルモノハ發病ノ元ヲ毛様体ニ有ルモノト知ルヘシ  
 類別(一)成形性(二)漿液性(三)化膿性ノ三種トス

#### (甲)成形性毛様体炎 一名單性

本症ハ通常成形性虹彩毛様体炎又ハ成形性虹彩毛様体脈絡膜炎トナリテ來タル  
 而シテ其尤モ着明ナルモノハ外傷后ニ見ル所ニシテ極メテ惡性ナリ



初期ニ於テ急性ノモノニアリテハ劇甚ナル毛様痛アリ周圍充血著シクシテ虹彩モ亦充血シ水晶体ノ周圍ニハ多量ノ滲出物ヲ生シ虹彩ハ全后癒着ヲナシ爲メニ瞳孔閉鎖ス硝子体ノ前部ハ滲出物ニ由リ一大偽膜ヲ生シ血管ヲ新生ス水晶体ハ前方ニ壓上セラレテ前房爲メニ淺シ然レモ内壓ハ反テ減降ス第三十三圖ノ如シ其續發症トシ白内障眼又ハ網膜剝離症ヲ起シ或ハ眼球遂ニ營養ヲ失フテ眼球萎縮症ニ陥ル

(乙) 漿液性毛様体炎

通常漿液性虹彩毛様体炎又ハ漿液性虹彩毛様体脈絡膜炎トナリテ來タル而シテ本症ノ固有症ハ恰モ漿液性虹彩炎ト類ナ同フ初メ炎症ハ極メ輕症ニシテ患者ハ只卒然視力ノ減降ヲ訴ルニ過キス斜照法ニ由リハ角膜内面ニ点狀沈着物アリテ前房濁ヲ徹照法ニ據レハ硝子体濁ヲ眼底ヲ明視スル能ハス瞳孔ハ通常少シク散大シ内壓ハ初ノハ少シク亢進ス之レ右等ヲシテ本症固有ノ徵候トナス刺戟症狀ハ勿論存スルモ前症ノ如ク劇甚ナラス

(丙) 化膿性毛様体炎

本症ハ多クハ全眼球炎トナリテ來タルニ由リ其餘下ニ論ス

成形成性

- 一 周圍充血著シク
- 一 成形成性產出物ヲ生シテ虹彩癒着ス

漿液性

- 一 著シカラス
- 一 多クハ然ラス希ニ一部ニ癒着ヲ見ルコトアルモ極メテ希ナリ
- 一 初期ニ於テ少シク亢進ス

- 一 末期ニ至リ眼球萎縮シテ内壓減降ス
- 一 刺戟症狀甚シ
- 一 續發症ハ白内障網膜剝離或ハ眼球萎縮
- 一 前房濁濁セス

- 一 刺戟症狀甚シカラス
- 一 同性ノ脈絡膜炎ヲ發シテ緣内障症狀ヲ呈ス
- 一 前房濁濁ス

預后 一般ニ不良ナリ殊ニ化膿性成形成性ノモノハ不良ナリ只漿液性ノ者ハ經過緩

慢ナリト雖モ時トシテ預后良ナルコトアリ

原因 (一) 特發性ノモノハ梅毒ローマチス等ニ由ル又營養不良再歸熱腸室扶斯殊ニ屢々外傷ニ由ルモノ多シ (二) 續發性ノモノハ虹彩及ヒ脈絡膜炎或ハ交感性炎トナ



リテ來タリ又手術殊ニ内障眼ノ手術ニ續發ス

療法(一)原因療法營養不良ニハ鐵劑肝油次亞磷酸塩舍利別梅毒ニハ沃度劑水銀劑  
ヲ與フ初期ニ發汗劑殊ニ(ヒロカルヒン)ノ皮下注射ヲ行フ(二)同處ニハ温罨法又ハ  
同時ニ頤顛部ニ水蛭ヲ貼ス(三)アトロヒチ水点眼必要ナレモ多クハ効ナシ漿液性  
ノモノニハ亞篤比涅水ヲ点眼シ若シ内壓亢進ノ微アレハ(エセリン)ヲ点眼シ下劑  
ヲ與フ(四)疼痛甚シケレハ安質必林モロヒチ格魯刺兒ヲ與フ

### (二)脈絡膜炎

脈絡膜炎ヲ別テ成形性漿液性化膿性ノ三種トス化膿性ノモノハ殆ント皆全葡萄  
膜炎トナリテ來タル由テ全眼球炎ノ部ニ於テ論ス

### (甲)漿液性脈絡膜炎

本症ハ多クハ全葡萄膜炎トナリテ來タルモノニシテ又希ニ其局部ニ局限スルモノ  
アリ今其局部ノミヲ侵スモノトシテ論スレハ大畧左ノ症候ヲ呈ス  
症候其ノ特徴トスル處ノモノハ硝子体ニ濁濁ヲ生シ内壓亢進スルニアリ濁濁去

レハ眼底ノ色素消退シテ白色ヲ呈スル部アリ又却テ黒色素増殖シテ黒色ヲ呈ス  
ル部アリ其現出スル部ハ乳頭ノ周圍部或ハ黄斑部ニ於テ殊ニ著シ又眼底ノ周圍  
部ニ蔓延スルコトアリ乳頭部ハ少シク陥没シ視力モ亦少シク減少シ而シテ光線弱ケ  
レハ尙ホ然リ由テ常ニ多量ノ光線ヲ與フルヲ良トス脈絡膜血管ハ硬化症ニ陥リ  
テ白色又ハ帶黄白色ノ索狀ノ線ヲ引クコトアリ

原因凡テ漿液性虹彩炎ト同ユウス

療法縮瞳藥ヲ投シ内壓ノ減降ヲ謀リ同時ニ發汗劑沃度劑水銀劑等ヲ與フ時アリ  
テ虹彩切除法ヲ行フコトアリ

### (乙)成形性脈絡膜炎

本症ハ脈絡膜炎中尤モ必要ニシテ一種特意ノ症候即チ脈絡膜ニ滲出物ニ由テ生ス  
ル黒白ノ斑点ヲ生スル者ニシテ其位置ニ由リ之レヲ三種ニ區別ス斑点ハ好シテ周  
圍部ニ散在シ其形狀小ニシテ基石ノ如キモノ之レヲ(一)散在性脈絡膜炎ト云フ其形  
大且ツ少數ニシテ(二)箇黄斑部ニ局限セルモノ之レヲ(二)中心性脈絡膜炎ト云ヒ黄  
斑部或ハ乳頭近部或ハ眼底中部ニ簇生シ其形稍々大ニシテ前症ノ中間ニ位スルモ



ノ之レヲ(三)輪紋狀脈絡膜炎ト云フ又ハ暈狀脈絡膜炎ト云フ

症候自覺症(一)視力ハ必ス多少減少ス殊ニ中心性ノ者ニ於テ然リ(二)視野ハ中心性ノ者ハ中心暗点ヲ呈ス若シ班点黃斑部ノ周圍ヲ圍繞セハ輪狀暗点ヲ生シ其他班点ノ部位ニ應シテ周邊暗点ヲ生ス(三)眼火閃發アリ浮動視症夜盲變視症彩視症小視症等アリ如此異様ノモノヲ見ルハ主トシテ網膜實質ノ組織學的變狀ニ基因スルモノナリ又時トシテ消耗症ニ陷レハ辨色力ニ異狀ヲ來タスコトアリ

他覺症眼底ヲ檢スルハ其特徵タル黑白二様ノ班ヲ認ム(一)白斑ハ圓形又ハ不正形ニシテ凡テ限局ス又時トシテ黃白混合ノモノアリ后チニ至リテ白色トナル凡テ白斑ハ黑色素ヲ以テ周圍ヲ圍繞ス或ハ却テ白斑ノ中心ニ黑点ヲ呈スルモノアリ其狀況ハ種々アリテ一様ナラス(二)黑班ハ黑色素ヨリ成ルモノニシテ所々ニ散在ス其形モ亦不正ナリ(三)硝子体ノ濁濁モ其特徵ノ一ニシテ其強弱ハ視力ノ良否ニ大關係ヲ有スルモノナリ乳頭ハ初メ充血シ末期ニ至レハ帶黃白色ニ變スルモノ多シ鑑別本症ノ鑑別ヲ要スヘキモノハ網膜炎性滲出物ニシテ網膜炎性滲出物ノ班点ハ光澤ヲ有シ且ツ黑色素ノ爲メ圍繞セラル、コトナシ同時ニ出血ヲ認ムルコト多シ之

レ本症ト大ニ異ナル處ナリ

經過通常緩慢ニシテ殆ント皆全治ノ見込ナシ只進行ヲ止ムルコトヲ得ハ則チ幸甚ナリ再發反復シテ脈絡膜網膜共ニ萎縮シ或ハ網膜剝離症白內障眼等ヲ發スルコトアリ原因中年ノ人ニ多シ殊ニ梅毒ニ基因ス又月經不調及ヒ萎黃病ニ發ス或ハ原因不明ノモノ多シ

療法(一)梅毒性ナレハ驅梅毒法ヲ施ス(二)病ノ初期又ハ急性ナルモノニハ灰白水銀膏ノ塗擦沃剝ノ内服ヲ命シ兼テ水蛭數條ヲ貼ス(三)ヒロカルヒンノ皮下注射ヲ施シテ大ニ効アリ(四)月經不調ニハ鉄劑ヲ與フルコト良トス

### (三)全眼球炎

本症ハ全葡萄膜ノ化膿性炎症ニシテ詳言スレハ化膿性虹彩毛様体脈絡膜炎ニシテ其他眼球内容物モ亦膿性侵潤ヲ起スモノナリ

原因(一)外因即チ眼球ノ損傷異物ノ竄入及ヒ手術殊ニ白內障ノ摘出後ニ發シ或ハ角膜潰瘍等凡テ化膿性ノ虹彩炎毛様体炎或ハ脈絡膜炎ヲ起スヘキ原因(二)内因即



チ身体ノ内部ヨリ病毒ノ轉移性トナリテ來ルモノニテ殊ニ產褥熱敗血症膿毒症、化膿性心内膜炎等之レナリ

症候(一)急性ノ經過ヲ取ルモノハ殊ニ外因ニ由ルモノニテ非常ノ劇痛ヲ以テ起リ嘔吐發熱眼瞼及ヒ眼球結膜ハ著シク腫起シテ瞼裂ヨリ膨出シ疼痛益々増劇シテ眼球ハ瞼裂外ニ突出シ大氣ニ觸ル、部ハ乾燥シテ暗赤色ヲ呈シ一般ニ眼球ノ常態ヲ失ヒ常ニ稀薄膿狀ノ涙液ヲ漏シ眼球ハ次第ニ緊張膨突ス若シ角膜破壊シテ内容ヲ漏スカ或ハ手術ニ由リテ内容ヲ漏セハ疼痛頓ニ止ミ腫起モ亦次第ニ減降シテ疼痛及ヒ腫起益々減退シ眼球ハ縮小シテ遂ニ眼球萎縮ス如此劇性ナルモ經過ハ急ニノ必ス廢物ニ歸ス此ノ廢物眼球時トシテ化骨スルコトアリ

(二)慢性ノ經過ヲ取ルモノハ多クハ内因ニ由ルモノニテ一般ニ甚シク炎症ヲ呈セシ陰性ニ化膿スルモノナリ即チ眼瞼ノ腫起ハ輕ク或ハ全ク欠如スルコトアリ眼球結膜ハ單ニ發赤或ハ少シク腫起シ瞳孔ハ膜ノ爲メ黄色ヲ呈ス而シテ如此自覺症狀ハ比較的極メテ輕少ナルモノトス

價後ハ全ク不良ナリ幸ニ眼球外形ノ常態ヲ保ツコトヲ得ハ最良ナリ

(四)交感性眼炎

療法(一)疼痛ニハ安質必林モロヒチ格魯刺兒ノ内服(二)炎症ヲ緩解スル爲メ水巻法又ハ却テ温巻法ヲ良トス(三)眼球ノ緊張ヲ去ル目的ヲ以テ眼球ヲ横切スヘシ又ハ眼球内容除去法ハ最モ確効アリ(四)初期於テ眼球摘出術之レ尤モ確實ナル法ナリ

本症ハ一眼ニ外傷或ハ異物ニ由リ毛體炎又ハ脈絡膜炎アリテ他眼ニ疾病ヲ誘發スル者ヲ云フ其誘發スル處ノ疾病ハ單ニ神經機能ヲ障害スルニ止マリ炎症性狀ヲ發セサル者ト一ハ炎症性症狀ヲ以テ起ル者ノ、二種アリ

(甲)交感性神經症 症候ハ種々アリテ一定ナラス患者ハ羞明流淚等ヲ訴エ眼瞼腫痛症アリ或ハ角膜周圍充血ヲ起シ少シク眼ヲ任用スレハ諸症益々増悪シ諸般ノ刺激症狀ヲ發ス而シテ其原因トナルヘキ眼球ヲ除去スレハ諸症狀忽チ消退スルモノトス之レ真ノ病的變狀ヲ有スルニ非スシテ機能的障害ナルト知ルヘシ

(乙)交感性炎症性症 之レ真ノ炎症的變狀ヲ現出スルモノニテ其ノ現ハル、症狀ニ由テ左ノ三種ニ區別ス

(一)漿液性虹彩毛樣體炎ハ羞明流淚及ヒ視力障害ヲ以テ現ハレ瞳孔縮小シテ亞



驚魯比涅ニ應シ難シ周圍充血前房水濁濁又ハ角膜内面ニ点狀ノ沈着物アリ硝子  
体モ亦濁濁ヲ生ス然レモ前述症狀ハ凡テ輕症ニシテ交感性眼炎ノ尤モ強惡ナルモ  
ノハ即チ成形性之レナリ

(一)成形性虹彩毛樣体炎之レ尤モ多ク見ル所ニシテ尤モ恐ルヘキ惡性ナリ其起ル  
ヤ羞明流淚等刺戟症狀劇甚ニシテ周圍充血房水濁濁角膜内面ノ沈着物虹彩變色シ  
テ且ツ適着シ瞳孔閉鎖シテ遂ニ偽膜ヲ生スルニ至ル然ルモハ瞳孔部ハ不正形灰  
白色ヲ呈ス硝子体ハ炎性滲出物ヲ生スルモ内壓ハ却テ減降ス末期ニ至レハ白内  
障ヲ續發ス

(二)炎性的眼疾例エハ脈絡網膜炎視神經網膜炎結膜炎角膜炎縁内障等種々ノ炎  
性的眼疾ヲ交感シ來タルモノナリ

原因一眼前外傷ヲ蒙リ殊ニ毛樣体部ニ於ケル外傷ハ殆ント皆他眼ニ此ノ疾病ヲ  
交感スルモノナリ

病理未タ一定ノ說ナシト雖モ其歸スル處ハ大凡左ノ二說アリ

其一ハ反射說ニシテ初メ侵サレタル眼ノ毛樣神經ハ常ニ刺戟ヲ他眼ノ毛樣神經ニ

反射作用ヲ起シ以テ交感的疾病ヲ發起スト云フ

其二ハ傳搬說ニシテ病眼ヨリ直接ニ病毒ヲ傳搬スルモノニシテ其道路ヲ視神經鞘間  
腔ニ依ルモノトセリ(ドイナユマン)氏ハ微菌ヲ兎ノ眼内ニ注射シ他眼ニ視神經炎  
并ニ葡萄膜炎ヲ發起セシメタルヨリ其說益々信用ヲ得タリ其說ニ由レハ外傷ノ  
爲メ微菌侵入シ視神經鞘間腔ヲ得テ視神經交叉部ニ至リ對側ノ全間腔ヲ經テ葡  
萄膜炎ニ蔓延スル者ナリト由テ本症ヲ交感性ト云ハスシテ轉移性ノ名稱ヲ附スル  
ニ至リ大ニ信用ヲ得ルト雖モ他人ノ試驗ニ由レハ其成績ナ同スルヲ得スト云フ  
療法(一)預防法トシテ交感性眼炎ヲ起ス恐アレハ預メ眼球摘出術ヲ施スヘシ(二)若  
シ第一法ヲ肯セサレハ預メ注意ヲ加エ假令輕症ナリト雖モ若シ他眼ニ刺戟ヲ感  
セハ速カニ來タリテ摘出ヲ受クルトテ勸告スルヲ必要トス(三)尙ホ第二ノ場合ニ  
摘出術ヲ肯セサレハ眼球内容除去法ヲ施スヘシ(四)已ニ交感セハ其症狀ニ應シテ  
適宜ノ所置ヲナサ、ルヘカヲ然レモ何レノ症ト雖モ已ニ交感スル以上ハ其原  
病タル眼球ヲ摘出スルカ或ハ内容ヲ除去セサレハ未タ以テ完全ノ法ト云フヘカ  
ヲス(五)交感性眼炎即チ交感シタル眼球ニ手術ヲ施サント欲セハ炎症全ク去ルノ



后チニスヘシ(六)對症療法トシテハ患者ヲ暗室ニ居ラシメ亞水ヲ点眼シ沃剝ノ内服又ハ水銀膏ノ塗擦硼酸水ノ温又ハ冷罨法ヲ施ス

### 眼球摘出術

昔日ハ眼球ト共ニ眼窩内組織ヲ悉ク除去セリ然ルニ(ホント)氏之レヲ改良シテ眼球ノミヲ結膜ヨリ剝離シテ摘出セリ

適應症(一)全眼球炎(二)外傷等ノ爲メ交感性眼炎ヲ起ス恐アルル(三)交感性眼炎ノ已

ニ起ルル(四)悪性腫瘍殊ニ神經膠様腫ノ如キモノ(五)完全録内障眼ニシテ疼痛劇甚ナルル(六)葡萄腫ニシテ刺戟症状甚シキル(七)外觀ノ美ヲ望ムル之レヲ施スコトアリ

以上述べルカ如ク諸般ノ疾病ニ適應スト雖ヒ近頃ニ至リテハ悪性腫瘍ノ外ハ悉ク内容除去法ヲ愛レリトシテ多ク其法ヲ採用ス

術式(一)コロ、ホルム麻酔ヲ待テ充分ニ眼窩内ヲ洗滌シ后チ開瞼器ニテ眼瞼ヲ開キ角膜縁ヨリ二三密迷ノ處ニ於テ結膜ヲ輪狀ニ切開シ充分ニ之レヲ剝離シ后チ内直筋ノ腱ヲ斜視鈎ニ掛ケテ之レヲ剪斷シ次テ上直筋下直筋ニ及ホシ尙ホ殘ルハ外直筋上下兩斜筋ナリ愛ニ於テ鈎ヲ眼球后部ニ掛ケ充分ニ之レヲ前外方ニ

牽引シツ、彎曲剪ヲ眼球ニ沿テ送入シ視神經ヲ搜索シ得テ之レヲ剪斷ス然ルルハ少量ノ出血ト共ニ眼球ハ自由ニ運轉スルヲ得尙ホ殘余ノ三筋ヲ切斷シ愛ニ於テ全ク眼球ヲ摘出ス術終テ沃度保母ヲ撒布シテ防腐綑帶ヲ施ス  
アルト氏ハ右法式ト稱々其赴キヲ異シ即チ斜視鈎ニ換ユルニ攝子ヲ以テス然レハ多クハ前法ニ制セテ此法ヲ應用スル輩殆ント皆無トナレリ

### 眼球内容除去法

鞏膜ノ外角膜ト眼球内容ヲ共ニ除去スルノ法ナリ

適應症(一)角膜葡萄腫ノ失明スルモノ(二)慢性毛様体炎ノ常ニ疼ミアルモノ(三)全眼

球炎等凡テ摘出術ヲ行フヘキ疾病然レモ悪性腫瘍全眼球炎交感性眼炎等ハ遠ク摘出術ニ及ハス然レモ又后日ニ危險ノ恐ナキヲ認ムルル或ハ腦膜炎ノ恐レアル

ルハ本法ヲ良トスルノミナラス偽眼挿入上大ニ利アレハナリ

術式先ツ摘出術ニ於ケルカ如ク準備ヲナシ患者ハ充分ノ麻酔スルヲ待テ眼瞼ヲ開キ固定攝子ヲ以テ眼球ヲ固定シ角膜ノ周圍部ニ於テ結膜ヲ輪狀ニ切開シ且ツ剝離シテ(ペール)氏又ハ(グレン)氏内障害眼力ヲ以テ角膜縁ノ鞏膜部ヨリ眼球



ノ殆ント半面ヲ一刀ニ切開シ次テ剪刀ヲ以テ殘ル處ノ角膜ヲ切除シ續テ鏡ヒヲ以テ網膜、全葡萄膜、水晶體、硝子體ヲ悉ク充分ニ搔把除去シ防腐液ヲ以テ洗ヒ殊ニ全眼球炎ニアリテハ猶更充分ニ注意洗濯シテ沃度保母カーセチ挿入シ防腐綑帶ヲ施シ又化膿ノ恐レナキモノハ(ウエツケル)氏ノ輪狀結膜縫合法或ハ(クリツチエ)氏ノ鞏膜縫合法ヲ施シテ術ヲ終ル

### 視神經及ヒ毛様神經切断術

交感性眼炎ニ視神經ト毛様神經ヲ共ニ切断スル法ナリ  
術式 眼球摘出術ニ同ク準備ヲナシ内眥部ニ於テ角膜縁ヲ去ルコト凡ソ三四密迷ノ處ニ於テ結膜ヲ切開シ斜視鈎ニテ内直筋ヲ牽出シ豫メ糸ヲ以テ之レヲ結紮シ置テ内直筋ノ睫ヲ切斷シ次テ鈎ニテ眼球ヲ前方ニ牽引シ創口ヨリ彎曲剪刀ヲ挿入シ視神經ヲ切斷ス然ル后テ尙ホ眼球ヲ牽引シ其後脊ヲ前方ニ出シ爰ニ現出スル處ノ毛様神經ヲ切斷シ而シテ后テ眼球ヲ復位シ預メ糸ヲ付シタル睫ヲ舊位ニ復シ結膜縫合ヲナシテ防腐綑帶ヲ施ス

### (五) 脈絡膜腫瘍

脈絡膜ニ發生スル腫瘍ハ結核、肉腫、癌腫等ナリ然レモ一般ニ希ニシテ殊ニ原發スル者少ク時トシテ轉移性トナリテ來タルコトアリ

### (六) 先天性異狀

先天性的狀況ヲ異ニスルモノハ脈絡膜欠損症或ハ色素欠亡症トナリテ來タルモノニシ(一)色素欠亡症ハ眼球震盪ニ劇甚ナル羞明ヲ伴テ視力減降ヲ訴エ凡テ全身色素ニ欠亡ヲ來ス白兒ニ見ル處ノ者ナリ(二)脈膜欠損症ハ其一部欠損シテ白色ヲ呈シ其形ハ多クハ楕圓形ニシテ通常眼底ノ下部ニアリ其大サハ不同ナリト雖モ時トシテ毛様體ヨリ虹彩モ共ニ欠損スルコトアリ又白色ナル欠損部ニハ走行不正ナル鞏膜血管ヲ有ス  
其他後天性トシテ脈絡膜出血或ハ斷裂又ハ化石等ノ諸症アルト雖モ格別必要ノ疾病ニアラス

## 第七章

### 縁内障

クラウコーム



綠内障ハ眼。球。内。壓。ノ。亢。進。スル。疾。病。ニ。シ。テ。眼。内。多。ク。ハ。綠。色。ヲ。呈。ス。ル。ニ。由。リ。名。銘。セ。シ。モ。ノ。ト。ス。而。シ。テ。其。原。因。ト。ナ。ル。ヘ。キ。眼。疾。ナ。ク。シ。テ。發。生。ス。ル。モ。ノ。ヲ。原。發。性。綠。内。障。ト。云。ヒ。判。然。依。ル。ヘ。キ。眼。疾。ア。リ。由。テ。以。テ。發。生。ス。ル。モ。ノ。ヲ。續。發。性。綠。内。障。ト。云。フ。種。類。甲。原。發。性。炎。性。ト。單。性。ノ。二。種。ト。シ。炎。性。ヲ。更。ニ。急。性。ト。慢。性。ノ。二。ト。ナ。ス。乙。續。發。性。綠。内。障。之。レ。ナ。リ。

(甲)原發性綠内障

(一)急性炎性綠内障

症候本症ハ急性ニ發起シ炎性症狀ヲ有スルモノナリ

(一)前驅症 患者初メ頭痛頭重ヲ訴ヘ暫時ノ間視力朦朧トシ火ヲ望メハ煙霧ノ中ニ在ルカ如シ而シテ光圍ハ輪ヲナシ二種ノ色ヨリ成ル其外輪ハ赤色ニシテ内輪ハ青色ナリ瞳孔ハ散大シテ反應遲頓ナリ如此前驅症ハ通常數時間ニシテ退去シ視力回復スルト雖モ再ヒ發作ス而シテ其發作ハ初メハ緩慢ナルモ度々重ルニ從テ漸次急速トナル右前驅症ノ往來ハ一二周又ハ一ヶ月連續シテ頃ニ劇甚ナル襲撃ヲ爲ス

(二)發現期

右前驅症アリテ頃ニ暴發シ三叉神經ノ第一枝第二枝ヲ沿テ劇痛ヲ起シ延テ頭痛耳痛齒痛等ヲ兼不眠嘔吐嘔氣アリテ視力急ニ消失シテ眼前ノ手動ヲモ辨スルヲ能ハサルニ至ル

(三)他覺症

眼球ノ外見ハ極メテ劇甚ナル炎症アルカ如キ症狀ヲ呈シ即チ眼瞼發赤腫起シ眼球結膜モ亦發赤腫起シテ角膜一般ニ潤濁シ虹彩ハ變色シテ前房淺ク瞳孔散大シテ瞳孔領ハ綠色ヲ呈シ眼球内壓增加ス爲メニ眼球硬キト石ノ如シ眼底ハ其光路潤濁シテ明瞭ナラス若シ眼底ヲ檢査シ得ルトセハ乳頭部ハ此期ニ於テハ未ダ陷沒セズ

經過

ハ急劇ニシテ一二時間ニシテ視力全ク消失スルモノアリ之レヲ名テ電擊性綠内障ト云フ通常ハ三日乃至一週間ニシテ諸症緣消退シテ視力快復スト雖モ再三反復シテ終ニ視力全ク消失ス此期ニ及ヘハ之レヲ完全綠内障ト云フ夫レヨリ左ノ變狀ヲ呈スルニ至ル

(イ)完全綠内障

ハ毛様体部ニ於テ毛様靜脈現出怒張シテ角膜ヲ周擁シ角膜ハ稍々透明ニシテ知覺ヲ失ヒ瞳孔ハ散大シテ反應ナク乳頭ハ凹沒シテ視力全ク消失ス



(H) 退行變性緣內障ハ尙ホ一層進ミタル者ニシテ角膜ハ一般ニ溷濁シ時トシテ帶狀角膜炎即チ角膜ニ帶狀ヲ爲ス處ノ灰白色膜樣トナリテ現ハル韋膜ニハ毛樣體部殊ニ赤道部ニ葡萄腫ヲ發生シ虹彩ハ萎縮シテ不正ノ散大又ハ癒着シ水晶體ハ多クハ白內障ニ陥ルモノナリ然レモ光神ハ尙ホ未ダ消失セス

(二) 慢性炎性緣內障

症候大凡急性症ニ同シ由テ只異ナル處ト其特徵ヲ左ニ分テ陳述ス

急性症ト相異ナル處ハ(一)前驅症ト發現期ノ境界判然セス(二)間歇時ト雖モ諸症全ク消退セス(三)自覺症ノ訴フヘキモノ少ナク疼痛ノ如キハ著明ナラス時トシテ全ク欠如スルコトアリ以上三点ハ彼是差異ノ要點ナリト知ルヘシ

其特徵トスル處ハ只角膜溷濁シテ前房淺ク瞳孔ハ散大シテ虹彩萎縮シ視野ハ初メ内方又ハ内下方ヨリ起リ終ニ四方ニ狹縮シ遂ニ盲トナル希ニハ半盲症トナリ又ハ中心暗点或ハ輪狀暗点ヲ呈スルコトアリ光神ハ多少減降スルモ色神ニ異常ナシ乳頭ノ變狀ハ本症ノ特徴ナリ即チ乳頭陷凹シテ白色ヲ呈シ節板ノ網膜稍々青色

ニ点見ス而シテ血管ハ乳頭ノ緣界ニ至リ卒然下向シテ其連續ヲ追視スルコト能ワサルコト第三十四圖ノ如シ脈搏ハ健眼ニアリテハ之ヲ認メ難キモ本症ニアリテ顯著ナリト云フ又乳頭ノ境界ニ於ケル鞏膜輪ハ判然現出シ其外圍ニ於テ帶黃白色ノ一大輪アルアリ之ヲ緣內障性暈輪ト云フ之ヲ脈絡膜炎性侵潤ヲ蒙リ遂ニ萎縮シタル結果コト韋膜ヲ透見セラル、ニ由ルモノナリ

(三) 單性緣內障

症候本症ハ前驅症及ヒ炎性襲撃等一切ハ症狀欠如シ眼球ノ外見全ク異狀ヲ呈セサルモノナリ只其本症ト認ムヘキハ乳頭著シク陷凹セルト視力漸次ニ減少シテ視野ノ狹縮ヲ來スニアリ而シテ乳頭及ヒ視野ノ變狀ハ慢性炎性緣內障ニ同シ

原因以上三種ノ緣內障即チ原發性緣內障ハ(一)男女老若ノ別ナク皆之レニ罹ルモ主トシテ老人ニ多ク婦人ハ月經閉收期ニ多シ(二)遠視眼ハ正視近視ニ比スレハ之レニ罹リ易シ(三)散瞳藥ヲ点眼シテ本症ヲ喚起スル屢々之レアリ(四)眼球ノ外傷殊ニ



打撲五調節機過用ハ凡テ本症ノ原因トナル(六)心臟病遠因トナリ眼靜脈鬱血シテ本症ノ原因トナルコトアリ(七)三叉神經痛營養不良神經性諸症狀(八)原發續發ノ両性合算スレハ眼病中百分ノ一ノ多數ヲ有スルモノトス

(乙)續發性緣内障

症候本症ハ確乎タル眼疾アリテ其眼内壓亢進スル場合ヲ稱スル者ニシテ一ツノ合併症ト看做スヘキモノナリ而シテ本病ノ症候及ヒ轉歸ハ凡テ原發性緣内障ニ同シ由テ爰ニ再言セス

原因本症ノ原因トナルヘキ眼疾及ヒ其關係的症候ハ左ノ如シ

- 一 角膜潰瘍穿孔シテ虹彩前癒着セルモノ此症ニ於テ内壓亢進シテ葡萄腫ヲ來タスハ常ニ見ル處ナリ
- 一 虹彩輪狀癒着即チ成形性虹彩炎虹彩若シ后癒着ヲナシ輪狀ナルキハ前後房水ノ通路斷絶セシメテ内壓亢進ス
- 一 漿液性虹彩毛様体炎本症ヲ發スレハ大概内壓亢進スルヲ常トス
- 一 鞏膜炎及ヒ其破裂内壓亢進シテ葡萄腫ヲ發スルコトアリ

一 角膜實質炎及ヒパンヌス此ノ症モ末期ニ至レハ内壓亢進シテ角膜膨脹セルモノ時トシ之レアリ

- 一 水晶体脱位及ヒ外傷性膨脹大概内壓亢進ヲ來スヲ常トス
- 一 白内障ノ手術水晶体囊及ヒ水晶体ノ一部又虹彩ノ一部或ハ水晶体脱位シテ内壓亢進ヲ來ス

一 網膜出血網膜血管出血セハ内壓亢進ス然ルキハ出血性緣内障ト云フ

一 脈絡膜炎又ハ強度ノ近視ハ時トシ單性緣内障ノ症狀ヲ以テ内壓亢進スルコトアリ

一 眼球内腫瘍ハ大概内壓亢進ス

以上枚舉ノ疾病ハ殆ント皆内壓亢進セサルモノナシ然レモ彼アレハ必シスモ是レアリト云フニアラス

病理原發性緣内障ノ病理ハ近來諸家ノ精素大ニ其理ヲ明カニスルヲ得タリト雖モ未ダ以テ満足ト云フニアラス

一 グレフェ氏ハ漿液性脈絡膜炎症ナリト云フ



一ドンドル氏ハ毛様神經ノ刺戟ニ由リ脈絡膜ノ分泌增多セルニ由ルモノナリト云フ

一ステルワグ氏ハ鞏膜硬化シテ彈力ヲ失ヒ爲メニ渦狀靜脈ノ血行ヲ障害セラレテ脈絡膜ノ鬱血ヲ來シ以テ内壓亢進スルモノナリト云フ

以上三氏ノ説ハ其原ヲ脈絡膜ニ基ク處ノ説ナリ

一クリニース氏ハ虹彩ノ根部角膜ニ癒着シテ(ボタナー)氏腔ヲ閉塞シテ房水ノ排泄斷絶セラル、ニ由ルト云フ第三十五圖ノ如シ

一ウエメル氏ハ靜脈鬱血シテ毛様體膨脹シ以テ虹彩根部ヲ前方ニ壓シテ(ボタナー)氏腔ヲ壓迫スルニ由ルナリト云フ

以上二氏ノ説ハ其原ヲ虹彩ノ根部ニ基ク處ノ説ナリ之レ世醫ノ尤モ信用ヲ得タル者ナリト云フト雖ニ實際ニ於テ徵スルニ單性線内障ニアリテハ虹彩癒着アルナシ只炎性線内障ニ於テ解剖上往其癒着ヲ見ルアルノミ之レ其癒着ハ寧ろ線内障ノ結果ニシテ其原因ニアラスト云フ反對説ヲ有スル者又少シトセス

療法(一)昔日ハ散瞳藥ヲ用ヒタルモ近頃ニ至リテハ全ク之レニ反對シテ縮瞳藥ヲ

用ユ殊ニ(エセリン)(ヒロカルヒン)等ヲ点眼ス其作用ハ虹彩及ヒ毛様筋ノ緊張ヲ緩解シテ以テ(ホンダナー)氏腔ヲ擴張シテ眼内壓ヲ減降スルコアリ由テ其効能ハ瞳孔尙ホ縮小スヘキ機能存在スル時ニ於テス已ニ虹彩癒着スルカ或ハ萎縮スル者ニアリテハ無効トス故ニ縮瞳藥ヲ用ユル時期ハ(イ)前驅症ノ時或ハ急性炎症ノ襲撃時ニ効アリ(ロ)散瞳藥ヲ用ユル爲メニ發スル者ニ用テ効アリ而シテ單性ノモノニハ効ナシ

余ハ線内障ニ關係ノ有無ニ係ラス眼疾ニ基因スル疼痛及ヒ前額疼痛ニハ安質必林ヲ用テ殆ント効ナキモノナキカ如シ然レニ劇性ノ線内障ニハ只其劇痛ヲ減少セシムルニ過キス

(二)虹彩切除術ハ線内障ニ於テ尤大緊要ノ手術ニシテ尤ニ其効確實ナリ殊ニ炎症性症ニアリテ然リ

(三)鞏膜切開法ハ虹彩切除法ニ比スレハ大ニ劣レリ故ニ此法ハ次ニ述ル如ク虹彩切除ノ危險ヲ豫知シ又ハ出血性線内障等ニ施シテ可ナリ此法ハ角膜縁ヲ離ル一密迷ノ處ニ於テ(グレフエ)氏線狀力ヲ以テ鞏膜ニ穿入前房ヲ過キテ對側ニ實通ス



ル一恰モ變式線狀術ノ如シ然ルニ兩側ノ創口大凡三密迷ニ止ミ中間部ハ之レヲ餘シテ切斷セス之レ虹彩脫出ヲ防ク爲メナリ

(四)角膜穿孔術ハ前術ニ比シテ大ニ劣ルト雖モ或ル場合ニ於テ一時的之レヲ施シテ大ニ緩解スルノ利アリ

(五)最後ノ手段トシテ退行性線内障尙未タ疼痛止マサルモノ或ハ虹彩切除ノ望ミナキモ又ハ之レヲ施スモ効ナク却テ危險ヲ招クカ如キモノ例エハ單性線内障ニ手術ヲ施シテ諸症増劇スルモノ之レヲ惡性線内障ト云フニハ眼球描出術ヲ施ス或ハ眼球内容除去法ヲ施ス

**虹彩切除ノ注意**本症ニ虹彩切除ヲ施シタルハ今チ去ル四十三年(安政三年)前クレイフエ氏初メテ之レヲ行ヒ古來不治ノ症ヲシテ有効ノ域ニ進メヨレタルハ實ニ氏カ不枯ノ勳功ニシテ名聲天下ニ轟シタルモ實ハ爰ニアリ

(イ)切除部ハ並通之レヲ上方ニ行ヒ且ツ廣大ナルヲ要ス

(ロ)單性ニハ極メテ易シ炎性殊ニ急性症ハ角膜潤濁シ前房淺ク虹彩脆弱ナルヲ以テ至難ナリ刀ハ術者ノ便宜ニ任スト雖モ前房淺キ爲メニ鎗狀刀ニ代ユルニ線狀

刀ヲ用ユルヲ良トス

(ハ)手術愈々早ケレハ愈々妙ナリ急性症ニハ殊ニ然リ慢性症ニハ確効保シ難ト雖モ時期早ケレハ良ナリ

(ニ)單性症ニ於テモ時期早ケレハ効多シ然レモ視力障害ハ專ラ乳頭ノ變狀ニ基クモノナレハ其回復ハ手術ノ能スヘキニアラス只其進行ヲ防クヲ得ハ幸甚ナリ(クレイフエ氏ハ半數以上ハ効アリト云フ)シユワヒゲル氏ハ單性症ニ手術ヲ施スト欲セハ初メ視力不長ノ一眼ニ施シ其成績宜シケレハ比較的善長ナル他眼ニ施スヲ良トスト實ニ明言ト云フヘシ

(ホ)完全線内障ニハ効ナキノミナラス却テ疼痛ヲ起ス恐アリ然レモ急性襲撃ニ由ツテ失明シ經過久シカラサルモノニハ宜シク一刀ヲ試ムヘシ

(ヘ)手術ノ不幸ハ前房出血又ハ前房淺キ爲メ水晶体ヲ傷ケ易シ爲メニ白内障ヲ來タス

(ト)一回切除シテ内壓減降セサレハ他側ノ虹彩ヲ切除スヘシ例エハ初メ上方ヲ切除スレハ二回目ニハ下方ヲ切除ス



(チ)虹彩切除シテ現ハル、奏効ノ理由ハ病理未定ナルヲ如何ニセシ未ダ確説ナシ  
以上ノ療法ハ主トシテ原發性ニ施ス處ノ方法コソ續發性ノモノハ專ラ其原病ニ由  
テ適當ノ所置ヲ爲ス例エハ角膜葡萄腫ヨリ來ルモノハ其切除術ヲ虹彩癒着症ニ  
ハ虹彩切除法ヲ施スカ如シ多少ノ差アリト雖モ要スルニ大同小異ナリ尙ホ詳細  
ハ各原病ノ條ニ就テ見ルヘシ

### 第八章鞏膜諸病

#### 一 上鞏膜炎

症候本症ハ鞏膜ト結膜トノ中間ニ於ケル組織ノ炎症ニシテ角膜ニ近接スル部ニ於  
テ局處性青赤色ノ炎症斑点ヲ生シ其發育セル者ハ帶黃白色ノ結節ヲ爲シテ其實  
硬固ナリ之レニ近接スル角膜ハ溷濁シテ硬化性角膜炎ヲ起ス前述結節ハ結膜下  
ニ存在スルヲ以テ結膜ヲ移動スルモ其位置ヲ變ヒス又之ニ觸ルレハ往々甚シキ  
疼痛ヲ發ス其他異狀ナシ只局部ノ結膜モ同時ニ充血スルノミ  
本症ノ特有トスヘキハ一結節去レハ一結節ヲ他ニ發シ次第ニ角膜周圍部ニ配列

シテ一帯ニ暗色ヲ呈ス之レヲ遊走性上鞏膜炎ト云フ

經過通常七八週間ニシテ自ラ治ス又時トシテ其治スルヤ鞏膜菲薄トナリ内壓ノ爲  
メ前鞏膜葡萄腫トナルコトアリ

預后通常長ナリ然レモ時トシテ再發持久スルハ合併症ヲ來タスコトアリ

合併症(一)患部ニ硬化性角膜炎(二)虹彩炎ヲ發シテ癒着症ヲ遺スコトアリ(三)漿液性脈  
絡膜炎ヲ合併シテ硝子体ノ溷濁ヲ遺スコトアリ

原因(一)主トシテ僕麻質斯(二)腺病先天性梅毒月經不調等ヨリ來タル

療法原因療法ヲ施ス局處療法トシテハ(ア)トロヒン点眼温罨法疼痛アレハ安質必  
林モロヒ子等ノ内服合併症アレハ適當ノ所置ヲナシ手術的療法トシテ結膜ヲ切  
開シ或ハ(シヨレル)氏法ニ從ヒ銳ヒテ以テ結節ヲ搔除シ又ハ電機燒灼ヲ施ス

#### 二 鞏膜膨脹症 一名鞏膜葡萄腫

本症ハ鞏膜菲薄トナリ内壓亢進ノ爲メ膨脹スルモノニシテ全及ヒ局處ノ二種ニ區  
別ス

(一)全鞏膜膨脹症 純然タル鞏膜膨脹症ハ水腫眼トシテ現ル、モノニシテ一ツニ牛



眼ト云フ之レ少年ノ頃綠内障眼ニ罹リタルモノト看做シ内壓亢進ノ結果トス而  
ノ眼球ハ突出シテ青色ヲ呈シ角膜モ共ニ球狀ヲナス

(二)局處鞏膜膨脹症ハ前中后ノ三ヶ所ニ發生ス其後部ニ發生スルモノハ多ク近  
視ニ見ル處ノ后葡萄腫之レナリ其中部ニ發生スルモノヲ赤道葡萄腫ト云ヒ赤道  
部ヨリ前方殊ニ毛様体部ニ發生スルモノヲ前葡萄腫ト云

原因鞏膜炎脈絡膜炎虹彩癒着等ノ爲ノ鞏膜菲薄トナリ加フルニ内壓亢進スル場  
合ニ發ス而シテ其症ハ多クハ慢性ニ著明ノ炎症ナク漸次ニ起ルヲ常トス又希ニ  
ハ炎症襲撃アリ結膜充血前額疼痛等ヲ併發スルイアリ

療法内壓亢進ヲ防クニ確實ナル方ハ虹彩切除アルノミ然レモ已ニ發育スル葡萄  
腫ニハ無益ナリ若シ外觀ヲ害スルモハ葡萄腫ヲ切開シ或ハ切除シテ壓迫綑帶ヲ  
施シ又ハ眼球摘出ヲ行フイアリ

(甲)后葡萄腫 一名后鞏膜脈絡膜炎

本症ハ最も多ク強度ノ近視ニ併發スルモノナリ

症狀自覺症狀(一)其輕度ナルモノハ輕度ノ近視ヲ訴フルニ過キスト雖モ強度ノ  
モノハ強度ノ近視ヲ訴フルト共ニ視力障害ヲ來シ例令相當ノ矯正眼鏡ヲ需メ  
トスルモ得ヘカラサルイアリ例エハ視力20/100ノモノ矯正眼鏡ヲ用テ20/40トナル  
モノレヨリ以上ハ矯正スルヲ能ワス之レ近視ノ外視力機能ヲ害セラル、徵候ニ  
ノ20/40ノ弱視トス(二)筋ノ疲勞外斜視眼火閃發彩視症小視症等ヲ發ス(三)葡萄腫若  
シ黃斑部ニ及ホサハ中心暗点ヲ訴フ

他覺徵候眼底ヲ檢スレハ乳頭ハ充血シ其特徵トスヘキハ乳頭ノ外側ニ密接シテ  
半月形ノ白斑ヲ爲スニアリ之レ脈絡膜ノ組織萎縮シテ鞏膜菲薄トナリ后方ニ向  
テ擴張膨突シ鞏膜ヲ通見スルニ由ルモノニ之レヲ名テ(コロニス)ト云フ(コロニ  
ス)ノ周圍部ニ於ケル網膜面ハ脈絡膜ノ色素層消失シテ顆粒シク脈絡膜血管ヲ認ム  
ルヲ多シ其狀恰モ木ノ枝ヲ積ミ重キタルカ如キ狀ヲナス而シテ(コロニス)ハ種々ノ  
狀況ヲ爲スモノニ(一)コロニスハ常ニ乳頭外側ニアリ其小ナルモノハ乳頭縁ニ  
密接スルモ少シク大ナルハ半月狀ヲ爲ス(二)漸次大ナルハ乳頭ヲ圍繞スルニ至ル  
然レモ多クハ黃斑部ニ向テ進行シ遂ニ三角狀ヲ爲ス(三)進行停止スレハ其境界判



然レレハ進行中ニアリテハ判明ナラス(四)色澤ハ白色ナルヲ常トス時トシテ帶青白色希ニハ赤色又ハ黄色ヲ呈ス(五)コーマスノ部ニ萎縮スル二三ノ血管ヲ有スルヲアリ或ハ色素ヲ認メ乳頭トノ境界部ニ点狀褐色ノ色素斑ヲ有スルヲアリ第三十六圖ノ如シ

合併症高度ノ近視トナルトハ中心性脈絡膜炎脈絡膜出血網膜剝離症硝子体融解等ヲ合併ス之レ惡性近視ニ見ル處ナリ

原因時トシテ先天性ニ來タルヲアリト雖モ多クハ后天性ニ發スルモノナリ殊ニ其原因トナルヘキモノハ近視眼(后葡萄腫ヨリ近視トナルヲアリ)ナリ而シテ近視眼ト后葡萄腫ノ關係ハ甚タ密ナリ由テ其論理ハ后條近視眼ノ部ニ於テ論述ス只爰ニ注意スヘキハ(コーマス)ノ大小ヲ以テ近視ノ度ヲ卜知シ得ヘシト云フコアリ

療法(一)停止性ノモノニハ適當ノ眼鏡ヲ與エ細業ヲ禁ス

(二)進行性ノモノニハ數週間廢業セシメ可成調節機ヲ靜止ノ状態ニ保タシメ沃刺ノ内服水銀膏ノ塗擦ヲ命ス危險ナル炎症ノ徵候アラハ患者ヲ暗室ニ置キ頭顱部ニ水蛭ヲ貼スヘシ

(ア)トロヒ子ハ諸家ノ信スルカ如キ効驗アルニアツス却テ障害ヲ招クイナキヲ保シカタシ何ントナレハ第一効驗少ナキヲ第二調節機ハ高度ノ近視ニアリテハ常ニ休態ニアリテ仕用セラレヌ由テ之レヲ用ユルノ必要ナシ第三内壓亢進スル弊アリ由リテ(エセリン)或ハ(ヒロカルヒン)ヲ數週間點眼スルヲ良トス

(乙)前葡萄腫 一名前鞏膜脈絡膜炎

脈絡膜ト共ニ鞏膜ノ前部發炎シテ鞏膜菲薄トナリ内壓ノ爲メニ膨起スルモノニシテ之レヲ急性亞急性慢性ノ三種ニ區別ス

症候(一)急性ノモノハ角膜周圍部ニ於ケル鞏膜ニ限局性ノ充血ヲ起シ劇甚ナル疼痛アリテ安眠ヲ妨ケ内壓亢進シ角膜モ其近接スル部ハ溷濁シテ所謂硬化性角膜炎ヲ生ス(二)亞急性ノモノハ凡テ急性性症ヨリ緩慢ニシテ疼痛劇甚ナラス局部ハ暗赤色ヲ呈シ角膜ノ溷濁ハ前症ノ如ク限局セシテ少シク平等ニ溷濁ス周圍充血モ亦平等ニ劇甚ナラス(三)慢性ノモノハ炎症狀ナク即チ疼痛ノ如キモ背陰性ニ虹彩癒着等ノ如キ症ニ續發性内壓亢進ノ爲メ局部膨脹シ帶青白色ヲ呈スルモノニシテ殊ニ角膜周圍ニ近接スル部ニ發スルヲ多シ



經過ハ緩慢ニシテ預后不良ナリ

原因ハ腺病、癩質、私痛、風等其因トナルコトアリ或脈絡膜炎、上登膜炎、毛様体炎、虹彩  
癩着症等ヨリ續發ス凡ス鞏膜菲薄トナル場合ニ於テ内壓亢進スルニ由ル者ナリ  
療法急性期ニアリテハ亞水ヲ点眼シ温罨法ヲ施シ癩質斯性ノモノニハ沃刷湯  
曹等ヲ與エ(ヒロカルヒン)水ヲ皮下注射シ或ハ下劑ヲ與エ劇甚ノ疼痛ニハ(モロヒ  
チ)ノ注射又ハ頓服或ハ安質必林ヲ良トス颞顳部ノ水蛭其他内壓亢進ニハ虹彩切  
除法ヲ施ス

其他鞏膜ノ疾病トシテハ鞏膜外傷及ヒ護膜腫結核結節癩等ヲ發スルコトアリト雖  
モ概シテ希ナリ

### 第九章 眼瞼諸病

(一) 眼瞼皮膚ノ炎症 其表部ヲ犯スモノハ

- 濕疹 丹毒 紅斑 ヘルペス 其ノ深部ヲ犯スモノハ 眼瞼膿瘍
- 癩痘 惡性膿疱疹 浮腫 氣腫 皮下溢血 眼瞼潰瘍
- (二) 眼瞼腫瘍ハ 單性軟瘤 傳染性軟瘤 粟粒疹 血管腫 癌腫 肉腫

### (三) 險縁疾患

充血 脂漏

濕疹一名眼瞼縁炎

濕疹本症ハ極メテ多ク實地家ニ尤モ必要ニシテ初メ適當ノ治法ヲ施スルハ能ク全  
治スルモ怠ルルハ外見ヲ害スルニ至ル宜シク注意スヘシ通常之レヲ眼瞼縁炎ト  
云フ

症候眼瞼縁發赤シテ表面少シク糜爛濕潤シ痂皮ノ睫毛ヲ纏絡スルモノ之レヲ單  
性眼瞼縁炎ト云ヒ其ノ外眥ニ限局スルルハ外眥性眼瞼縁炎ト云ヒ險縁ニ黃痂ヲ  
生シ睫毛ヲ結束シ強テ之レヲ剝離セハ出血ス而シテ痂下ニハ小潰瘍或ハ膿瘍ヲ有  
スルルハ之レヲ潰瘍性眼瞼縁炎ト云フ之レ尤モ多ク見ル處ノモノナリ其癩痕肥  
厚セハ之レヲ胼胝硬變ト云フ終ニ睫毛全ク脱落スルコトアリ然ルルハ睫毛禿ト云  
フ預后ハ敢テ不良ト云フニアラス經過ハ甚タ緩慢ナリ

原因ハ小兒ニ尤モ多シ大人モ亦之レニ罹ルコトアリ殊ニ腺病性ノ人或ハ淚囊炎ア  
ルハニ多シ

療法腺病性ナレハ肝油沃度劑鉄劑等ヲ與エ淚囊炎アレハ其所置チナスベシ普通  
用ニ所ノ法ハ硼水ノ温罨法ニ兼テ黃降ワセリン或ハ硼酸ワセリンヲ一日數回塗



擦シ鉛糖水ノ冷罨法モ亦宜シ極メテ頑固ナルモノニハ睫毛縁ヲ切除スルノ必要アリ

(四) 瞼腺ノ疾病

(イ) 麥粒腫症候 本症ハ恰モ節痘ノ如キ炎症ヲ發スルモノニシテ其發炎スヤ急性劇甚ニシテ疼痛甚シ瞼縁ノ一部ニ赤色ナル硬結ヲ呈スルヲ常トス其ノ發炎甚シキハ腫起四方ニ蔓延ス然ルニ稀ニハ炎症自然ニ消失スルヲアリ然レモ多クハ化膿シテ外部ニ破潰シ頓ニ疼痛止ム以上症狀ハ主トシテ外部ニ顯ワルモノナリ而シテマイホーム氏腺モ亦稀ニ急性炎症ニ罹リ本症ト類似ノ狀況ヲ呈スルヲアリ然ルルハ之レヲ内麥粒腫ト云ヒ以テ本症ノ對稱トス

原因ハ多クハ春機發動期ニ發ス之レ睫毛脂腺ノ閉塞ニ由ルモノナリ

療法 温罨法ヲ施スルハ自然ニ消退スルヲアリト雖モ多クハ化膿ス然ルルハ尙ホ温罨法ヲ施シテ切開スヘシ然ル后チ白降汞和世林礬酸和世林等ヲ塗擦シ礬水又ハ昇水等ノ濕布綳帶ヲ良トス

(イ) 霰粒腫 本症ハマイホーム氏腺ノ慢性炎症ニシテ硬固ナル圓形腫瘍ヲナシ次第ニ増大シテ豌豆大ニ達シ初期ハ毫モ炎症ナク或ハ之レアルモ極メテ僅微ニシテ患者自ラ知ラサルヲ常トス該腫瘍ハ軟骨ノ上ニ座シ爲メニ皮膚ハ移動スルモ結膜ハ充血肥厚シテ少シク隆起シ暗褐赤色又ハ灰白色ヲ爲シテ破開ス破開セハ溷濁セル粘液膿狀ノモノヲ漏シ其内面ハ肉芽組織ヨリ成リ時トシテ破開部ヨリ出テ息肉腫狀ヲ爲ス

原因ハマイホーム氏腺ノ閉塞シテ起ルモノニシテ殊ニ高齢ノ人ニ多ク發スルモノナリ時トシテ一時ニ數個ヲ發スルヲアリ

療法 結膜面ヨリ切開シ銳匙ニテ内容物ヲ除去シ后防腐劑ノ点眼藥ヲ與エテ足レ

(五) 眼瞼筋層ノ疾病

(イ) 眼瞼瘻瘡症 本症ハ眼瞼輪匠筋ノ痙攣ニシテ其狀況ニ由リ二種ニ區別ス眼ノ刺戟症即チ異物睫毛乱生角膜潰瘍(ブルクタン)結膜炎眼瞼緣炎等ト同伴スルモノニシテ眼裂ノ開閉頻發スルモノ之レヲ瘻瘡症ト云フ瘻瘡症ニ開閉シ或ハ瘻瘡持長シテ固ク閉鎖シ前症ノ如キ症候的トシテ來ラス而シテ其瘻瘡ハ獨リ眼筋ニ止



マラスシテ顔筋及ヒ頸筋ニ波及スル者多シ之レヲ特發性痙攣症ト云フ

原因甲ハ刺戟症狀ヲ有スル眼病ニ經發スルモノニ乙ハ神經性ノ婦人ニ來ル又ハ老人ニ多シ又口腔及齒牙ノ疾病ニヨリ反射的ニ來タルコアリ

療法甲ハ某原因タル眼疾ヲ治スルニアリ乙ハ知覺神經ノ壓点ヲ索メテ指壓ヲ加ヘ以テ痙攣頓止スルヤ否ヲ試ミ之レヲ止ムルコトヲ得ハ反射ノ原ヲ絶ツコトヲ得ベシ

上眼窩神經ノ壓点ヲ壓シテ頓止セハ其神經切除法ヲ施スベシ潰瘍及ヒ癩痕ヨリ來ル疑ヒアレハ之レガ治ヲ施スベシ齒牙ヨリ來レハ之レヲ拔齒シ交感性神經

症トナリテ來レハ其原因タル眼病ヲ摘出スベシ軟口蓋ノ潰瘍ヲ治療シテ本症ヲ治癒セシメタルハ(グレイフエ)氏ノ有名ナル一事ナリ其他電氣療法ヲ施ス

(ロ)眼瞼輪匠筋麻痺ハ顔面神經ノ麻痺ニ眼瞼ヲ閉鎖スル能ハサル爲ニ眼球露出シテ所謂鬼眼トナル結膜及ヒ角膜炎症或ハ潰瘍ニ罹リ易シ經久治セサルハ

外翻症ニ陥ル

療法ハ顔面神經ノ治療ヲ行ヒ眼ハ保護細帶ヲ施シ角膜ノ危險ヲ豫防シ若シ久シク治セサルハ第三十七圖ノ如ク眼瞼軟骨縫合術ヲ施スベシ其ノ式ハ上下瞼縁

ヲ外眥ニ於テ大凡三四密縫切除シテ其創面ヲ縫合スベシ

(ハ)上眼瞼下垂症ハ眼瞼舉筋ノ麻痺ニ眼瞼下垂シテ眼球ヲ覆ヒ其強キモノハ殆ント全ク閉鎖ス手ヲ以テ之レヲ舉ケサレハ上舉セス而シテ患者ハ常ニ額筋ノ力ヲ借テ以テ其上舉ヲ務ムルカ故ニ眉弓高舉シテ額ニ數多ノ皺壁ヲ横エ尙ホ額ヲ仰キテ物ヲ見ル

原因(一)舉筋ノ麻痺ハ動眼筋麻痺ノ一症トナリテ來ル(二)舉筋先天性發育不全(三)結膜疾病ノ症候的トシテ來ル(四)壯年中肥滿セル人高齡ニ達シ上眼瞼下垂スルコトアリ如此モノヲ脂肪性下垂症ト云フ

療法動眼神經ノ麻痺ハ主トシテ梅毒ヨリ來ル由テ梅毒療法ヲ施スベシ神經亢奮劑トシテストロキニーチノ皮下注射ヲ行フ本症ハ專ラ手術ニ依ラサルベカラス然ルモハ復視ノ有無ヲ檢シ復視アレハ手術ノ結果トシテ眼瞼舉上セハ返テ患者ニ不快ヲ與フルコトアリ注意スベシ

手術術式ニ數法アリト雖モ左ニ緊要ナル二三ノ術式ヲ掲ケンニ

(一)グレイフエ氏ノ法ハ眼縁ノ上方三四密ノ部ニ於テ縁ニ併行シテ横皮切ヲナシ



其上部ニ尙ホ一切線ヲナシ半月形ノ皮膚ヲ切除シ其創口ニ於テ銳鈞鑷子ヲ以テ輪匠筋ノ一部ヲ撮ミ之レヲ剪除シ而シテ后チ皮膚ト筋層ヲ同一ニ縫合スルモノナリ

(二)バグンステツヘル氏法ハ第三十八圖ノ如ク糸ノ兩端ニ各一針ヲ通シ兩針共ニ

脰線ヨリ皮下ヲ通シテ眉弓上ニ貫出シ(イ)管ヲ置テ結紮シ自然化膿ヲ待ツベシ

(三)ウヅケル氏ハ第三十九圖ノ如クバケンスタツヘル氏ノ法ヲ改良シテ(グ)レフ

エ氏ノ如キ脰上ノ皮膚ニ半月形ノ(イ)ナル創口ヲ造リタルモノナリ

(四)バナ氏法ハ右三氏ノ法ニ比スレハ奏効確實ナリ殊ニ高度ノ下垂症ニ適ス其法

ハ第四十圖ノ如ク上脰ノ皮膚ニ兀字形ノ切線ヲ下シ眉毛上一横切線ヲ作り眉

毛ノ皮下ヲ剝離シ豫シメ糸ノ兩端ニ各針ヲ通シ置キ其兩針ヲ(イ)ニ貫キ眉毛下ヲ

通シテ(ロ)ニ縫合シ后チ治スルルハ額筋ノ力ニ依リテ脰上ヲ舉上シ得ルニ至ルナ

(六)脰裂ノ疾病

先天性ニ來ルモノハ

内眥贅皮 脰欠損症 后天性ニ來ルモノハ 脰裂縮小 脰線癒著

鬼眼

(七)睫毛變位

亂毛症ハ脰遊離線ノ位置ニ變常ナリ(ア)レハ内外瞼症ヲテ睫毛ノ方向ニ變常ヲ

來シ眼球面ニ向テ發生スルモノニシテ睫毛不正不規則ノ方向ヲ取ルモノ之レヲ

睫毛亂生症ト云フ睫毛二列ヲナスモノ之レヲ睫毛重生症ト云フ

症候亂生症ノ睫毛ハ其内方ニ向フモノハ成長不全ニ萎縮シ毛幹短且ツ小ナリ

其ノ色灰白色ヲナス劇症ニアリテハ外方ニ向フモノモ亦一同ノ状態ヲナシ終ニ

ハ全ク脱失ス余ノ經驗ニ由レハ重生症ノモノハ比較的毛幹大ニシテ健康ナリ睫毛

ノ刺戟ニ由リ恐ルヘキ疾病殊ニ角膜炎瀰濁、パノプス、潰瘍等ヲ發ス自覺症ハ睫毛

ハ一般ノ刺戟トナリ羞明流淚等アリテ患者ハ常ニ其煩ニ堪エス

原因第一原因トナルモノハ(ト)ラホーニシテ結膜ノ癢痕ニ由リ睫毛ヲ亂生セシ

山眼脰線炎又ハ慢性結膜炎

療法(一)睫毛攝子ヲ以テ拔去ス然レモ再生スルカ故ニ一時ハ快清ヲ感スルモ再生